

男女共同参画に関する市民アンケート 結果報告書



「男女共同参画社会づくり」ポスターコンクール
令和5年度 最優秀賞
川岸小学校5年 加賀山 侑那さん

令和6年1月

岡谷市

(企画政策部地域創生推進課)

男女共同参画に関する市民アンケート

目次

■ 調査の概要	1
■ 調査結果	
1 回答者の属性	2
2 調査結果の分析	9
(1) 男女の役割や地位に関する意識について	9
(2) 家庭生活での男女の役割について	25
(3) 結婚・家庭に対する意識について	28
(4) 女性が仕事をする事に関する男女の意識について	37
(5) 地域活動における男女共同参画の状況について	45
(6) 男女がともに社会に参加するために重要なこと	53
(7) 男女の人権について	55
(8) 男女共同参画に関する言葉や法律の認知度	63
(9) 男女共同参画社会実現のために望むこと	73
【意見・要望】	75
■ 資料編	80

調査の概要

調査の概要

1 目的

この調査は「岡谷市男女共同参画条例」第10条の規定に基づき、「男女共同参画おかやプランⅦ（令和7～11年度）」の策定に向けて、市民の男女共同参画に対する考え方の傾向を把握することを目的として実施する。

また、これまでに実施した調査結果をもとに、市民の意識の推移を考察する。

2 内容

(1) 調査時点 令和5年8月

(2) 調査期間 令和5年8月18日～令和5年9月20日

(3) 調査対象、調査内容

調査対象	主な調査内容
市内在住の満18歳以上の男女1,000人 (岡谷市の人口構成に応じて、性別、年齢別に無作為抽出)	<ul style="list-style-type: none">男女平等に関する意識について家庭生活について仕事について地域活動について男女の人権について男女共同参画に関する施策について

(4) 調査方法 郵送（無記名）

3 アンケート回収状況

475人（回収率 47.5%）

（参考）アンケート回収状況の推移 単位：件

年度	送付	回答	回収率
H20	1,000	422	42.2%
H25	1,000	437	43.7%
H30	1,000	479	47.9%
R5	1,000	475	47.5%

4 調査データを利用する際のルール

- 最大回答数を超過して回答された設問は、無効扱いとする。
- 割合を出す際は小数点第2位を四捨五入するため、百分率の合計が100%にならない場合がある。
- 複数回答を求める設問では、割合を出す際は回答者数を分母とするため、百分率の合計が100%を超えることがある。
- 10代の回答がほとんど無いため、20代に含めて考察する。

調 査 結 果

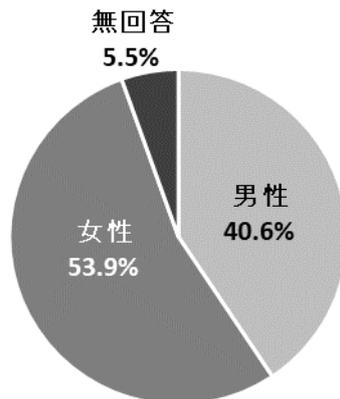
調査結果

1 回答者の属性

回答者における男女の割合は女性の方が13.3%多くなっている。

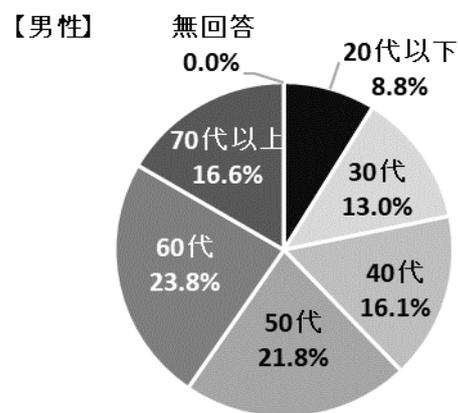
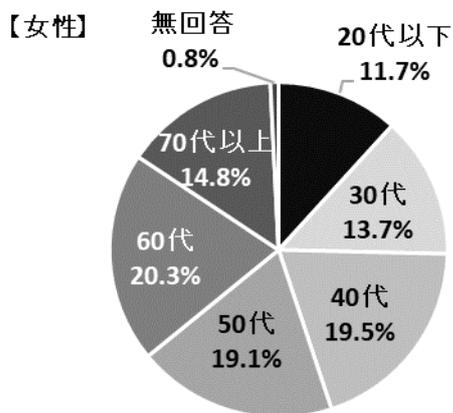
年代別では、10代～20代の回答が少なく、50代～70代以上が半数を占めるため、若い層の傾向より、50代～70代以上の傾向が強く反映されているものと考えられる。

■ 性別



性別	回答数	割合
男性	193	40.6%
女性	256	53.9%
無回答	26	5.5%
総数	475	

■ 年代



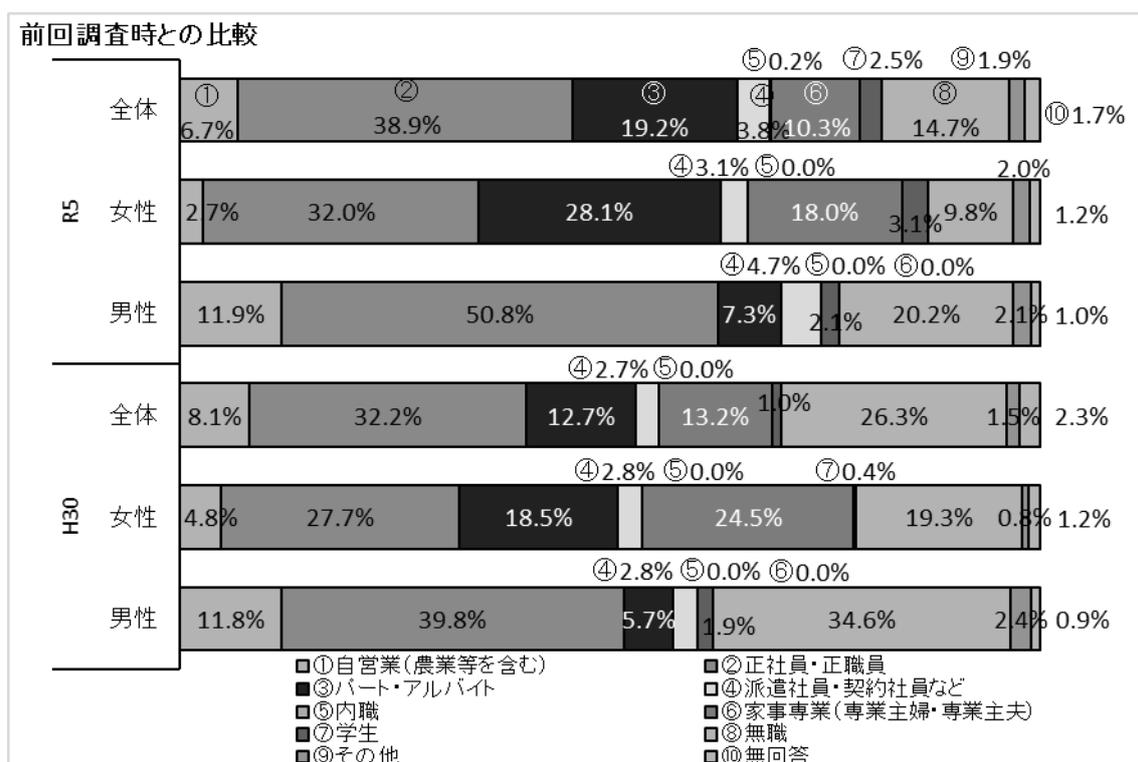
▼年代別（無回答のものを除く）

	女性		男性	
	回答数	割合	回答数	割合
20代以下	30	11.7%	17	8.8%
30代	35	13.7%	25	13.0%
40代	50	19.5%	31	16.1%
50代	49	19.1%	42	21.8%
60代	52	20.3%	46	23.8%
70代以上	38	14.8%	32	16.6%
無回答	2	0.8%	0	0.0%
総数	256	100.0%	193	100.0%

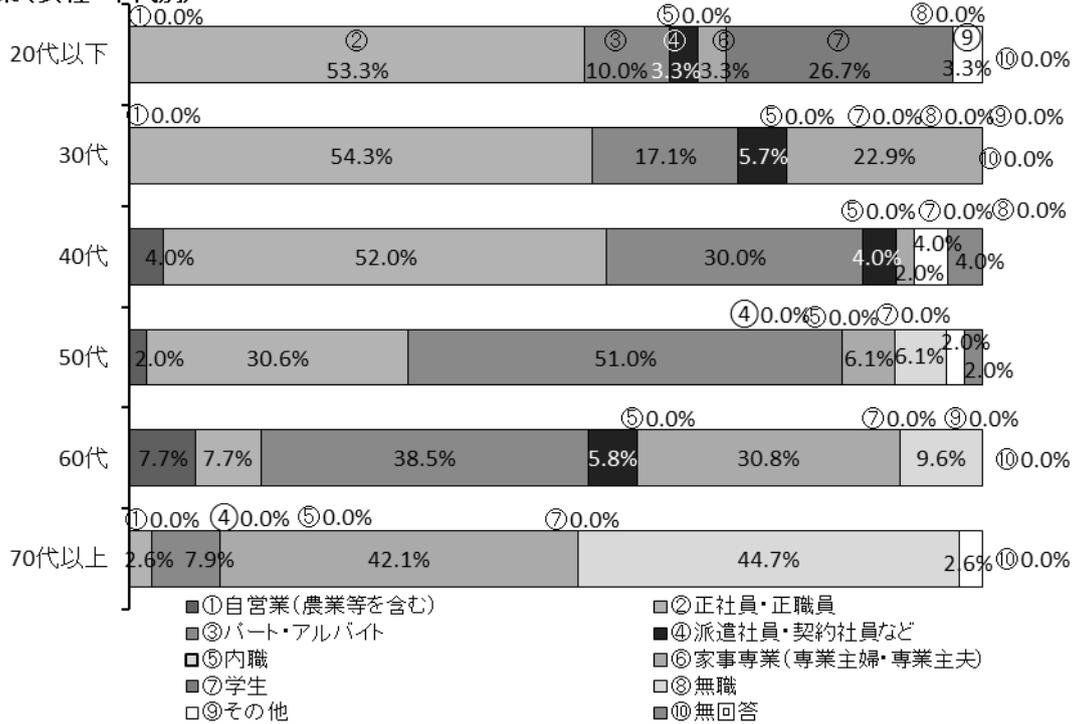
■ 職業の状況

全体では「正社員・正職員」38.9%、「パート・アルバイト」19.2%が半数以上を占めており、前回（「正社員・正職員」32.2%「パート・アルバイト」12.7%）よりもどちらも増えている。特に男性の「正社員・正職員」が11.0ポイント増えている。一方、「無職」が全体で11.6ポイント減っている。このことから男女とも仕事に従事している人が増えていると考えられる。

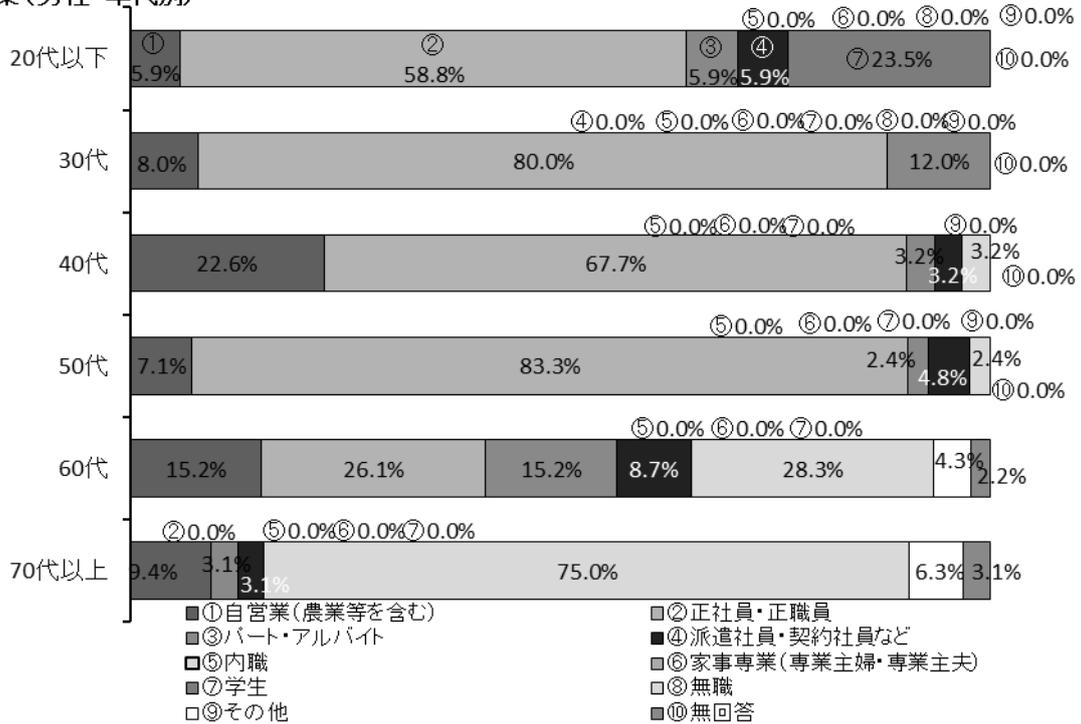
なお、男性の6割以上が「自営業（農業等を含む）」、「正社員・正職員」であるのに対し、女性は、「正社員・正職員」に次いで「パート・アルバイト」も多くなっているほか、「家事専業」も多い。



職業(女性・年代別)



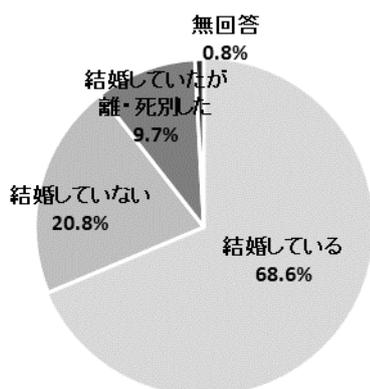
職業(男性・年代別)



■ 結婚の状況

「結婚している」と回答した人は、68.6%であった。年代別でみると、「結婚している」は60代が一番多く、「結婚していない」は20代以下が多い。

なお、「既婚（死別・離別）」と回答した人は、50代、70代以上の人が多い。女性では、「既婚（死別・離別）」と回答した人が12.5%で、男性の6.2%と比べると6.3ポイント多い。

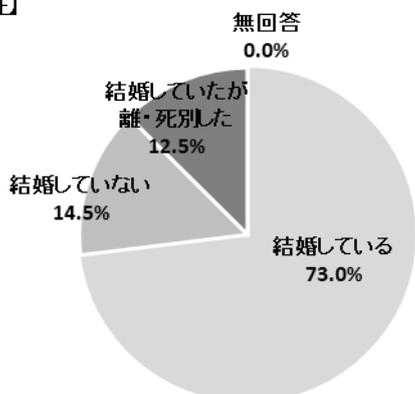


結婚	回答数	割合
結婚している	326	68.6%
結婚していない	99	20.8%
結婚していたが離・死別した	46	9.7%
無回答	4	0.8%
総数	475	

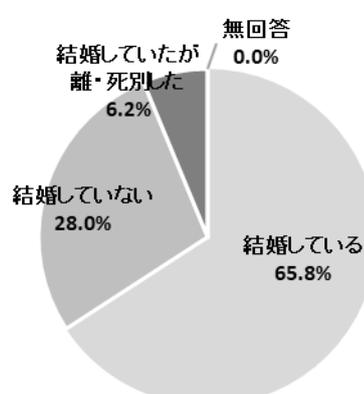
▼年代別（無回答のものを除く）

		回答数	結婚している	結婚していない	結婚していたが離・死別した
合計		471	69.2%	21.0%	9.8%
年代	20代以下	48	20.8%	79.2%	0.0%
	30代	62	69.4%	29.0%	1.6%
	40代	84	76.2%	15.5%	8.3%
	50代	93	69.9%	15.1%	15.1%
	60代	104	81.7%	13.5%	4.8%
	70代以上	78	73.1%	2.6%	24.4%

【女性】

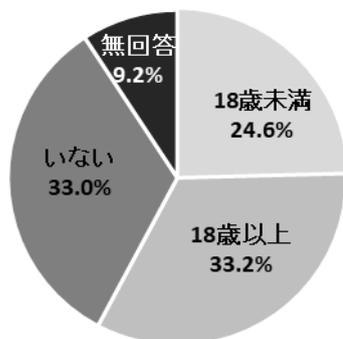


【男性】



■ 子どもの状況

「子どもがいる」と回答した人は、57.8%と半数以上であった。特に40代、50代、60代で「子どもがいる」と回答した人が多く、50代以上では18歳以上の子どもが多い。



※複数回答あり

子ども	回答数	割合
18歳未満	120	24.6%
18歳以上	162	33.2%
いない	161	33.0%
無回答	45	9.2%
総数	488	

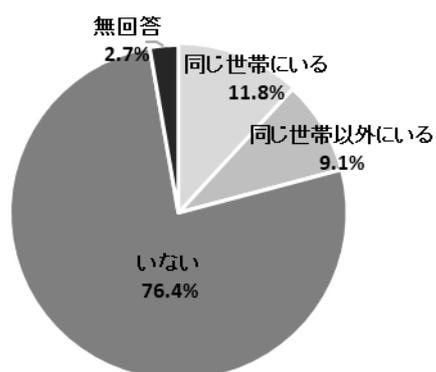
▼年代別（無回答のものを除く）

		回答数	18歳未満の子 どもがいる	18歳以上の子 どもがいる	いない
合計		443	27.1%	36.6%	36.3%
年代	20代以下	41	17.1%	0.0%	82.9%
	30代	59	66.1%	1.7%	32.2%
	40代	84	63.1%	16.7%	20.2%
	50代	89	21.3%	52.8%	25.8%
	60代	98	1.0%	58.2%	40.8%
	70代以上	70	1.4%	60.0%	38.6%

■ 介護の状況

「介護が必要な人がいない」と回答した人は7割を超えている。

「介護が必要な人が同じ世帯にいる」、「介護が必要な人が同じ世帯以外にいる」と回答した人は、50代、60代、70代以上に多い。



介護が必要な人	回答数	割合
同じ世帯にいる	56	11.8%
同じ世帯以外にいる	43	9.1%
いない	363	76.4%
無回答	13	2.7%
総数	475	

▼年代別（無回答のものを除く）

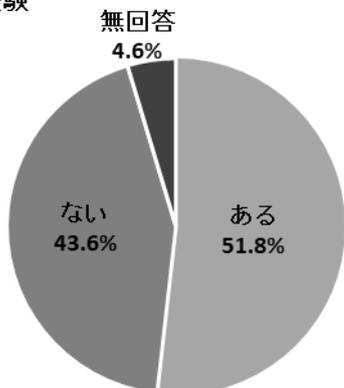
		回答数	同じ世帯 にいる	同じ世帯以外 にいる	いない
合計		462	12.1%	9.3%	78.6%
年代	20代以下	48	6.3%	6.3%	87.5%
	30代	62	9.7%	1.6%	88.7%
	40代	84	9.5%	7.1%	83.3%
	50代	89	15.7%	13.5%	70.8%
	60代	102	10.8%	16.7%	72.5%
	70代以上	75	18.7%	4.0%	77.3%

■ 離職の経験

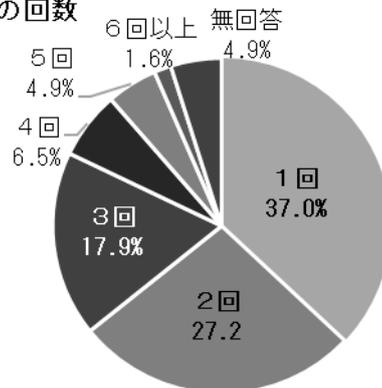
全体の半数以上で離職経験があると回答している。

特に女性では7割近く離職経験があり、その理由としては、結婚（22.1%）、出産・子育て（36.2%）によるものが多い。

離職の経験

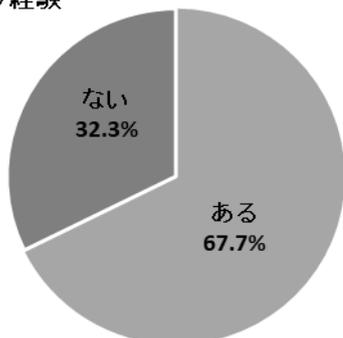


離職の回数

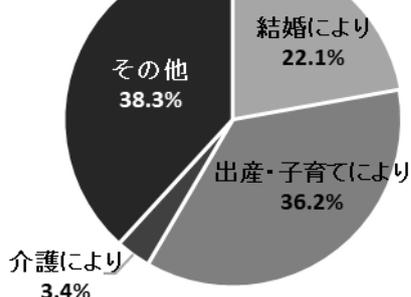


【女性】

離職の経験

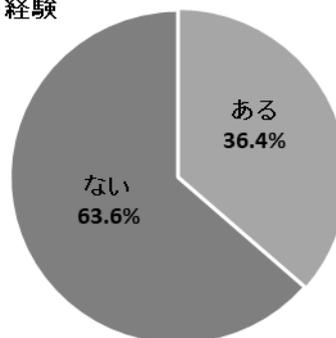


離職の理由

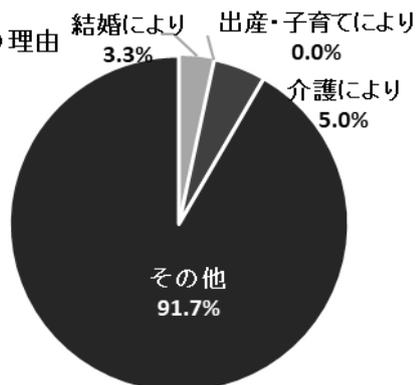


【男性】

離職の経験



離職の理由



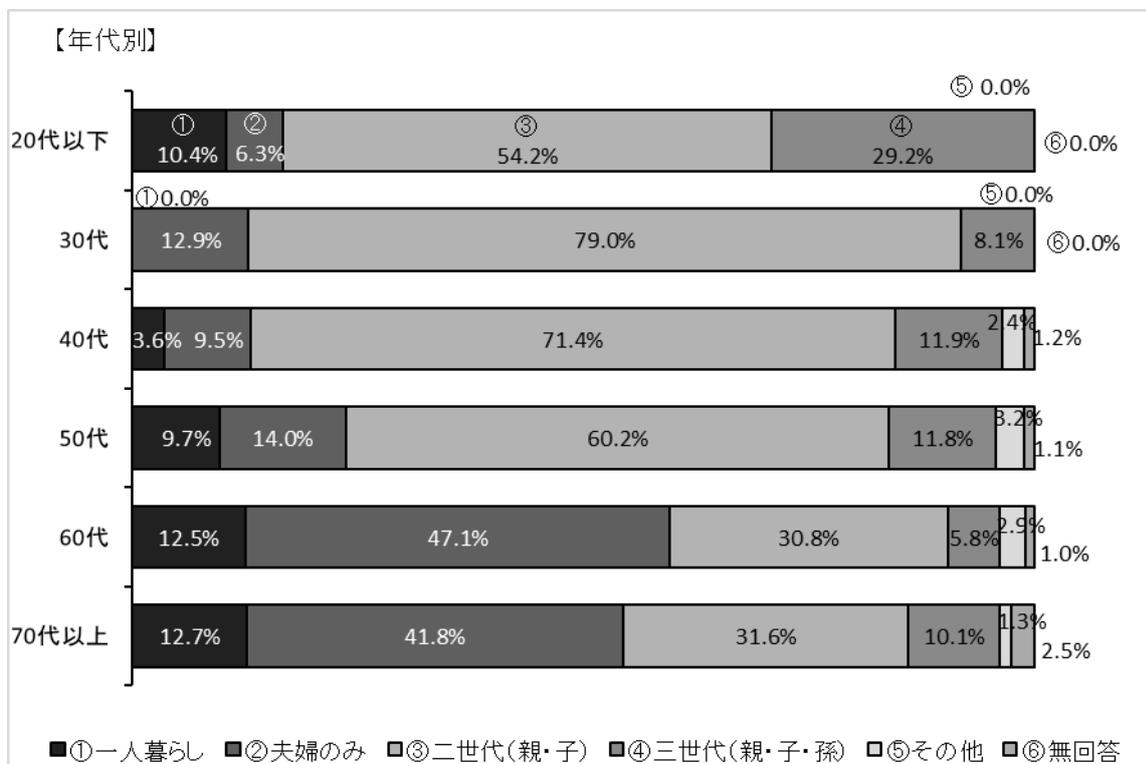
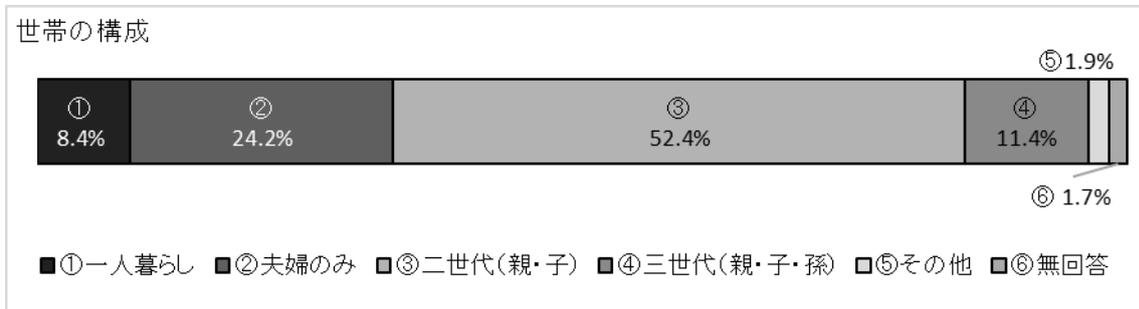
▼年代別（無回答のものを除く）

		回答数	ある	ない
合計		453	54.3%	45.7%
年代	20代以下	46	19.6%	80.4%
	30代	61	54.1%	45.9%
	40代	80	67.5%	32.5%
	50代	90	57.8%	42.2%
	60代	102	64.7%	35.3%
	70代以上	72	43.1%	56.9%

■ 家族構成

二世世代世帯が多く全体で52.4%となっている。

三世世代世帯は、若い世代に多く、年齢が高くなると夫婦のみ世帯が多くなっている。



2 調査結果の分析

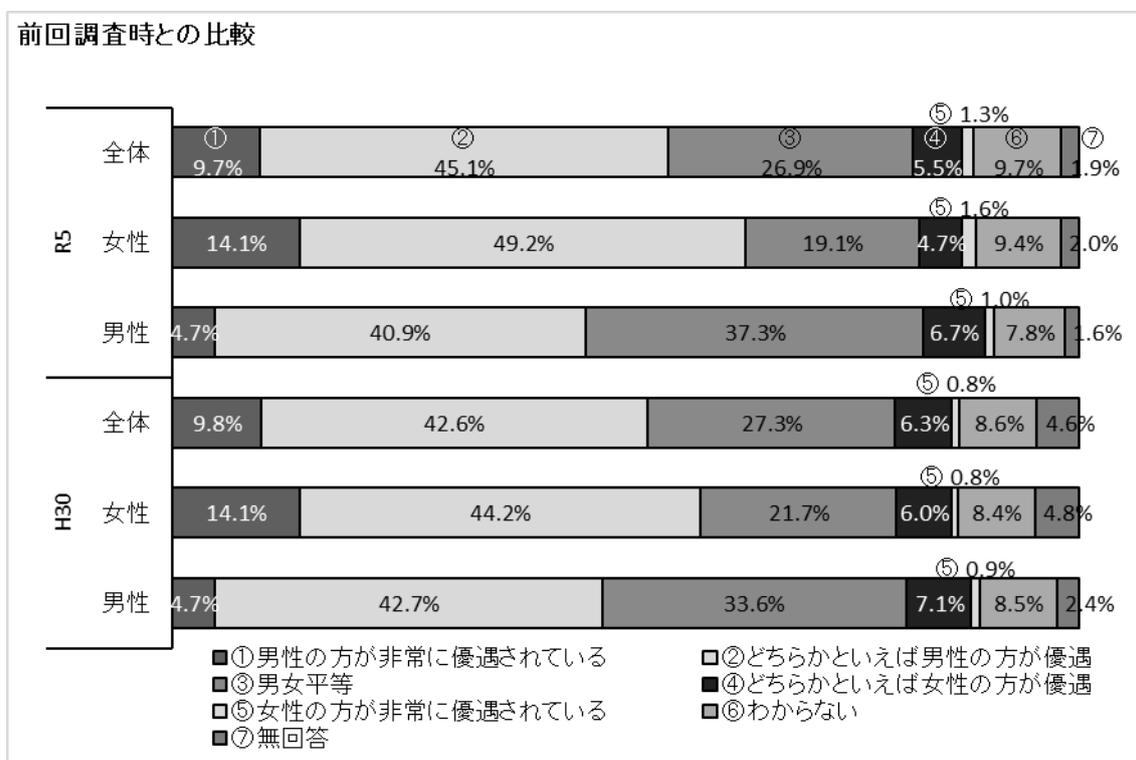
(1) 男女の役割や地位に関する意識について

■ 家庭生活

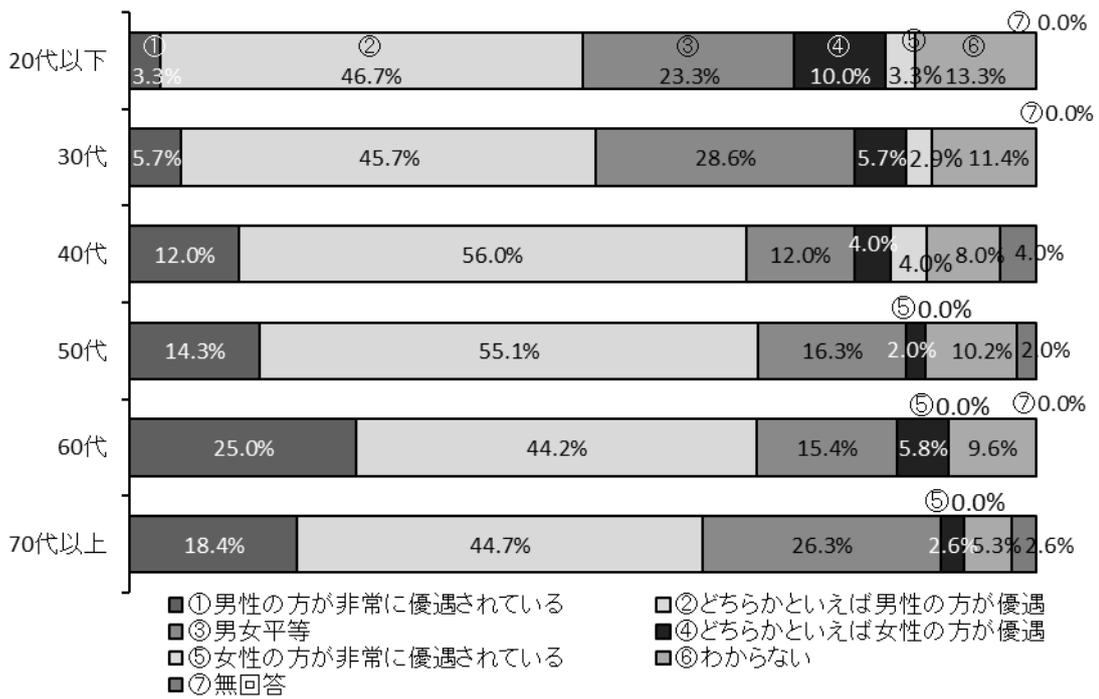
全体では、「男女平等」と回答した人は、26.9%であり、前回(27.3%)から0.4ポイント減っている。性別で見ると、女性は19.1%(前回21.7%)、男性は37.3%(前回33.6%)と前回に比べ、男性では増えているが、女性は減っている。

また、「男性の方が優遇されている」と感じている人が、全体の半数以上いるが、特に女性は多い結果となった。

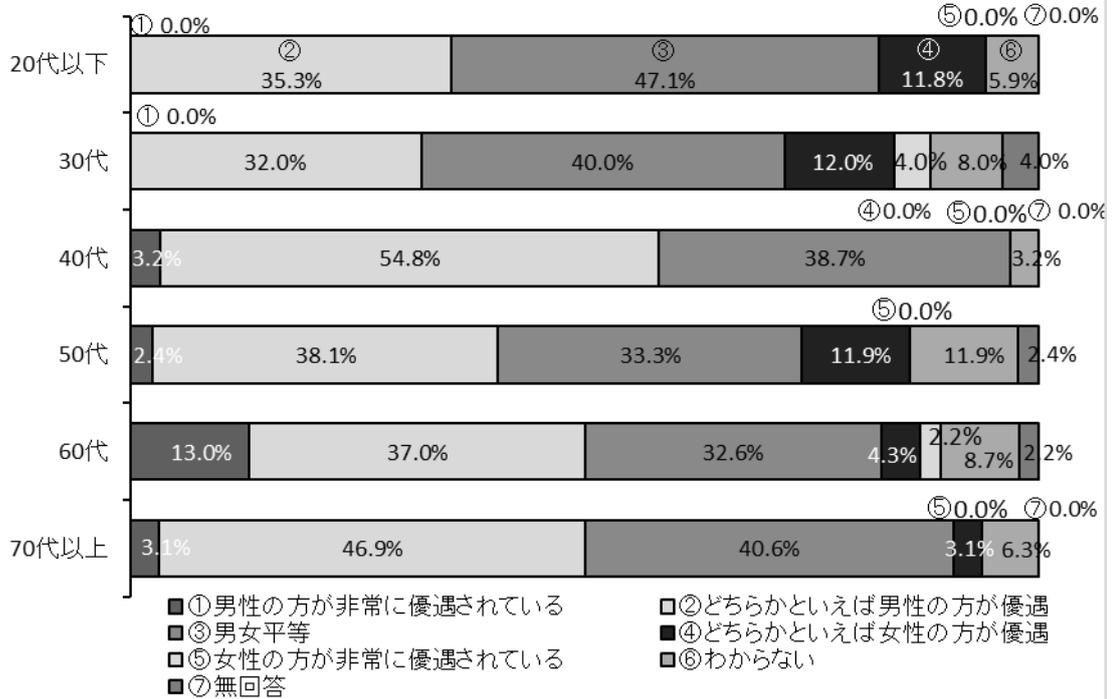
年代別で見ると、女性のすべての年代で「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答している人が5割を超えている。



【女性】



【男性】



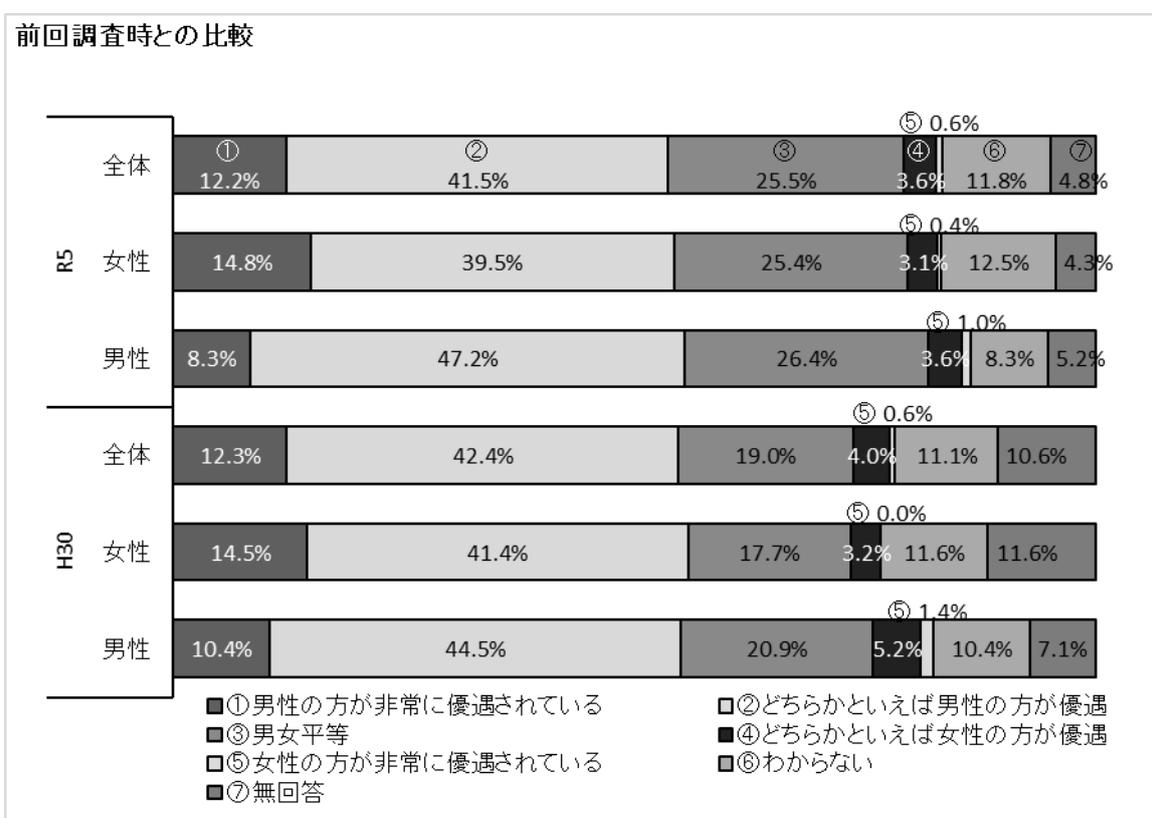
■ 職 場

「男女平等」と回答した人は、男女とも増えて全体で25.5%となり、前回（19.0%）より6.5ポイント増えた。「男女平等」と回答した人が最も多い年代は、女性では30代（37.1%）、男性では60代（34.8%）であった。

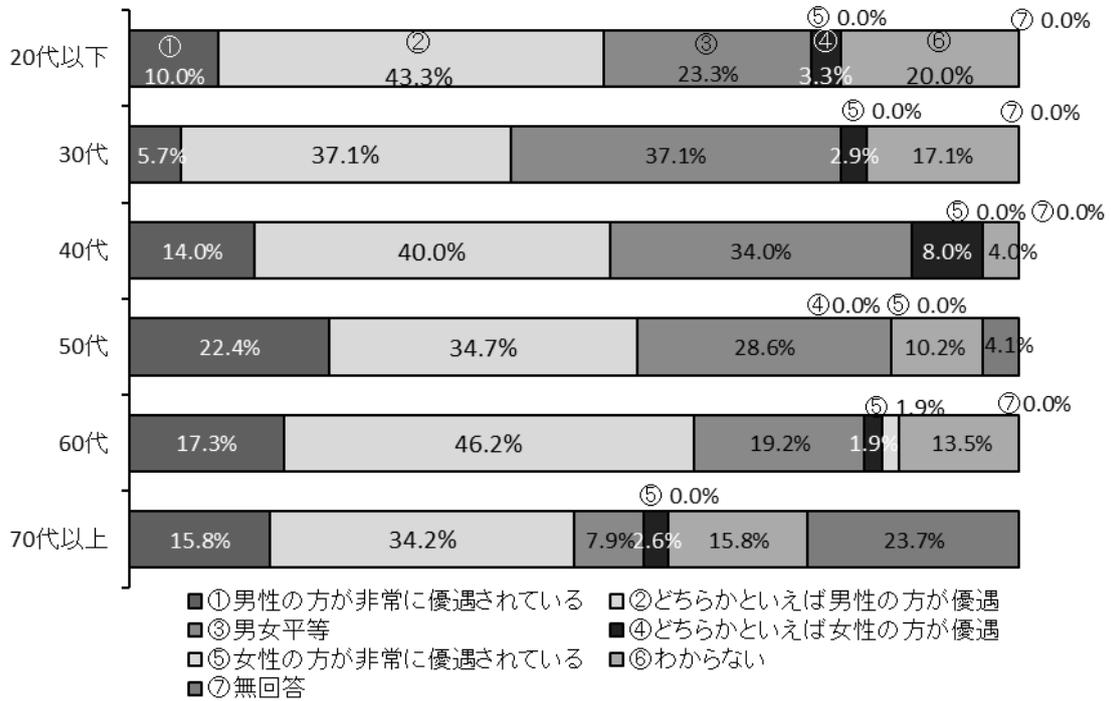
しかし、全体では依然として「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した人が5割を超え、不平等感がある。

なお、女性の60代、男性の40代、50代で、「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した人が6割を超えている。

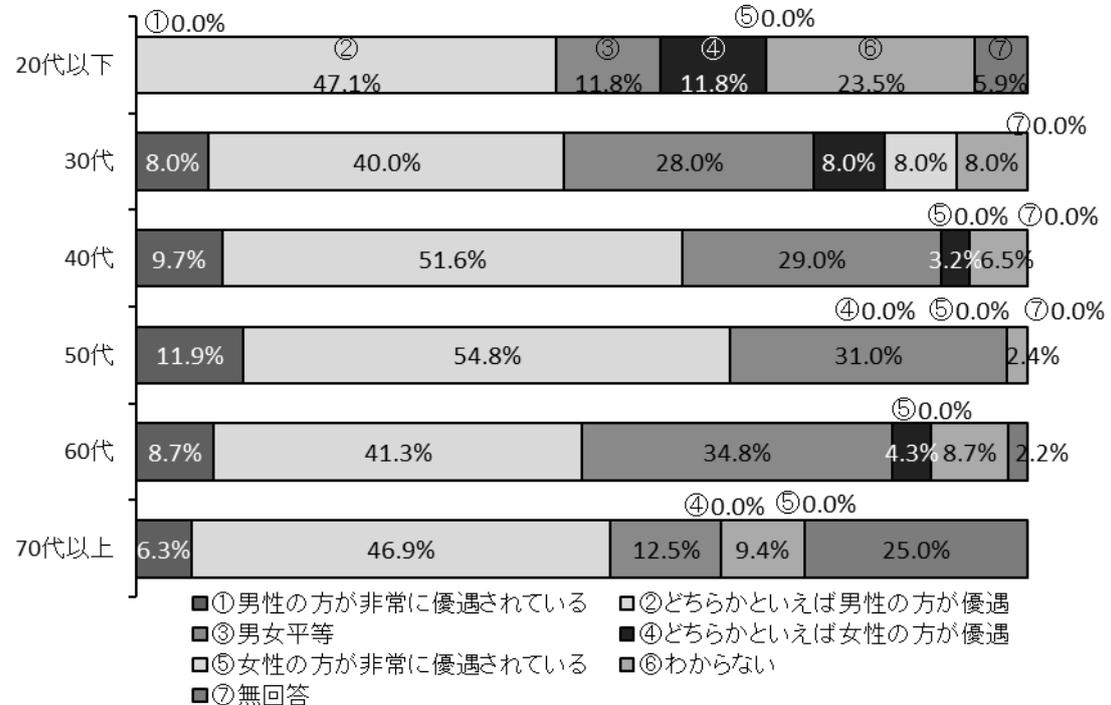
男性の20代では、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と回答した人がどの年代よりも多く11.8%となっている。



【女性】



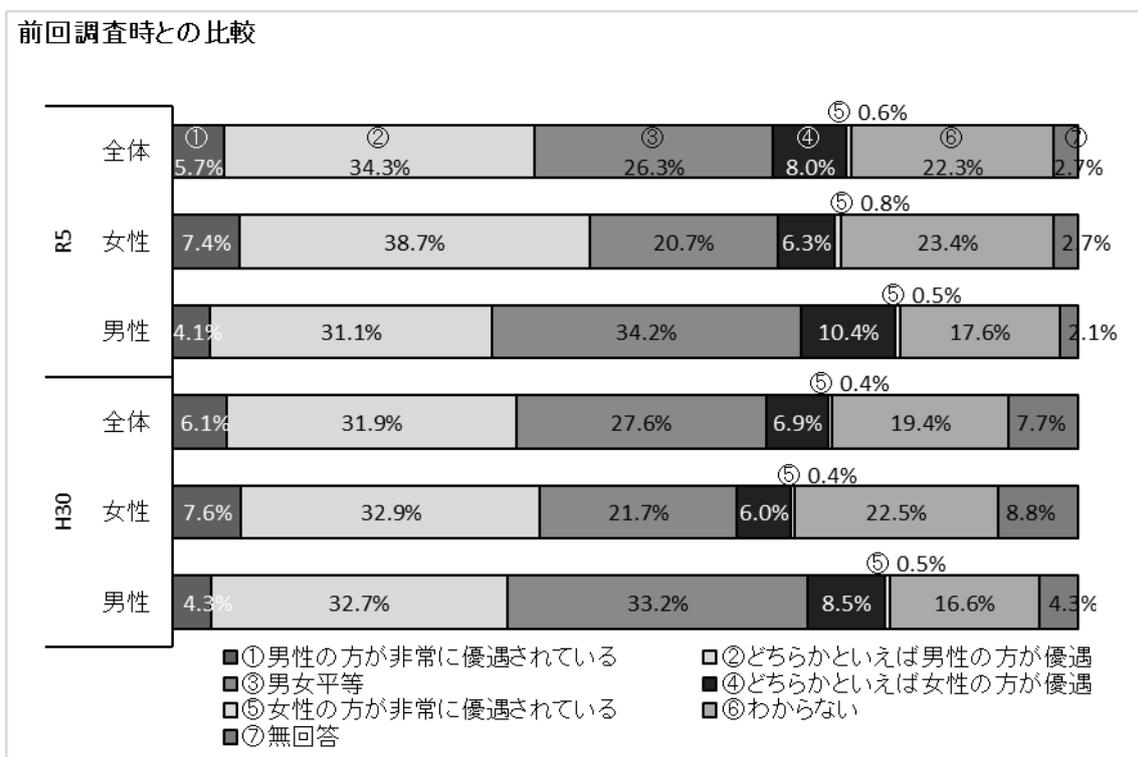
【男性】



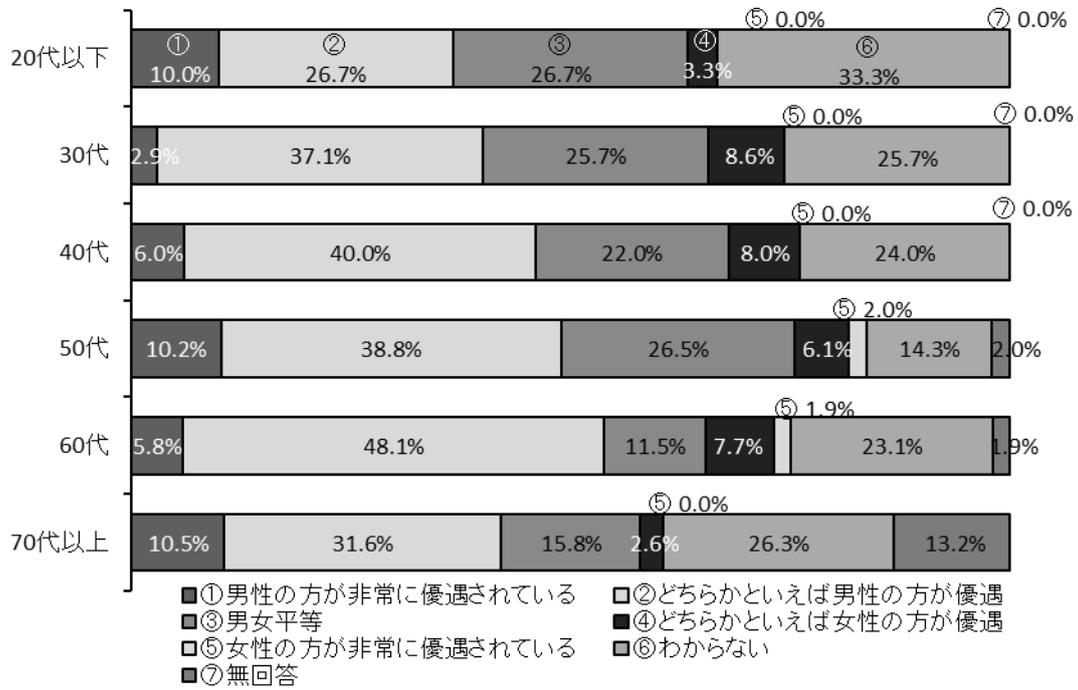
■ 地域活動

全体では、「男女平等」と回答した人は、26.3%であり、前回（27.6%）から1.3ポイント減っている。「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した人は前回と比べて2.0ポイント増えており、依然として不平等感がある。一方で、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」、「女性の方が優遇されている」と回答した人は前回と比べて1.3ポイント増えている。

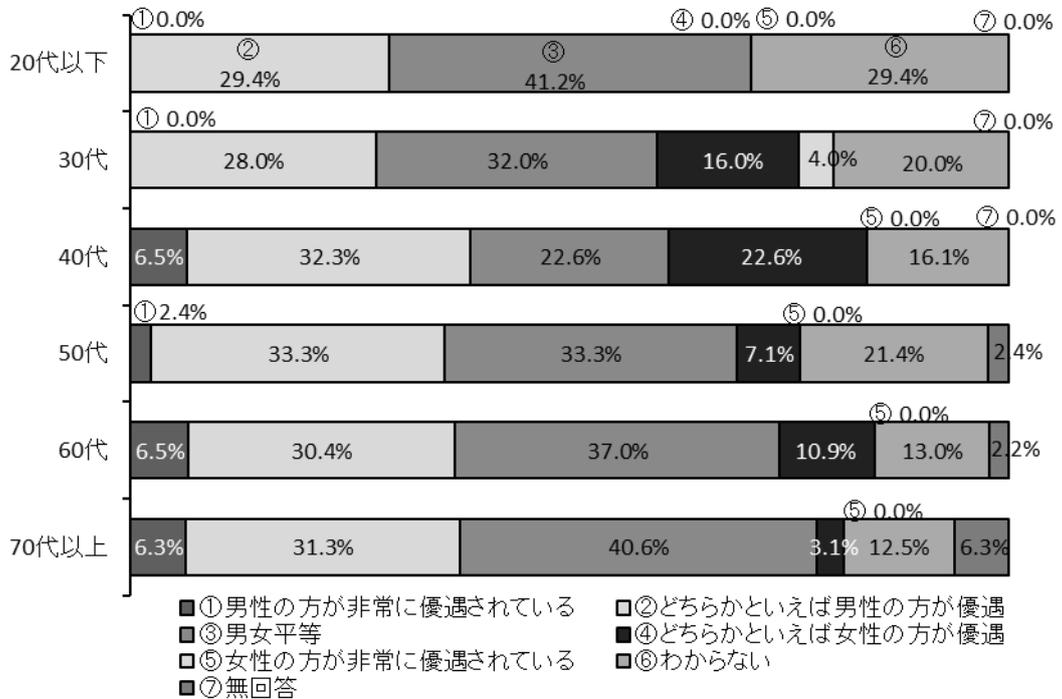
「わからない」と回答した人が、男女とも20代に多く、この年代では、地域とのかかわりが少ない可能性がうかがわれる。



【女性】



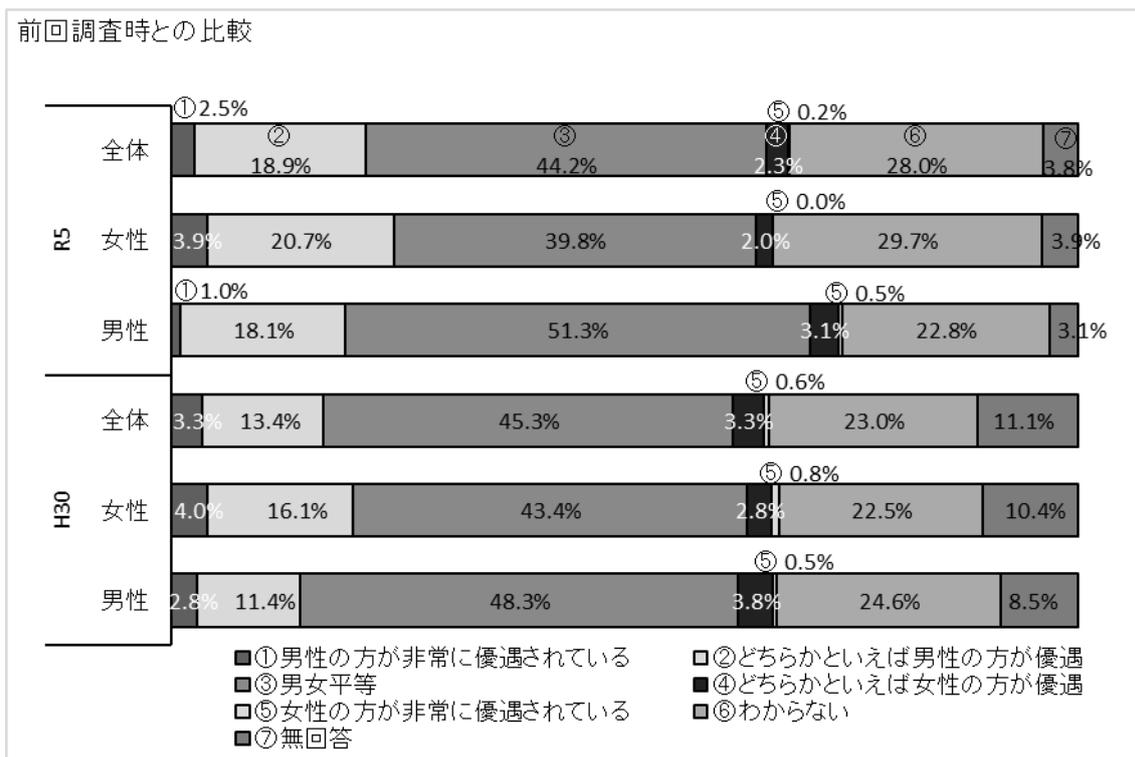
【男性】



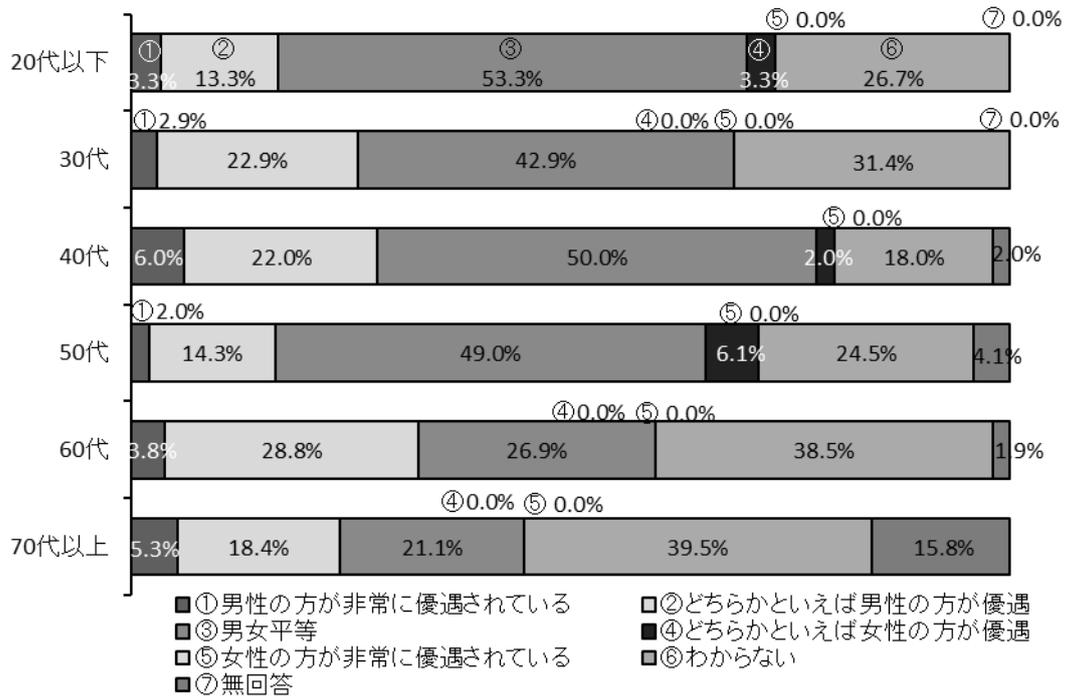
■ 学校教育の場

全体では、「男女平等」と回答した人は44.2%であり、前回（45.3%）から1.1ポイント減っている。特に女性では、「男女平等」と回答した人が3.6ポイント減っているが、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した人が4.6ポイント増えている。

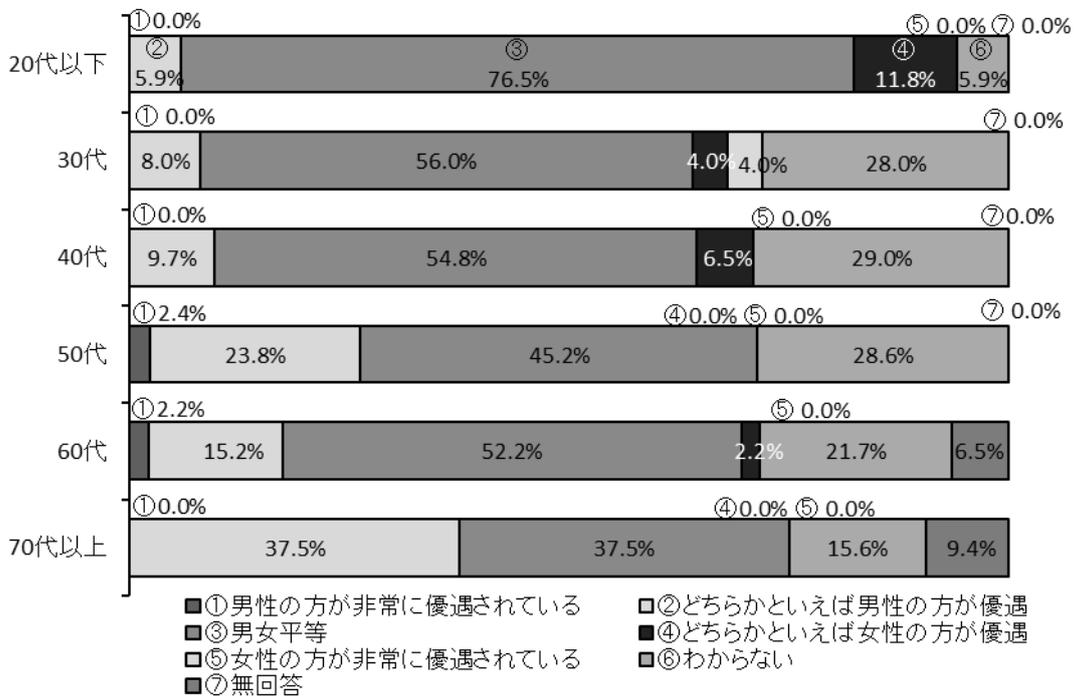
「男女平等」と回答した人が最も多い年代は、男女とも20代（女性53.3%、男性76.5%）であった。



【女性】



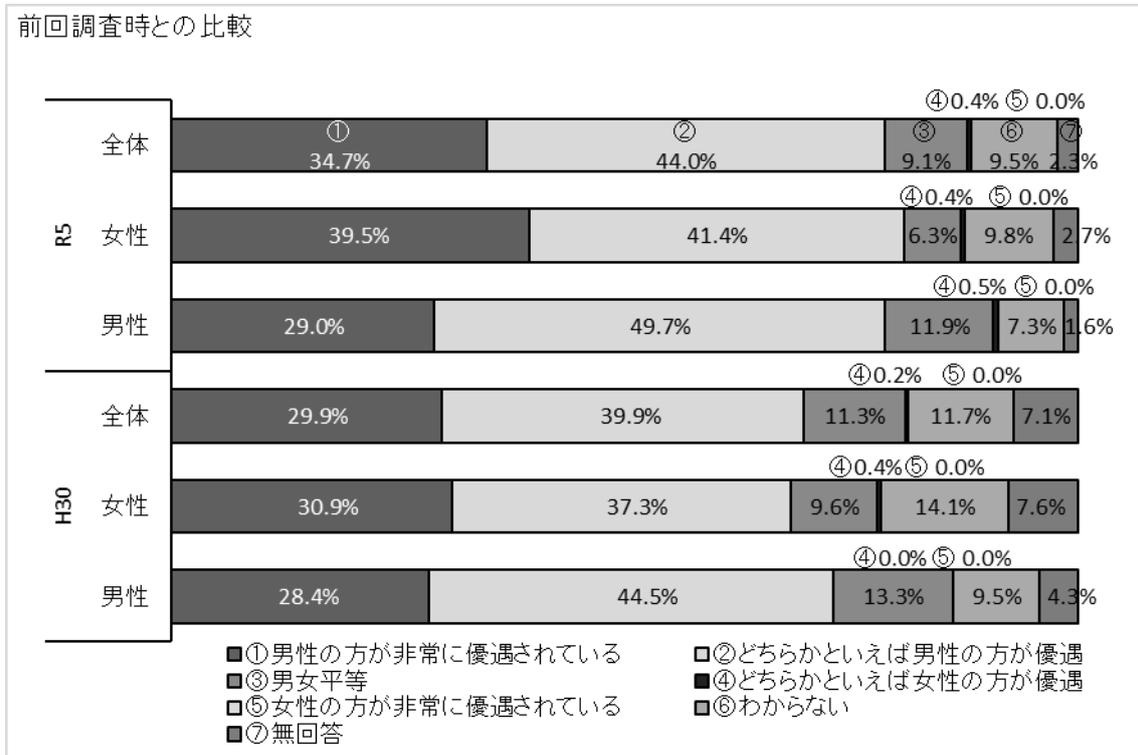
【男性】



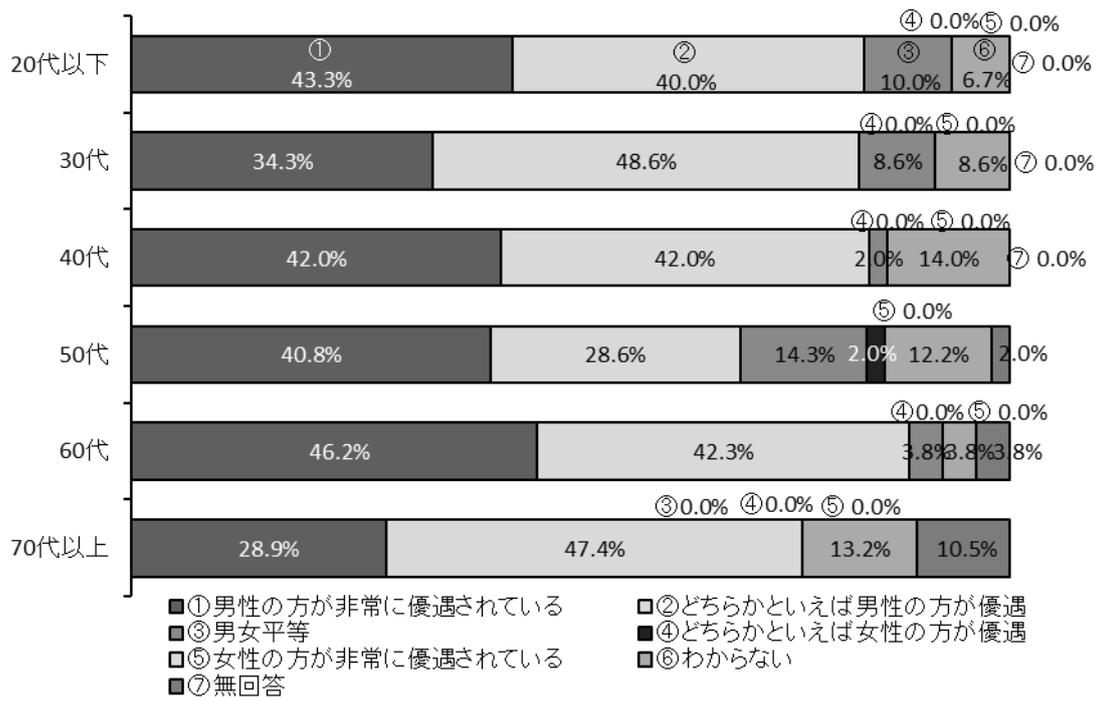
■ 政治の場

全体では、「男女平等」と回答した人は、9.1%と低く、前回（11.3%）より2.2ポイント減っている。特に女性で、3.3ポイント減っている。

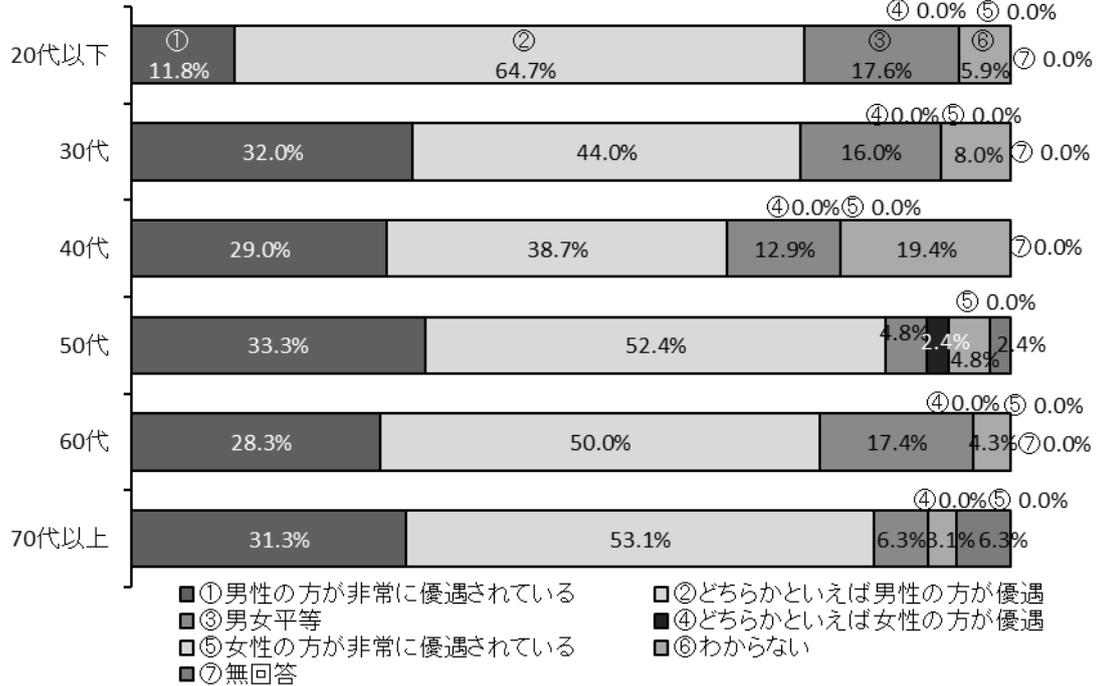
男女とも「男性の方が非常に優遇されている」または「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した人が多く、すべての年代で6割を超えている。



【女性】



【男性】

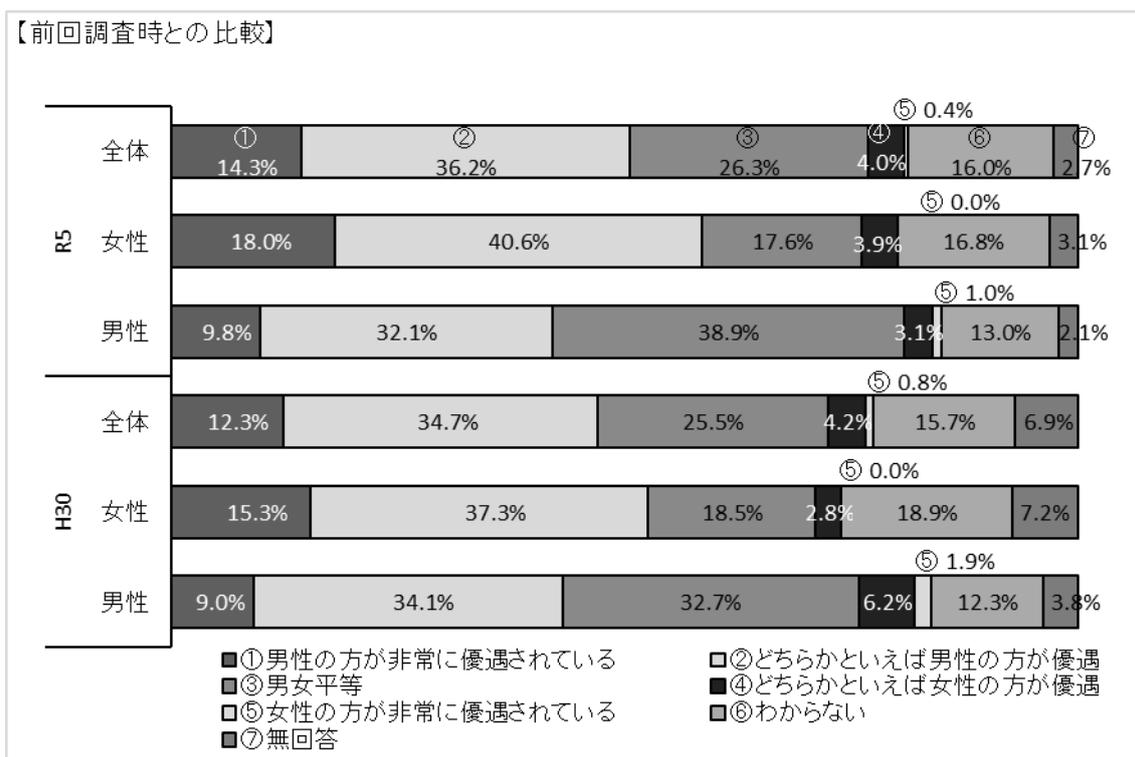


■ 法律や制度上

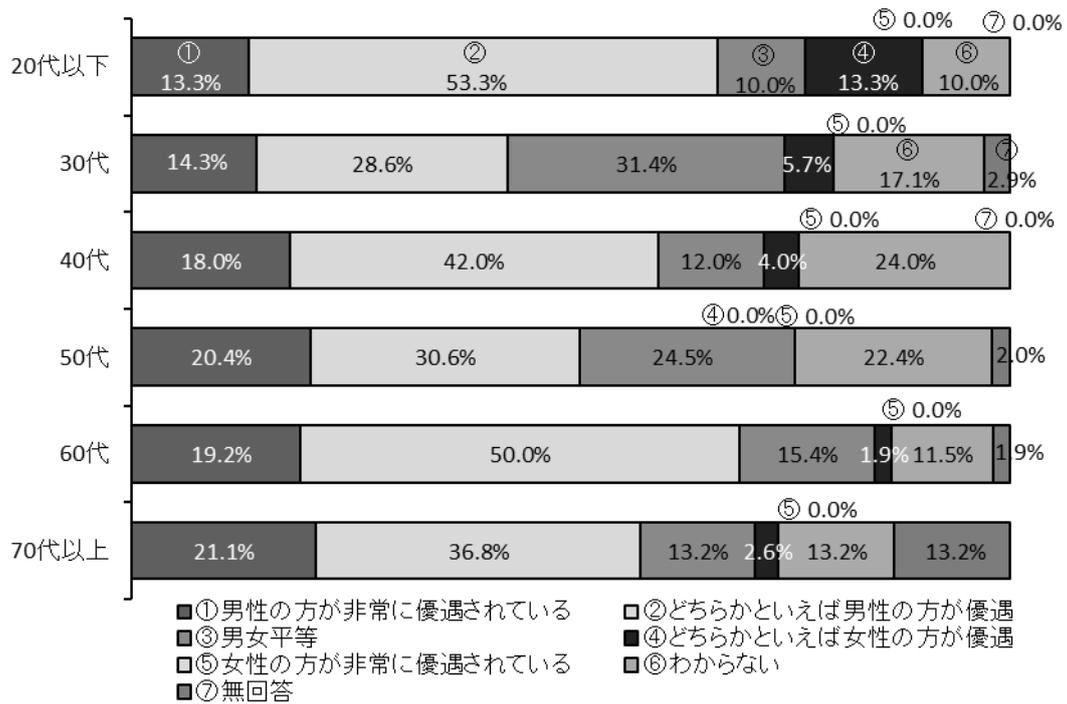
「男女平等」と回答した人は、全体で前回（25.5%）より0.8ポイント増えているが、26.3%と低い。男性が6.2ポイント増えたが、女性は0.9ポイント減っている。

「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせると、年代別では、女性の30代以外で5割を超えているのに対して、男性のすべての年代で5割以下となっている。

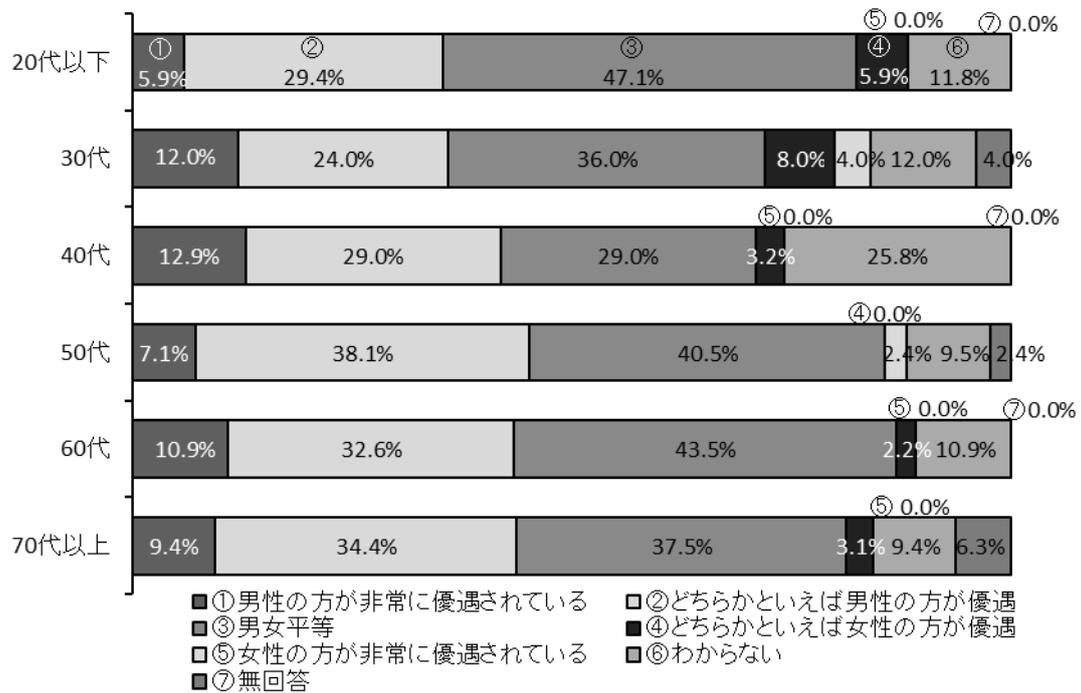
また、女性の20代では「どちらかといえば女性の方が優遇されている」（13.3%）と回答した人が、ほかの年代に比べて多くなっている。



【女性】



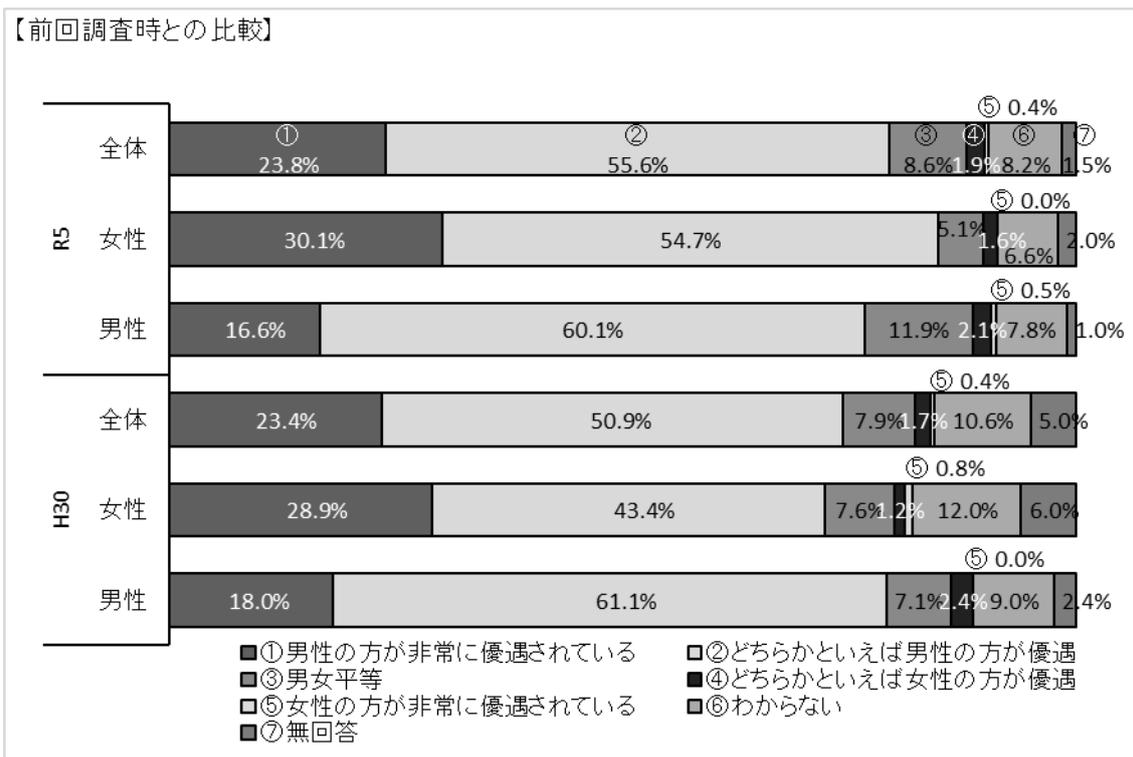
【男性】



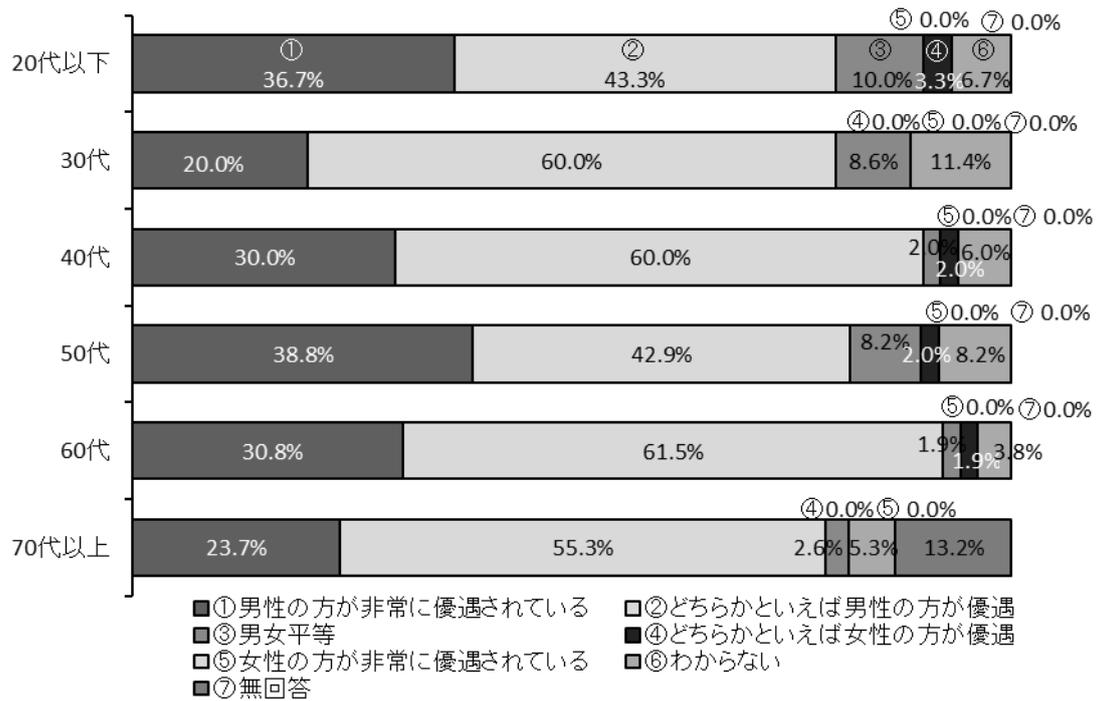
■ 社会通念・慣習・しきたり

「男女平等」と回答した人は、全体で0.7ポイント増えているが、8.6%と低い。
 「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が7割を超え、特に女性で前回より12.5ポイント増えている。

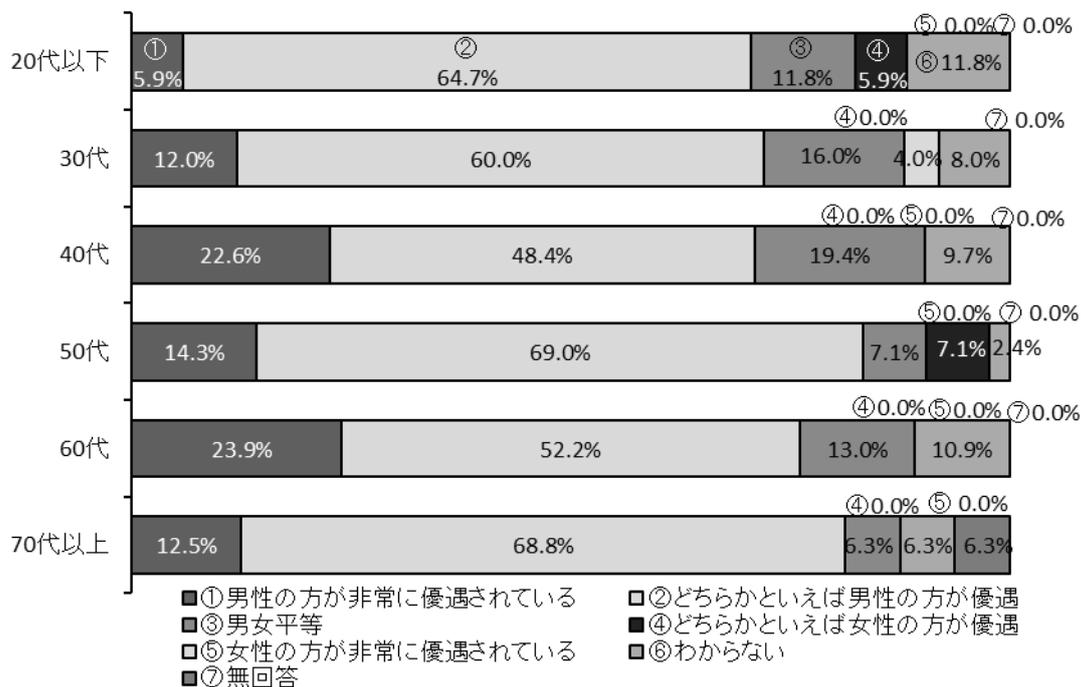
年代別でみると、女性の20代、40代、50代、60代で「男性の方が非常に優遇されている」と回答した人が3割以上となっている。



【女性】



【男性】

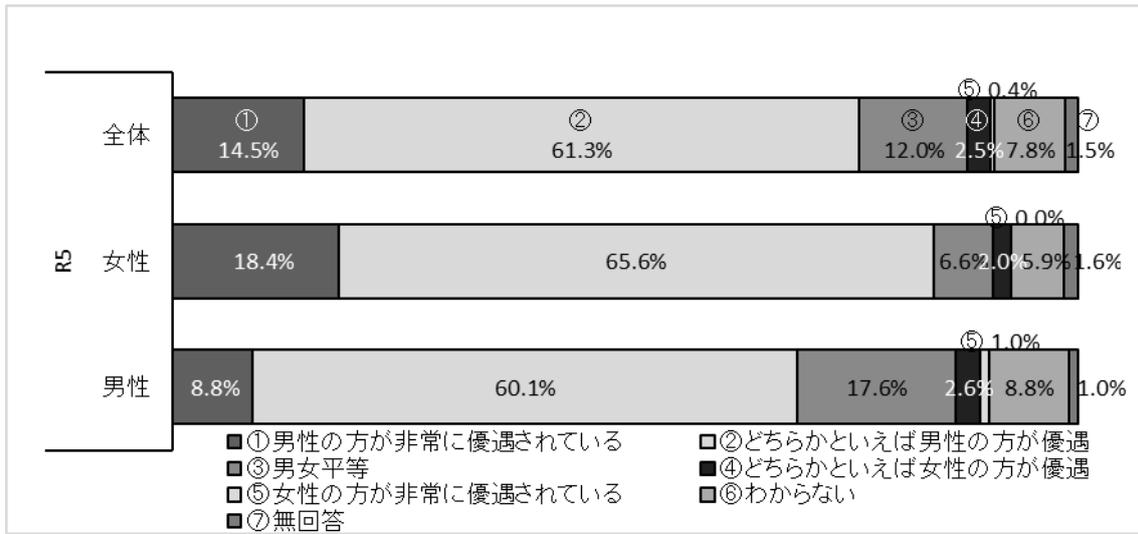


■ 社会全体として

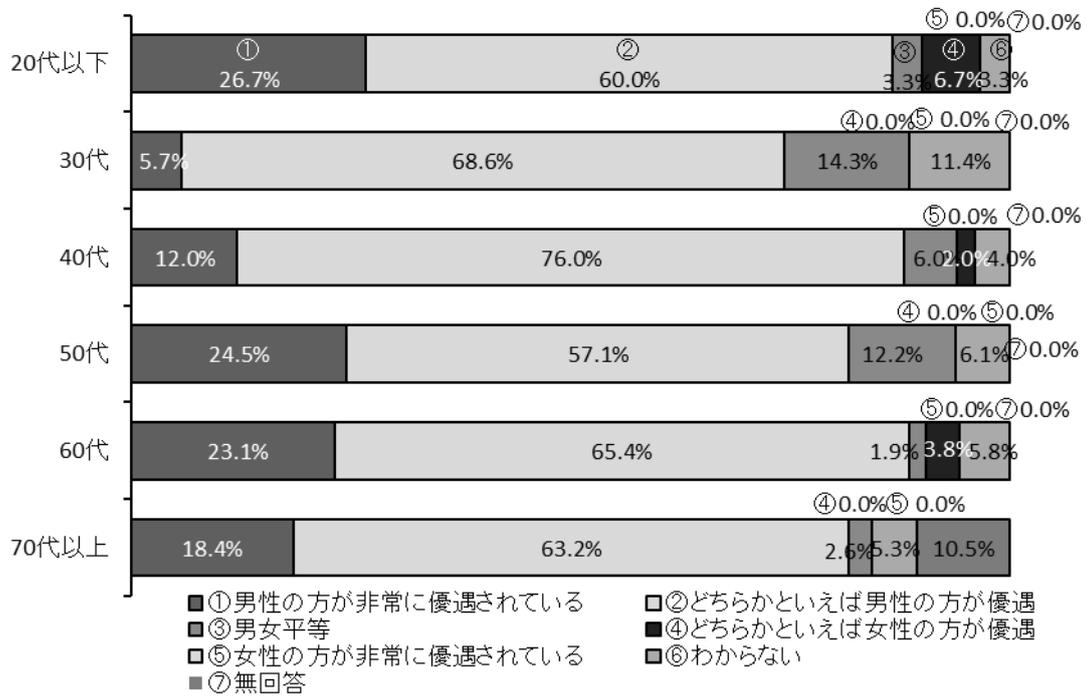
全体では、「男女平等」と回答した人は、12.0%と低い。前出の各分野における意識と比べても、社会通念・慣習・しきたり（8.6%）、政治の場（9.1%）に次いで低い。

年代別で見ると、「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が女性ではすべての年代で7割を超えている。男性の40代以下では「男女平等」と回答した人がいずれも2割台と多い。

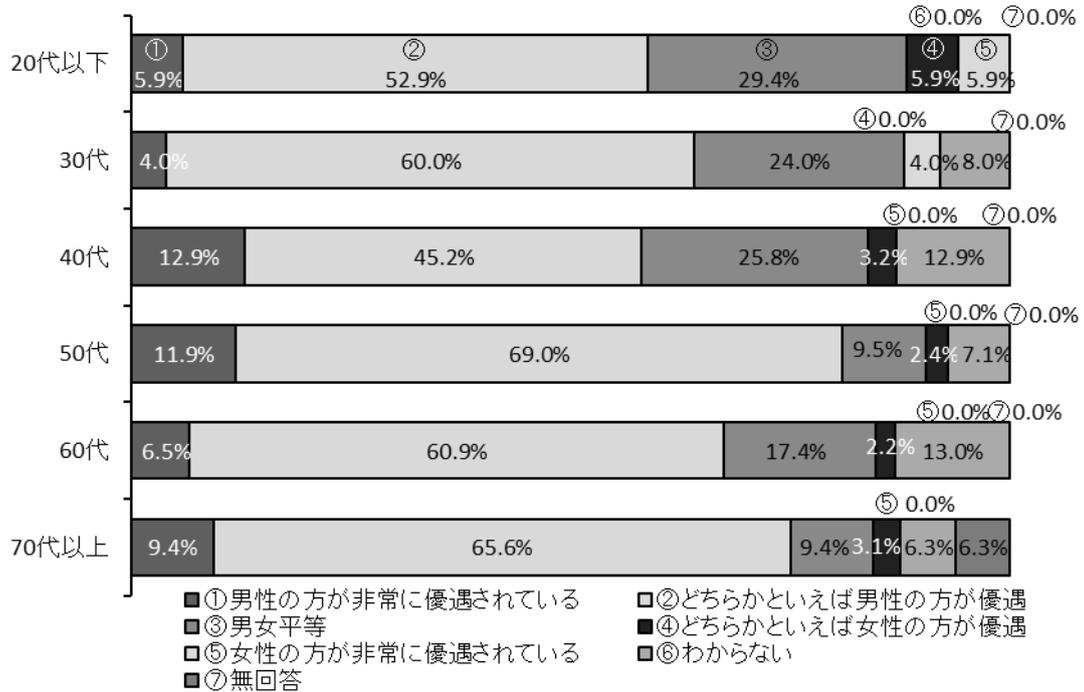
※令和5年度より調査



【女性】



【男性】

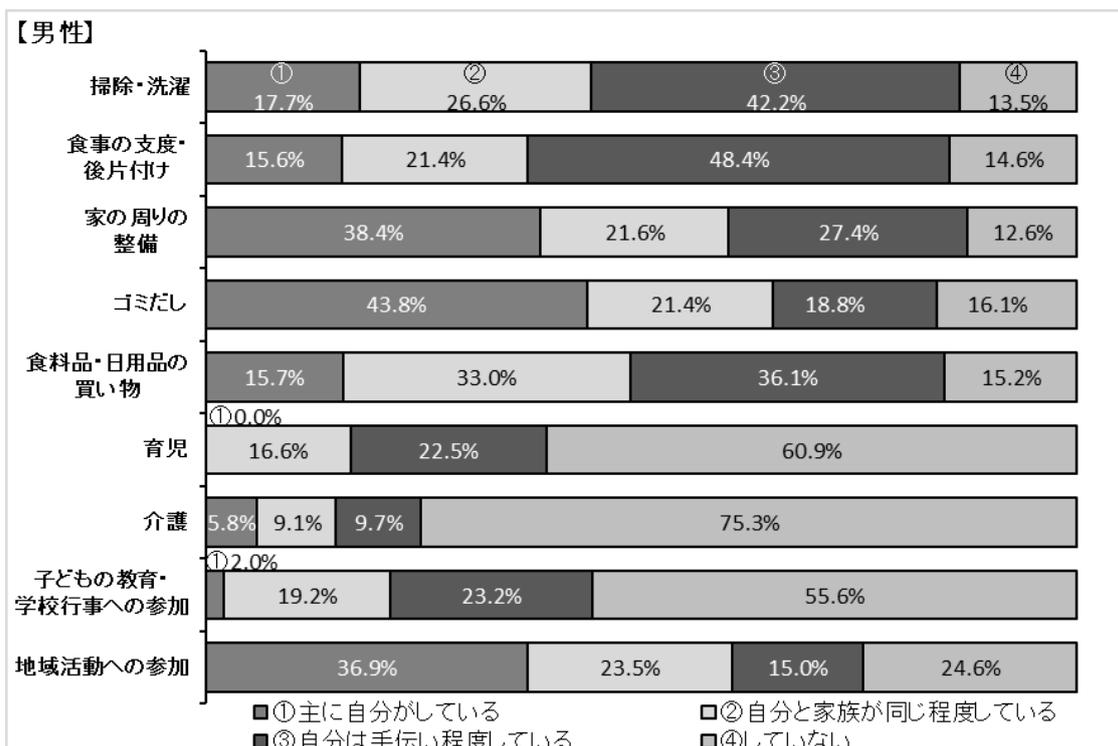
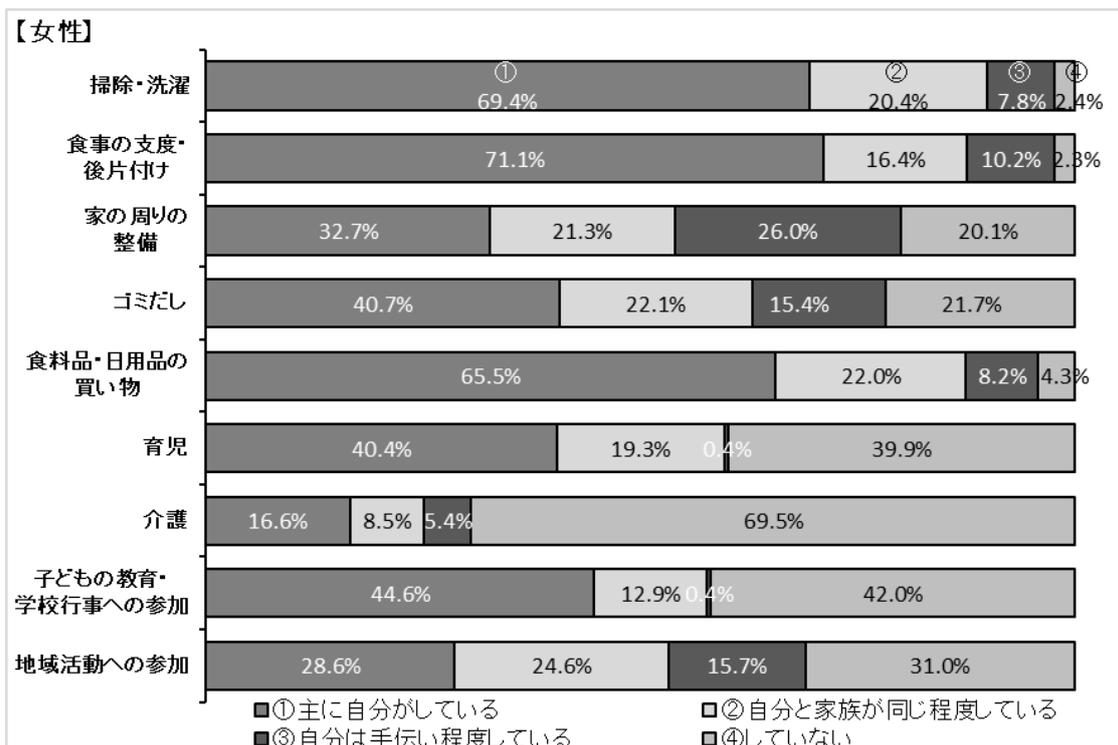


(2) 家庭生活での男女の役割について

① 家庭生活等への参加について

女性では、「掃除・洗濯」、「食事の支度・後片付け」、「食料品・日用品の買い物」などに参加している人が、男性に比べ圧倒的に多くなっている。これら家庭生活について、女性は「主に自分がしている」と認識しているが、男性は「自分は手伝い程度している」という認識にあり、男女間での認識の格差がみえる。

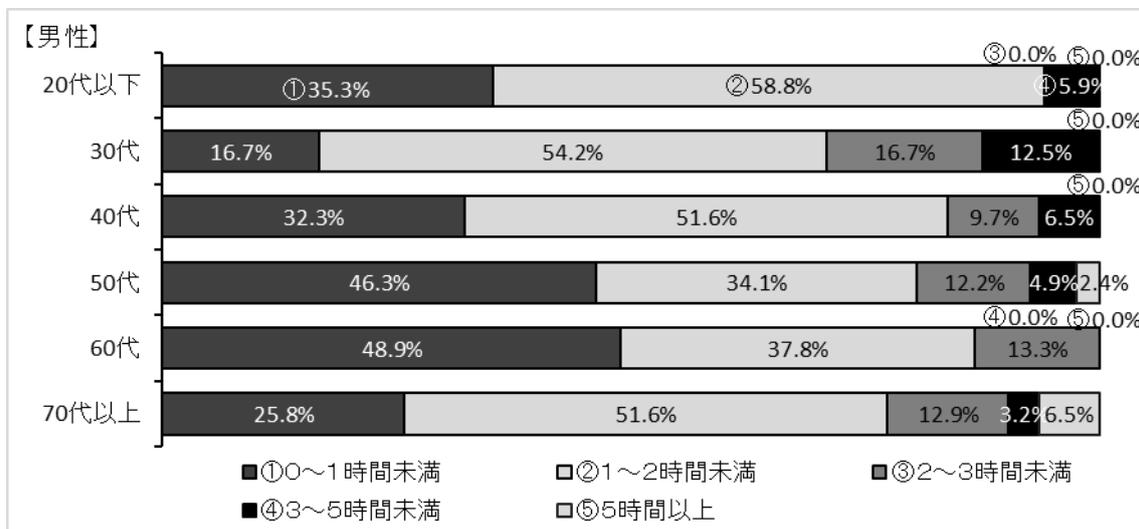
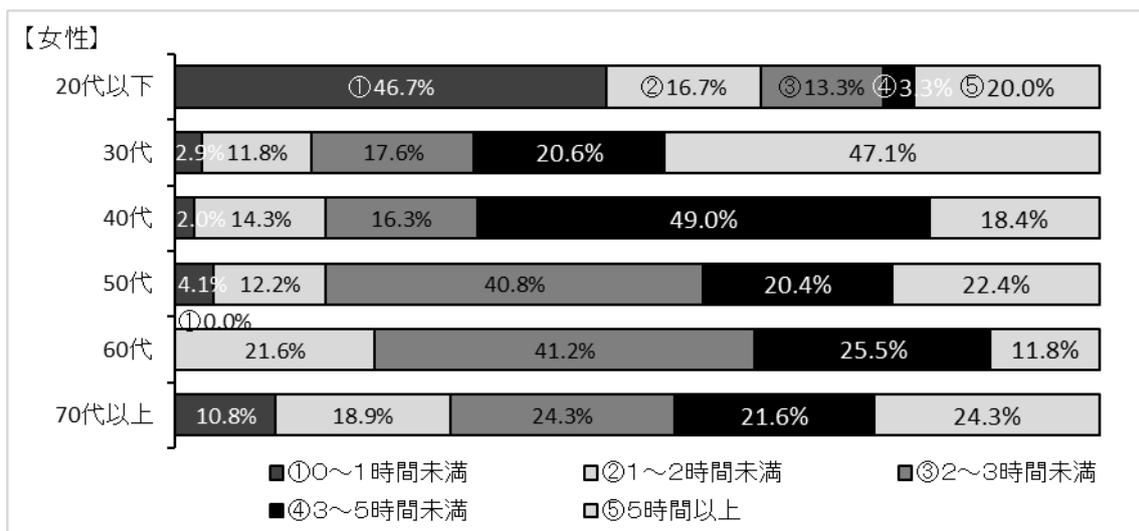
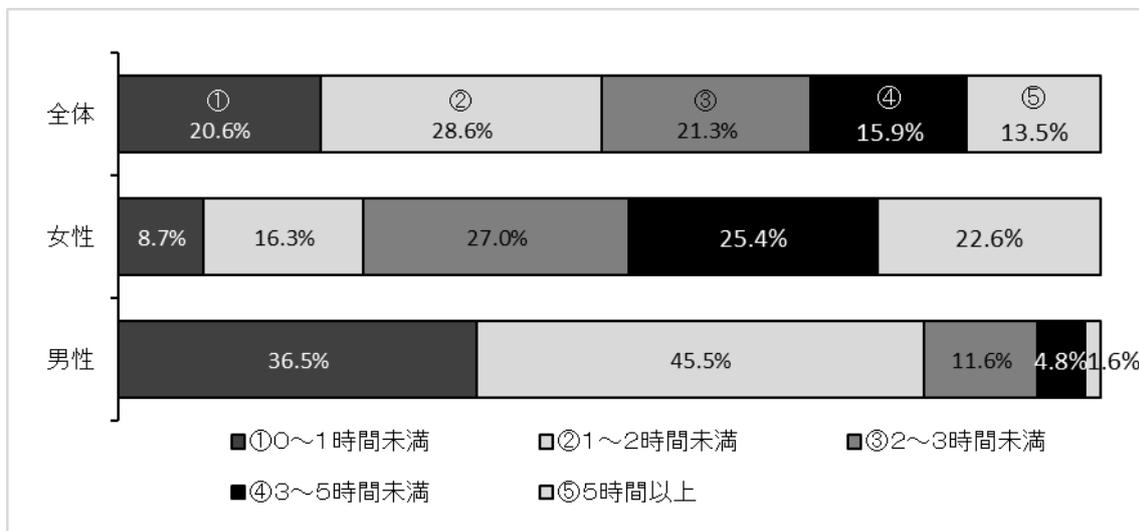
一方、男性では、「家の周りの整備」「ゴミ出し」「地域活動の参加」について「主に自分がしている」と回答した人が、女性に比べて多くなっている。



② 1日あたりの家事従事時間

男性では、家事従事時間が0～2時間未満が82.0%を占めており、女性では、2時間以上が75.0%を占めている。男女間において、家事従事時間に大きな差がある。

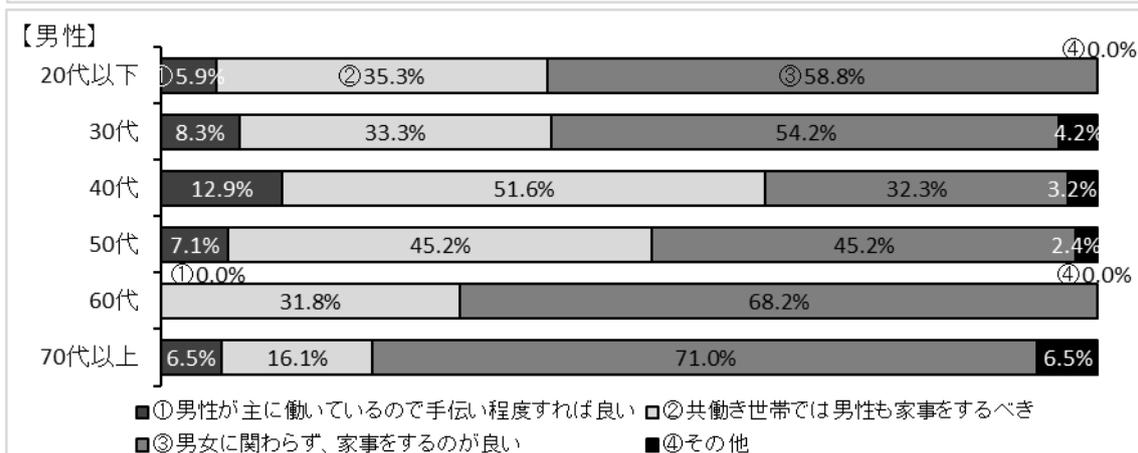
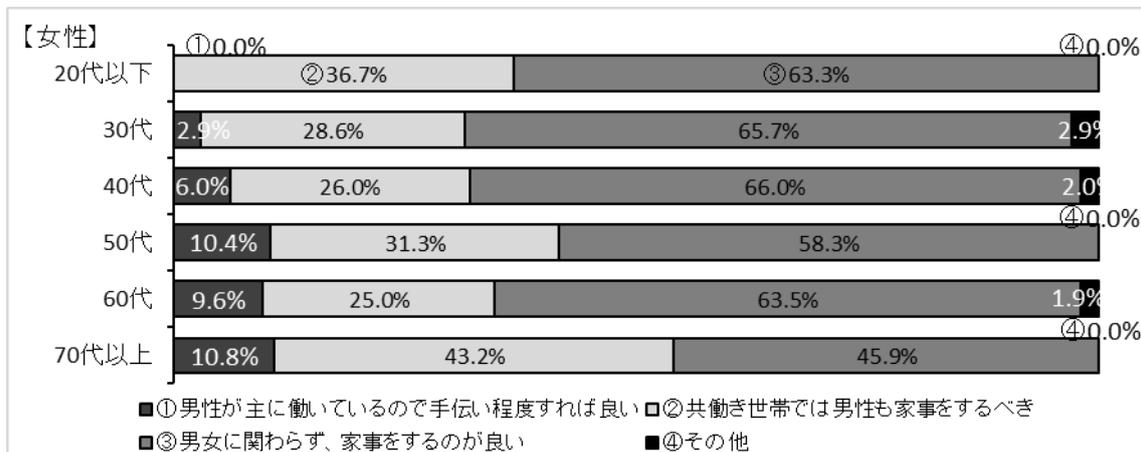
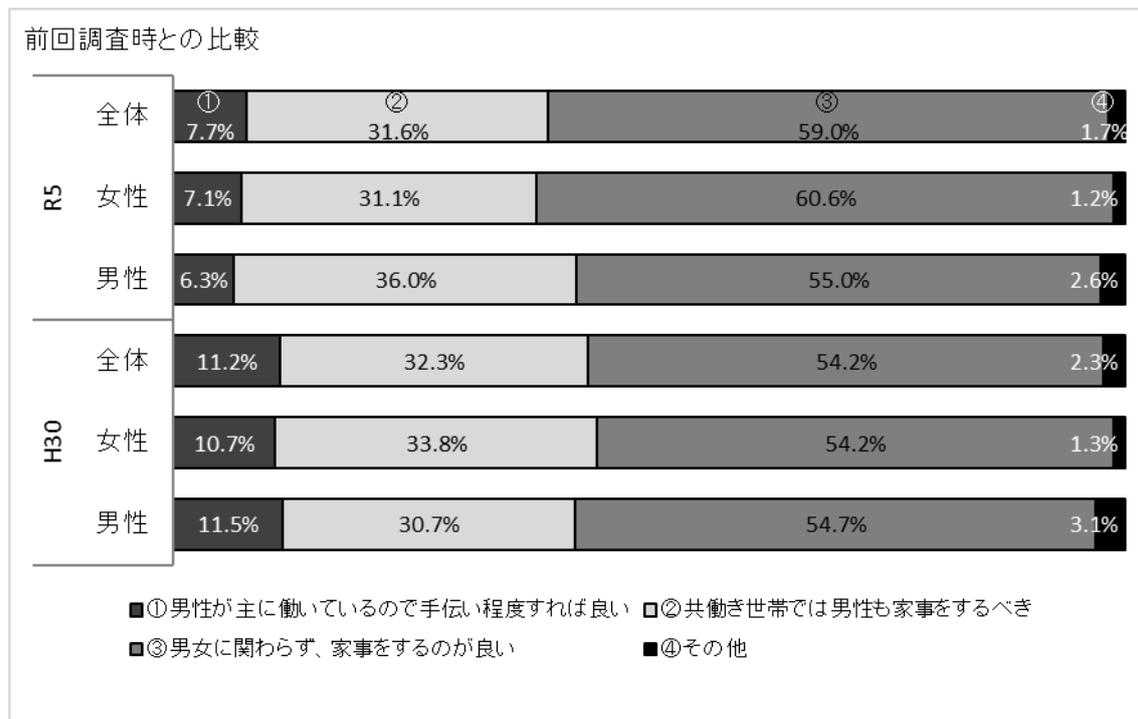
※令和5年度より調査



③ 男性が家事をすることについての意識

全体では、「共働き世帯では男性も家事をするべき」（31.6%）または「男女に関わらず、家事をするのがよい」（59.0%）と9割以上が回答している。前回に比べ全体では4.1ポイント増えており、男女ともにそういった意識が強くなっている。

ただし、女性の50代以上、男性の40代では、「男性が主に働いているので手伝い程度すれば良い」と回答した人が1割程度いる。

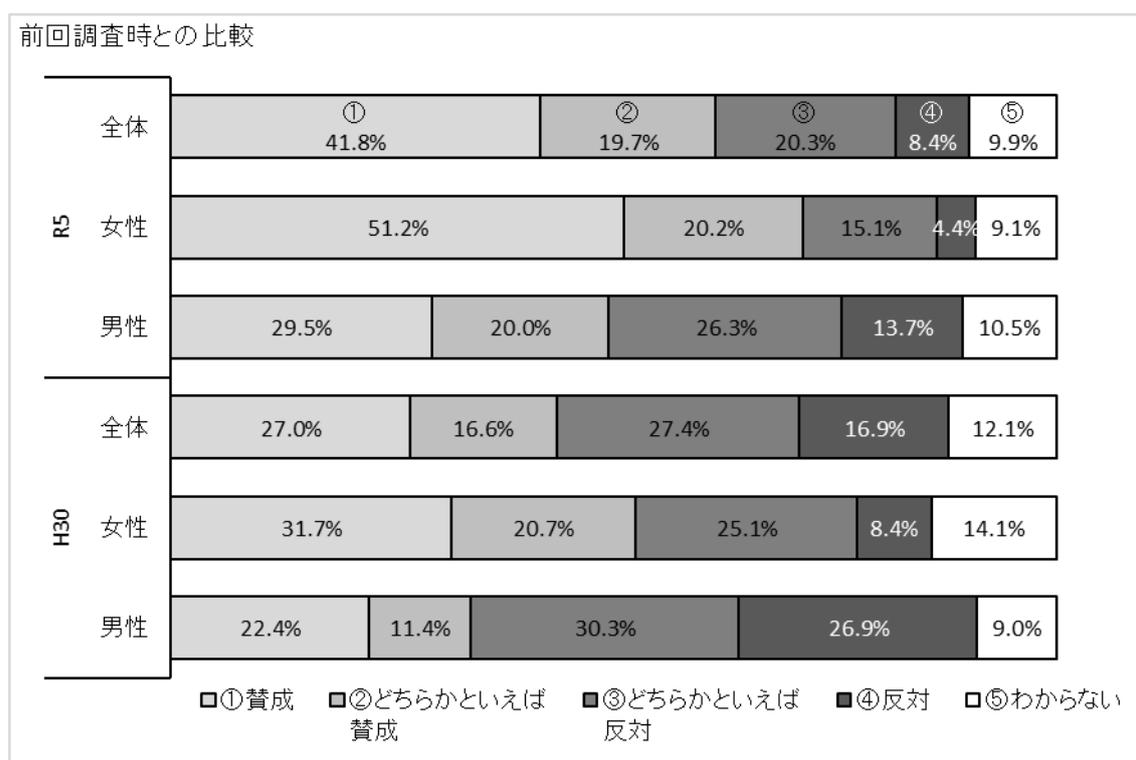


(3) 結婚・家庭に対する意識について

① 結婚・家庭に対する意識

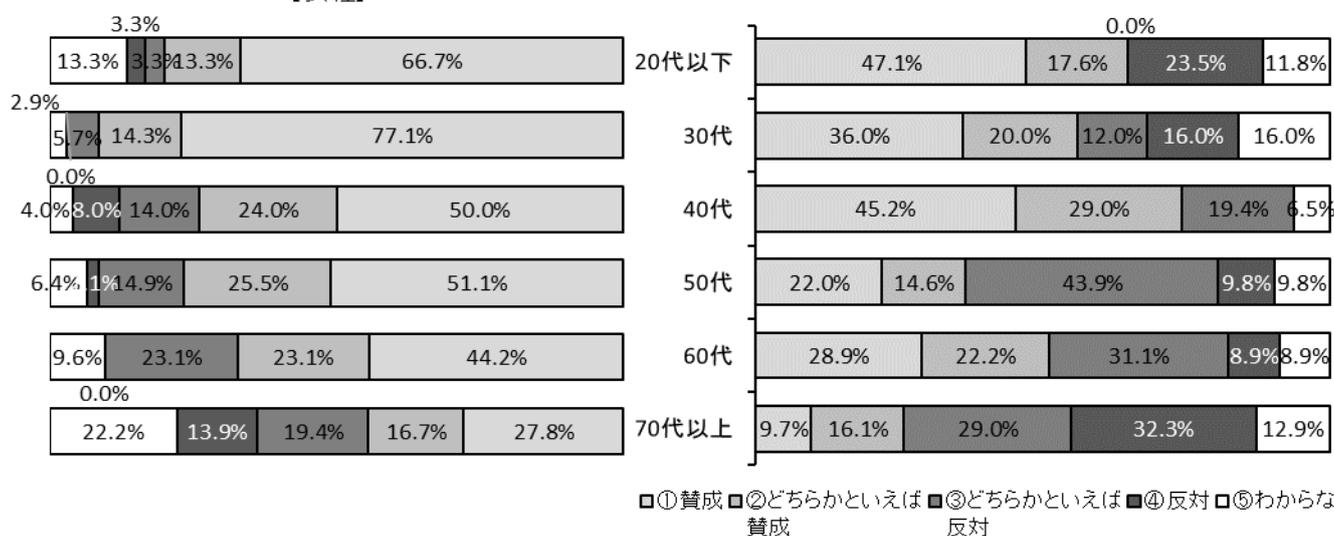
■結婚してもしなくてもどちらでもよい

全体では、「賛成」「どちらかといえば賛成」と回答した人が61.5%であり、前回（43.6%）に比べて17.9ポイントと大きく増えている。特に女性では51.2%が「賛成」している。年代別では、男女とも20代、30代で「賛成」とする傾向があり、特に女性の20代、30代では7割近くが「賛成」としている。



【女性】

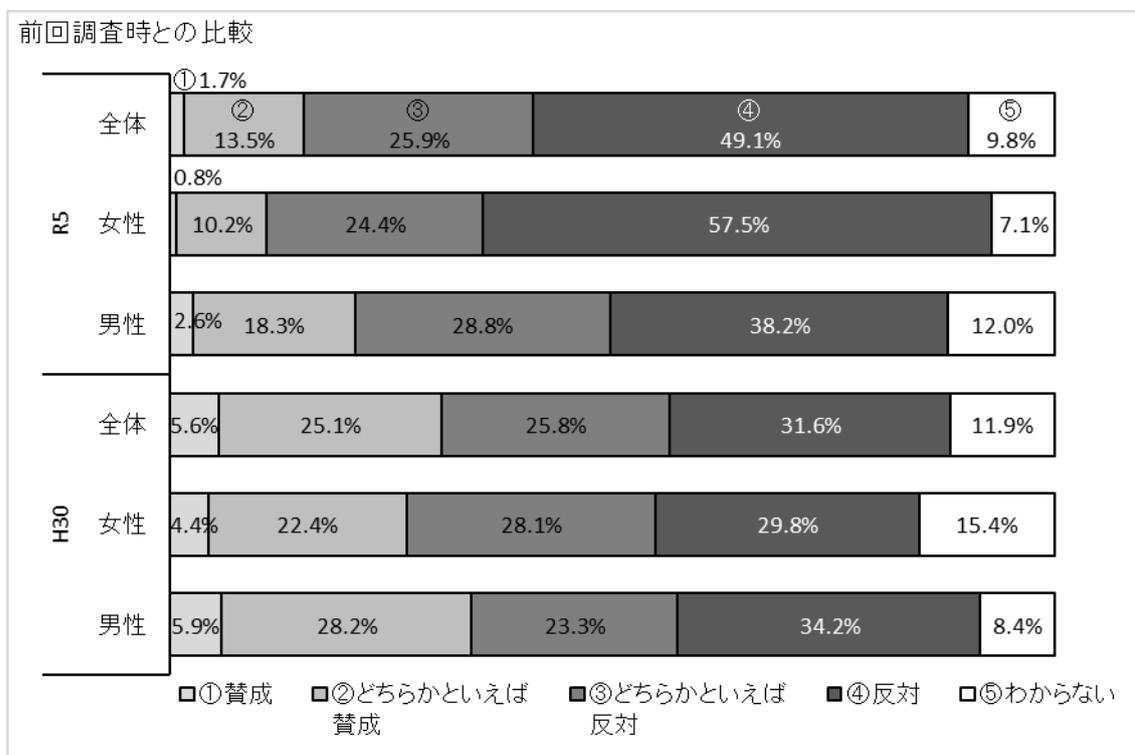
【男性】



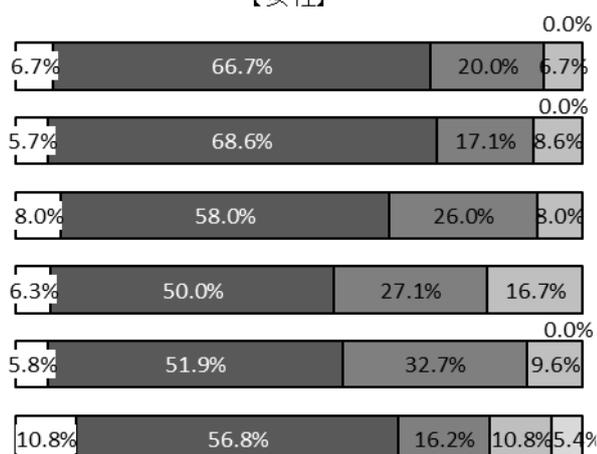
■男性は仕事をし、女性は家庭を守るべきである

全体では、「どちらかといえば反対」、「反対」と回答した人は、75.0%であり、前回（57.4%）と比べて17.6ポイントと大きく増えている。

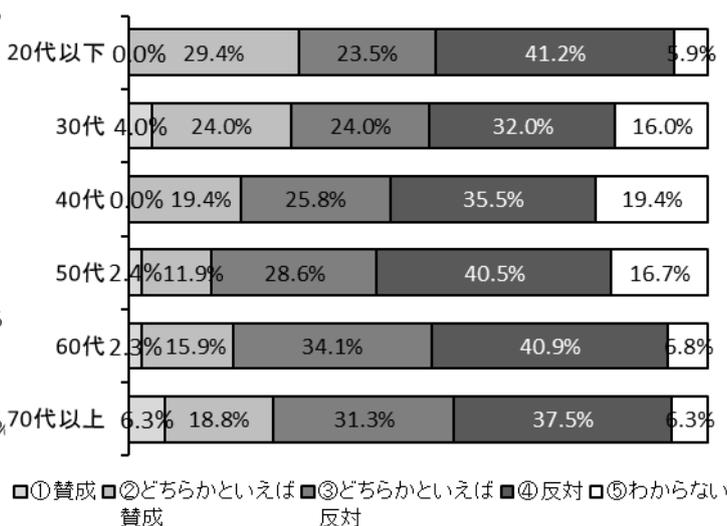
男性の20代、30代で「どちらかといえば賛成」がほかの年代よりも多い。



【女性】



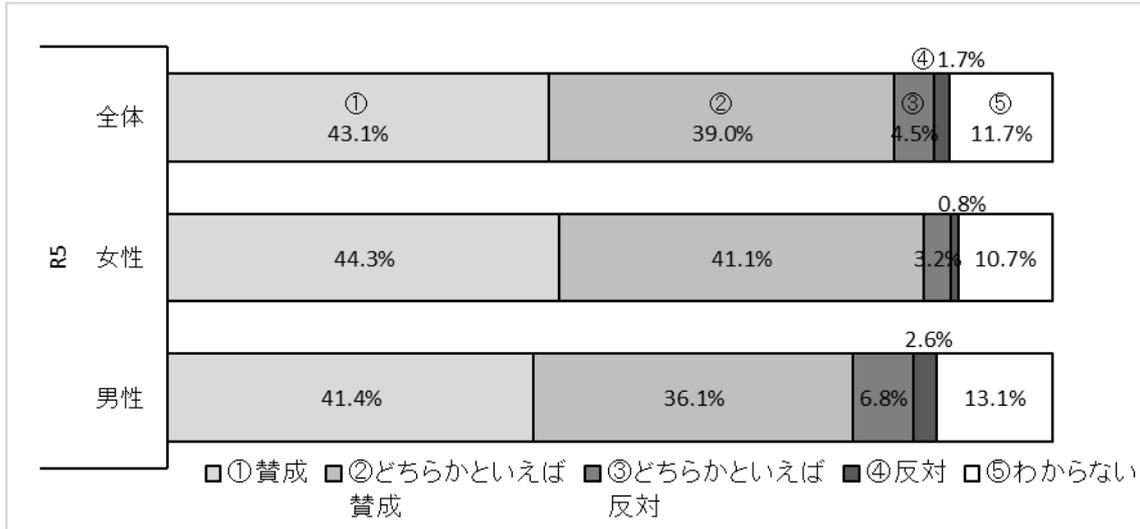
【男性】



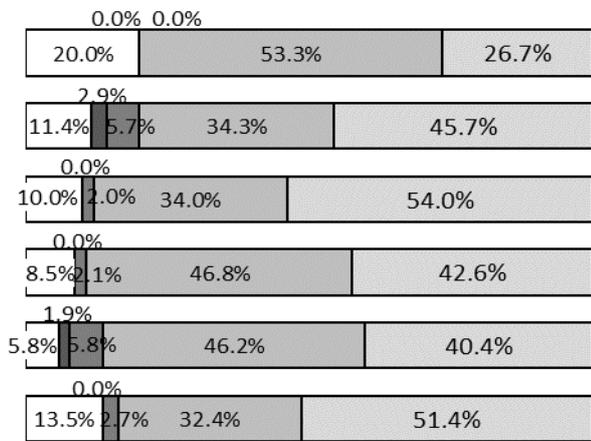
■男女とも仕事に就いた方がよい

全体では、「賛成」「どちらかといえば賛成」と回答した人は、82.1%と多くを占めている。女性の40代、70代以上、男性の70代以上で5割以上が「賛成」しており、ほかの年代よりも多い。

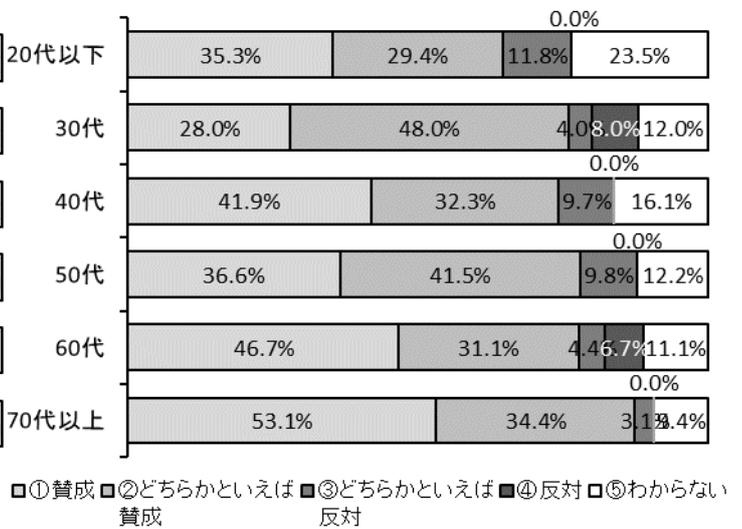
令和5年度より調査



【女性】



【男性】

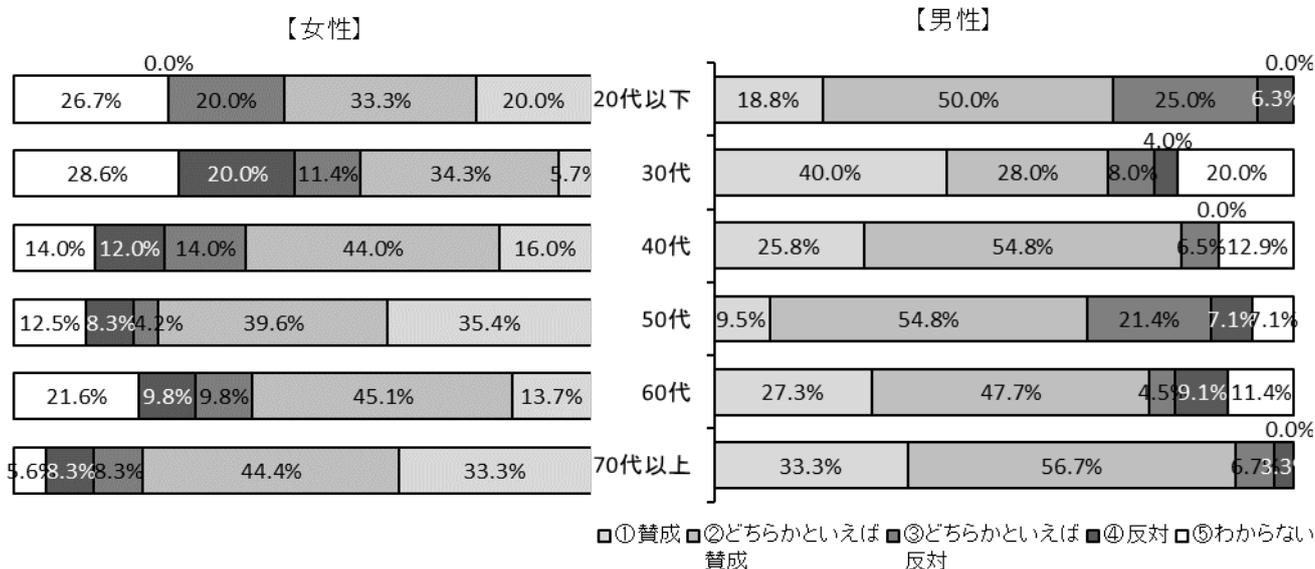
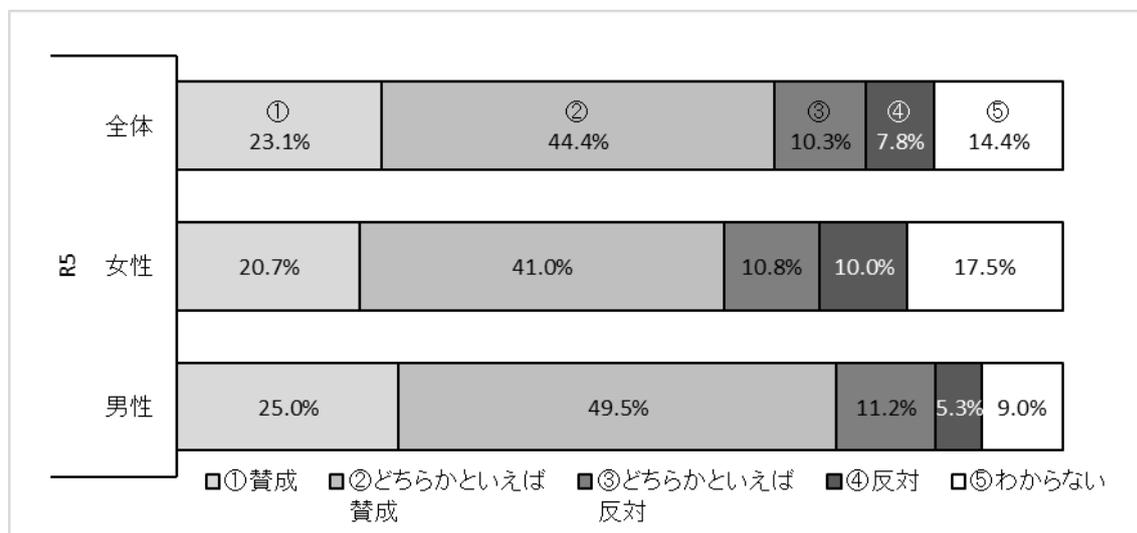


■子どもが幼いうちは、女性は家庭にいた方がよい

全体では、「賛成」「どちらかといえば賛成」と回答した人は、67.5%と多くを占めている。特に女性の50代、70代以上、男性の40代、60代以上では7割を超えている。

一方で、女性の30代、男性の20代では「どちらかといえば反対」「反対」と回答した人が3割以上おり、ほかの年代よりも多い。

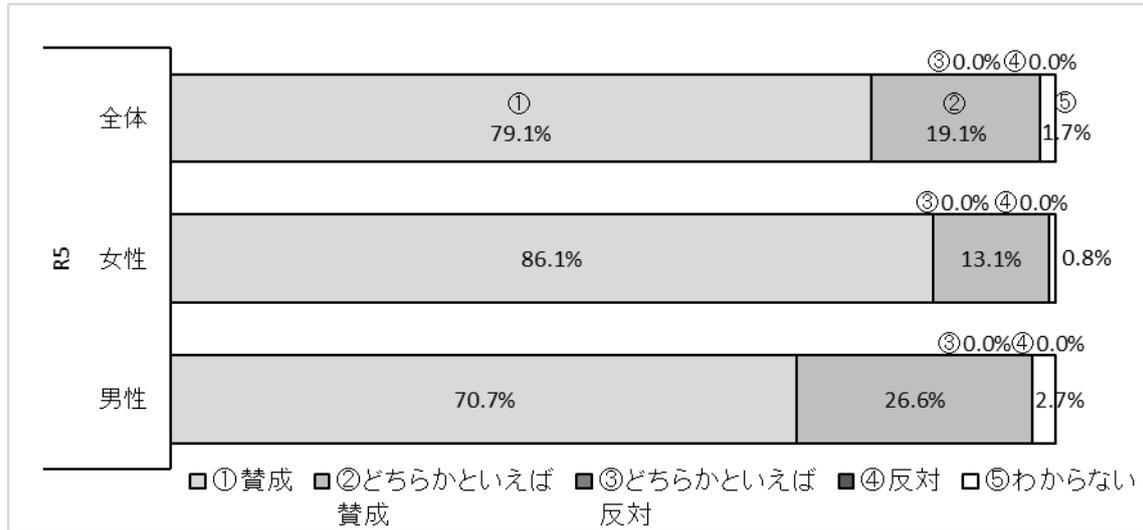
※令和5年度より調査



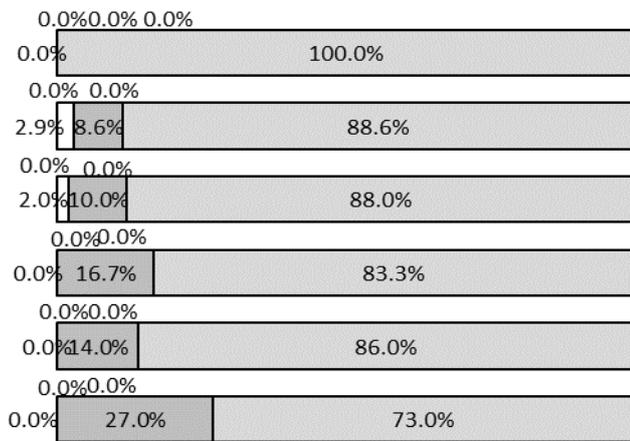
■家事・子育て・介護は男女が協力してやるべきだ

全体では、「賛成」「どちらかといえば賛成」と回答した人は、98.2%と圧倒的に多くを占めている。男女ともに年代が若くなるほどそう思う傾向が強い。

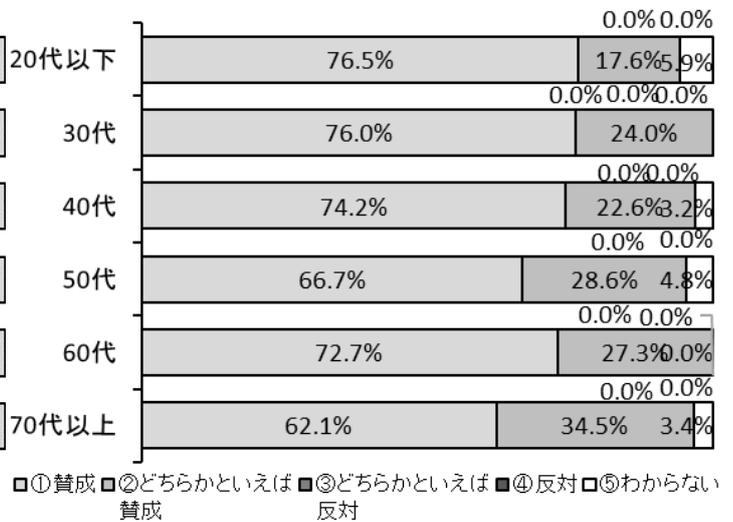
※令和5年度より調査



【女性】

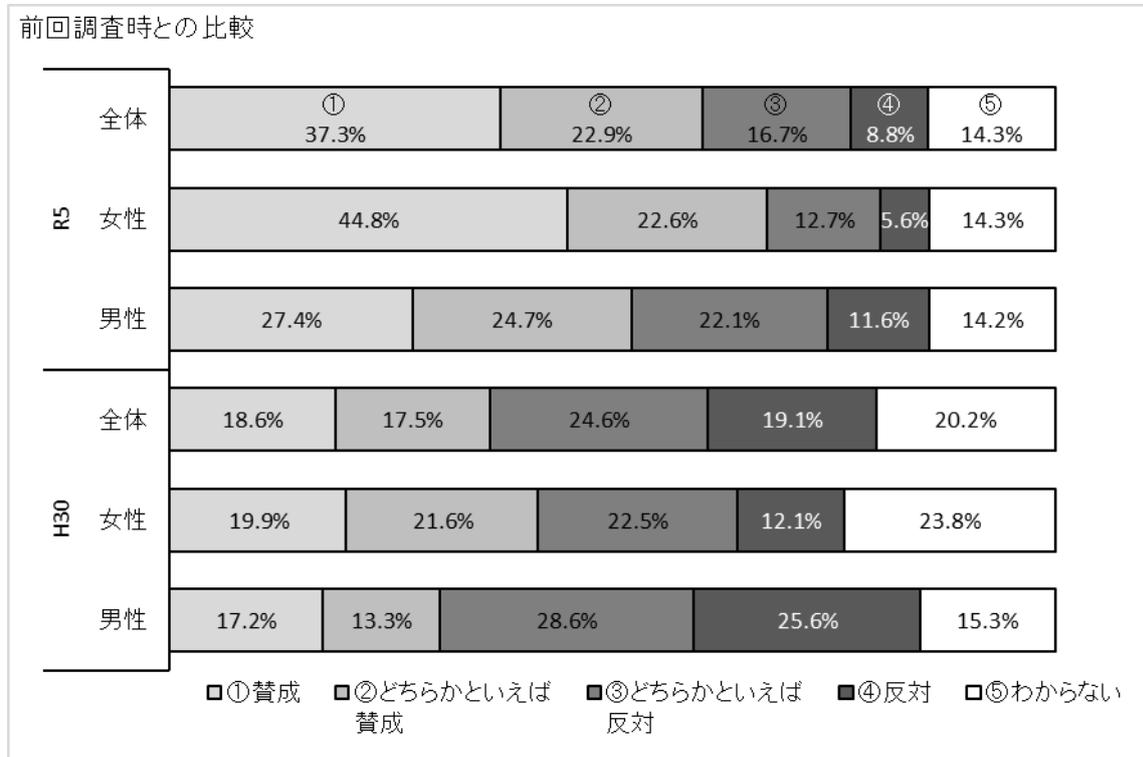


【男性】



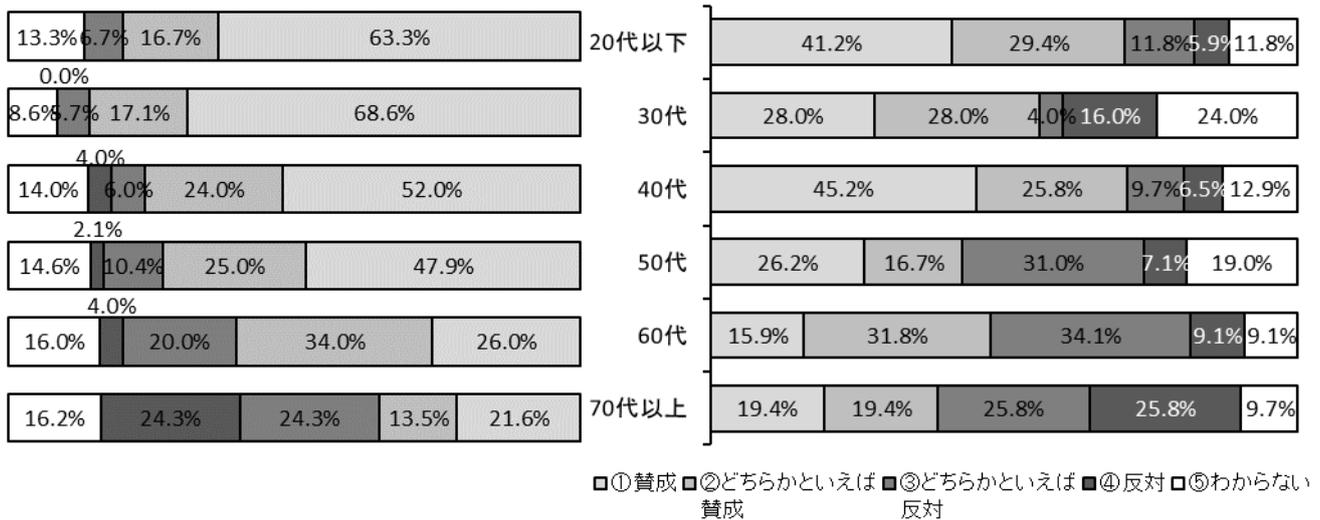
■結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない

全体では、「賛成」「どちらかといえば賛成」と回答した人は、60.2%であり、前回（36.1%）と比べて24.1ポイント増えている。必ずしも子どもを持つ必要はないと考える人が増えている。特に男女とも20代、30代、40代に多く、女性は5割を超えている。



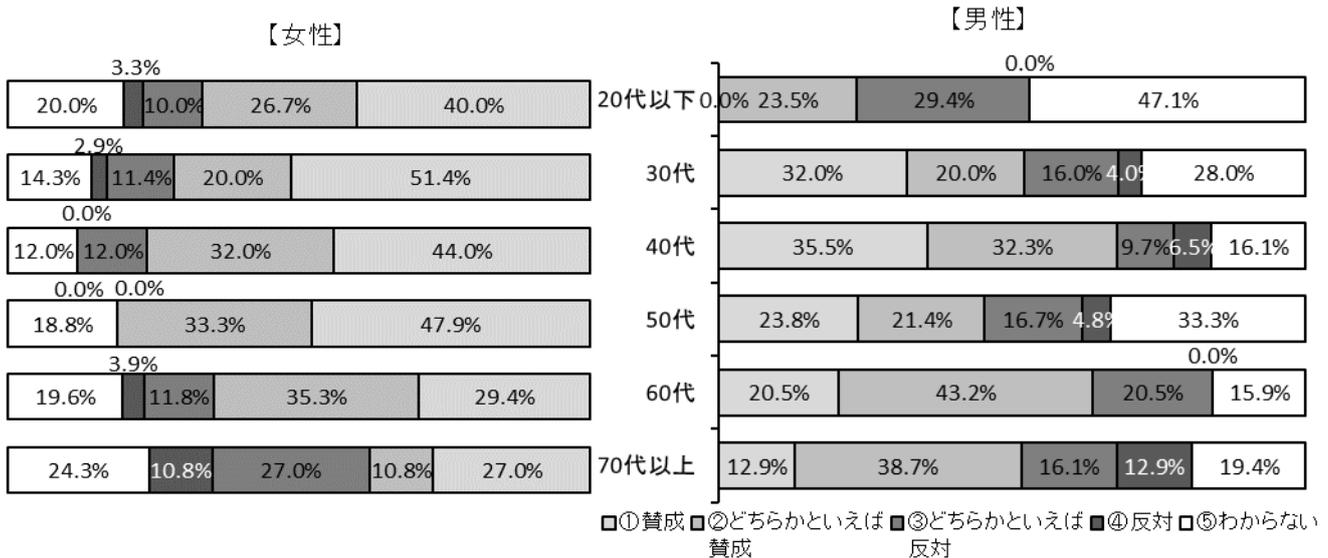
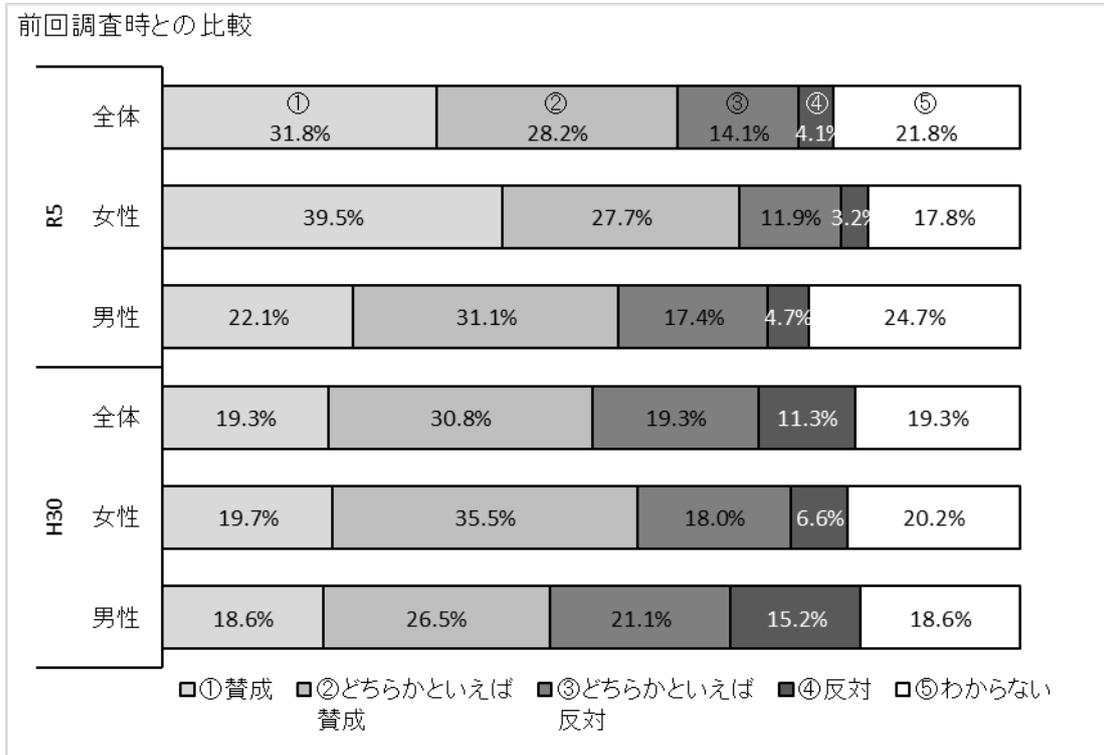
【女性】

【男性】



■結婚して相手に満足できなければ離婚してもかまわない

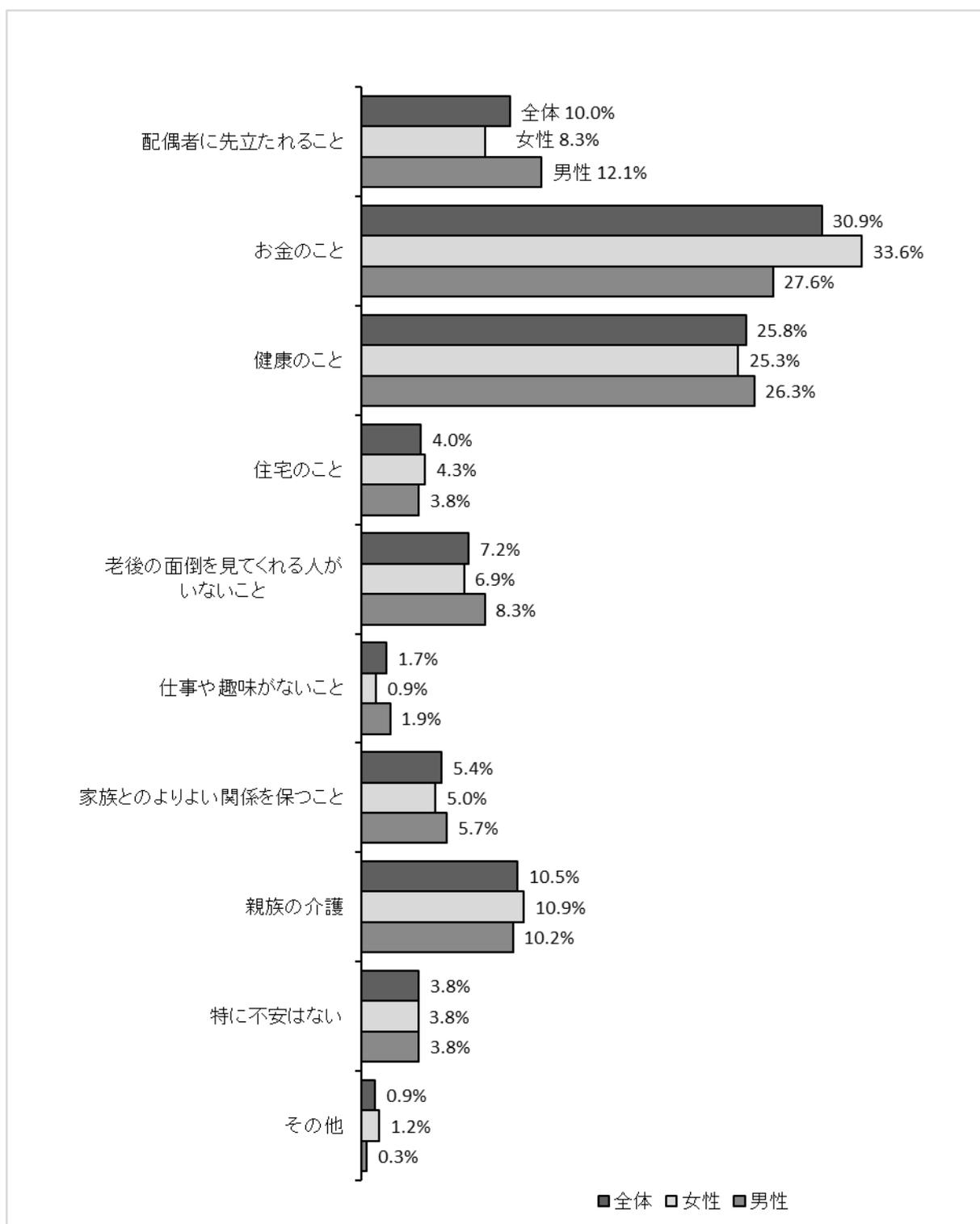
全体では、「賛成」、「どちらかといえば賛成」を合わせると、60.0%の人が離婚してもかまわないと回答している。前回（50.1%）と比べて9.9ポイント増えている。特に女性で多く、女性の30代、40代、50代では、「賛成」、「どちらかといえば賛成」を合わせると7割を超えている。



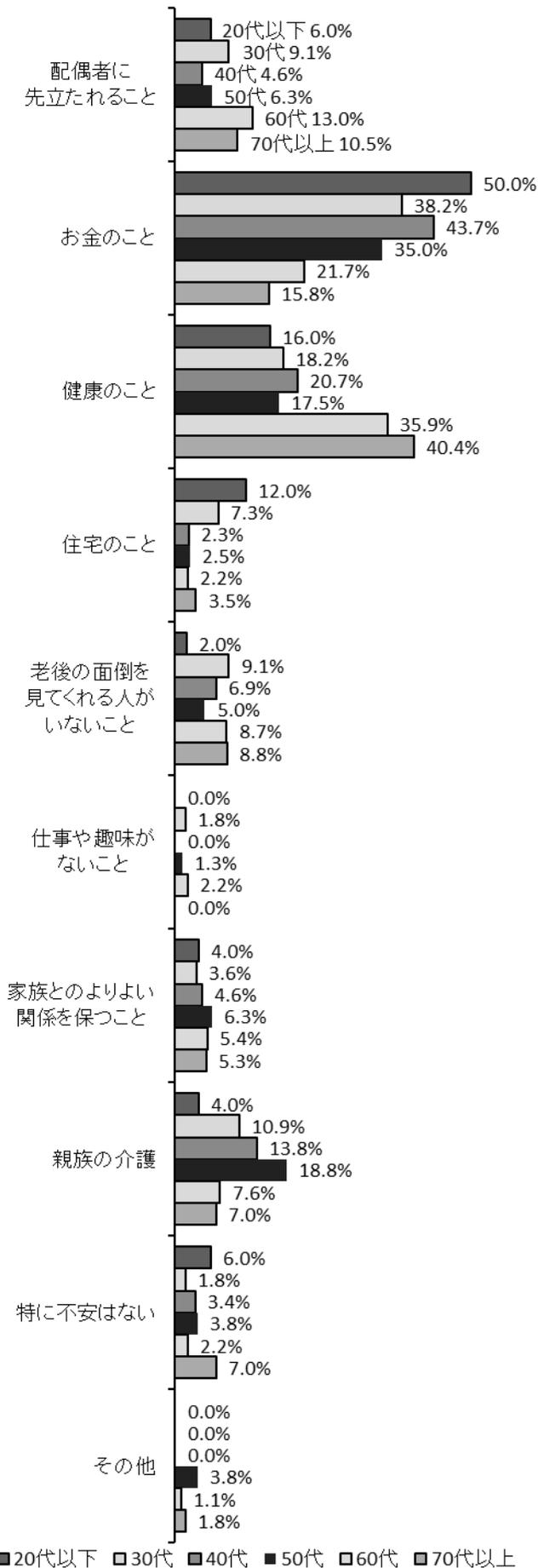
② 自身の生活において不安なこと

全体では、「お金のこと」(30.9%)、「健康のこと」(25.8%)と回答した人が多い。特に男女とも20代で「お金のこと」と回答する人が5割前後いる。

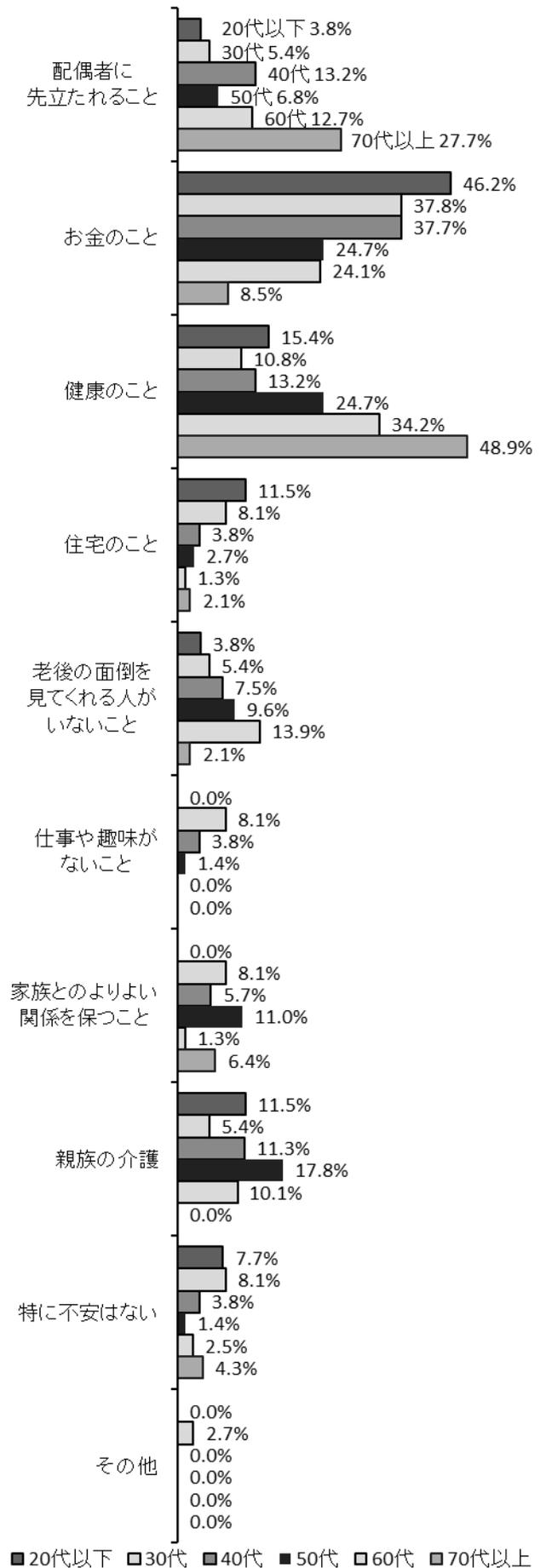
男性の70代以上で、「配偶者に先立たれること」と回答した人が、ほかの年代に比べて少し多くなっている。



【女性】



【男性】

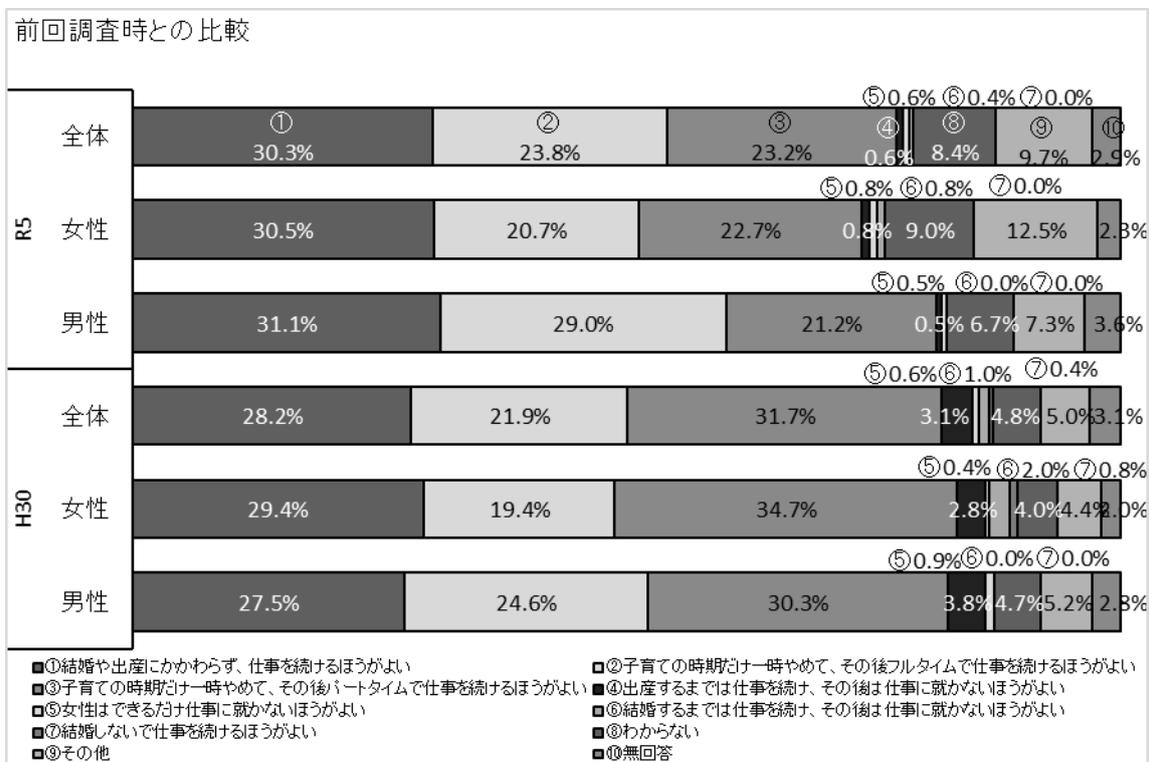


(4) 女性が仕事をすることに関する男女の意識について

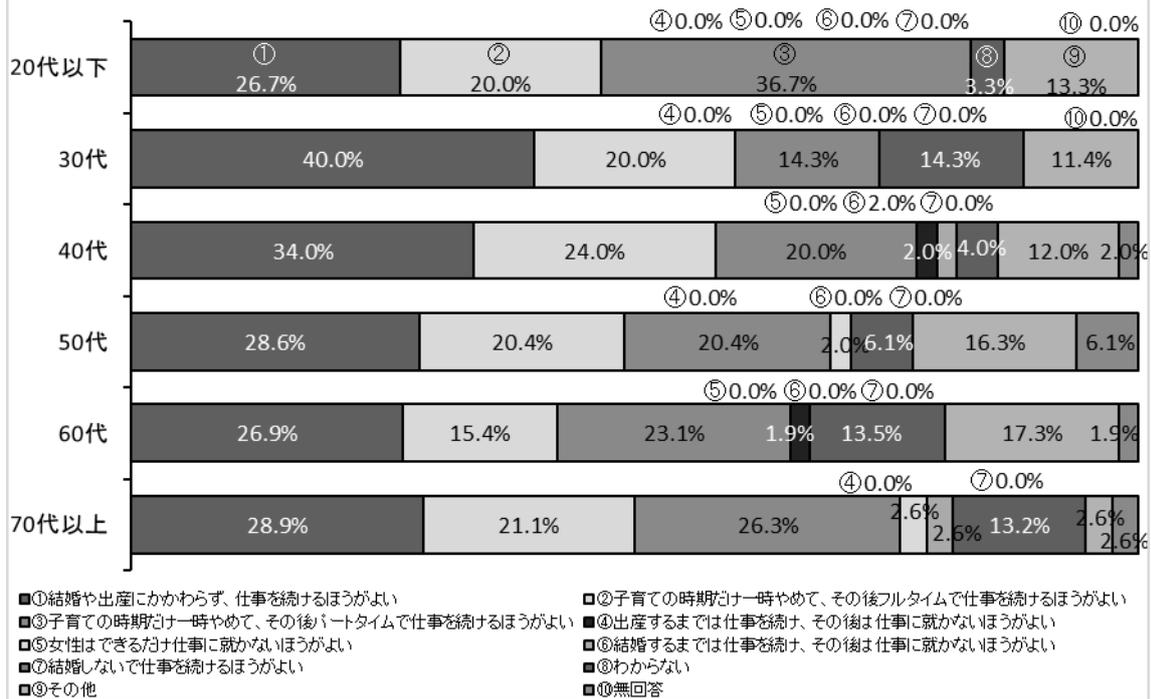
① 女性の就労のあり方

全体では、「結婚や出産にかかわらず、仕事を続けるほうがよい」と回答した人が30.3%に達し、前回一番多かった「子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで仕事を続けるほうがよい」と逆転した。特に女性の30代で、「結婚や出産にかかわらず、仕事を続けるほうがよい」と回答した人が40.0%と多くなっている。

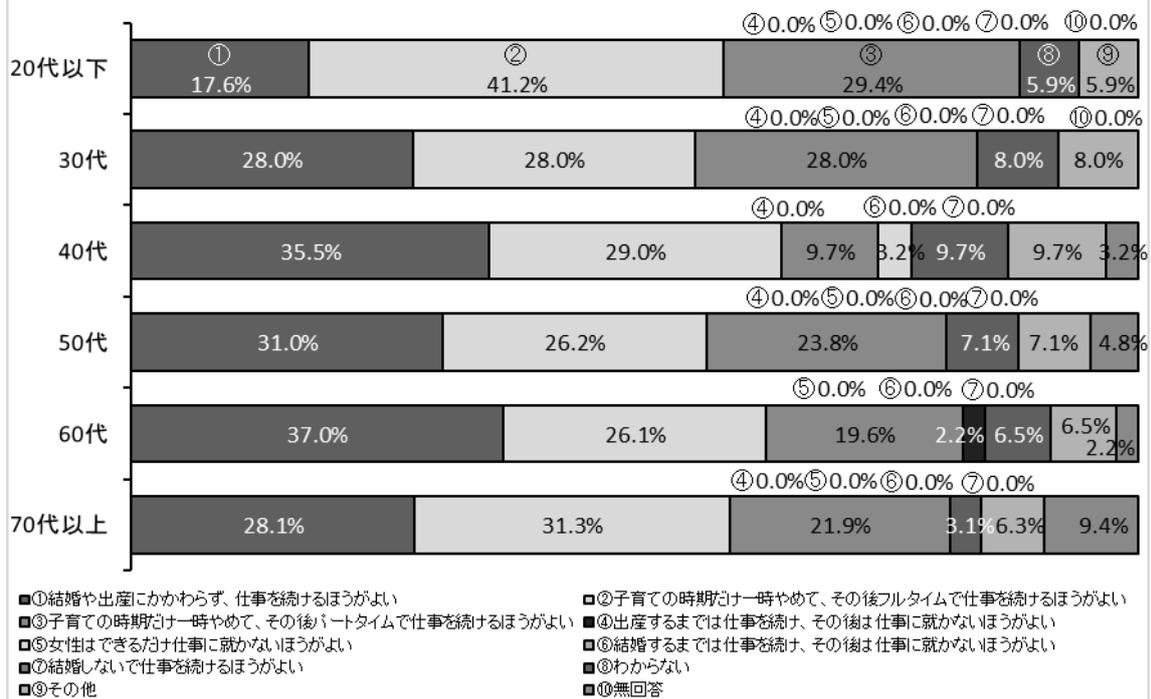
また、20代では、「子育ての時期だけ一時やめて、その後フルタイムで仕事を続けるほうがよい」、「子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで仕事を続けるほうがよい」と回答した人も加えると女性では83.4%、男性では88.2%となり、共働きを意識している様子がうかがわれる。



【女性】



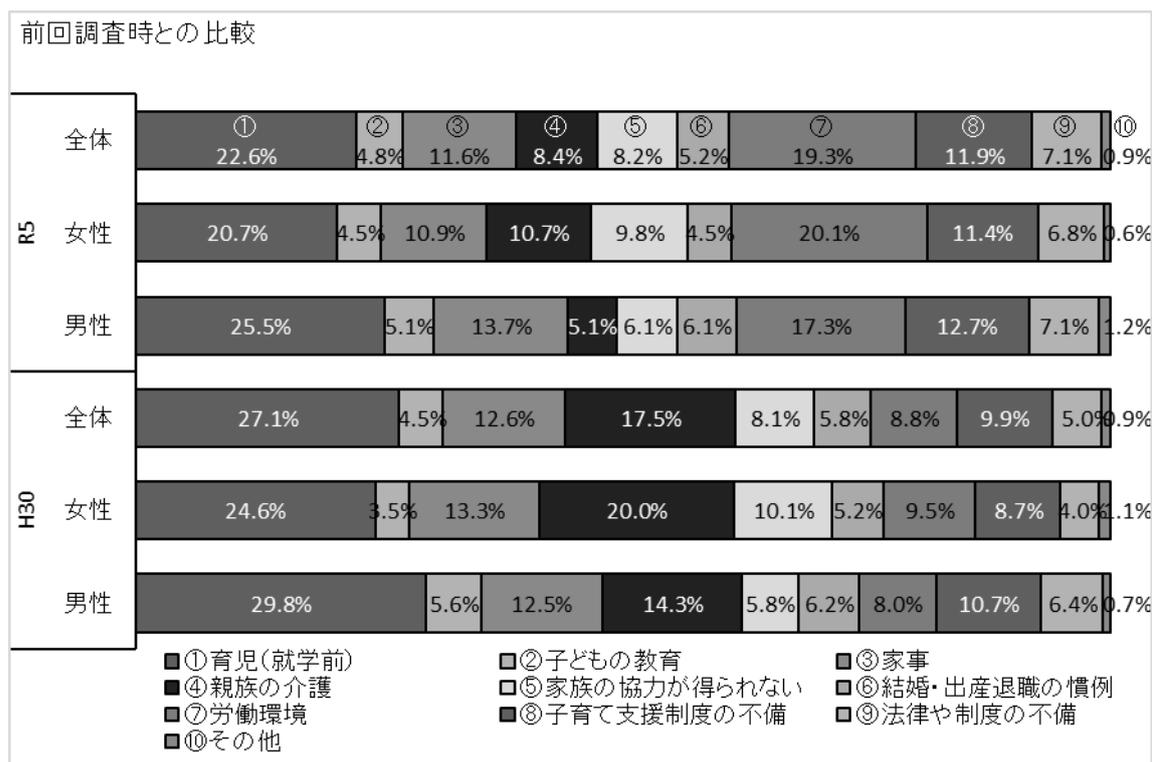
【男性】

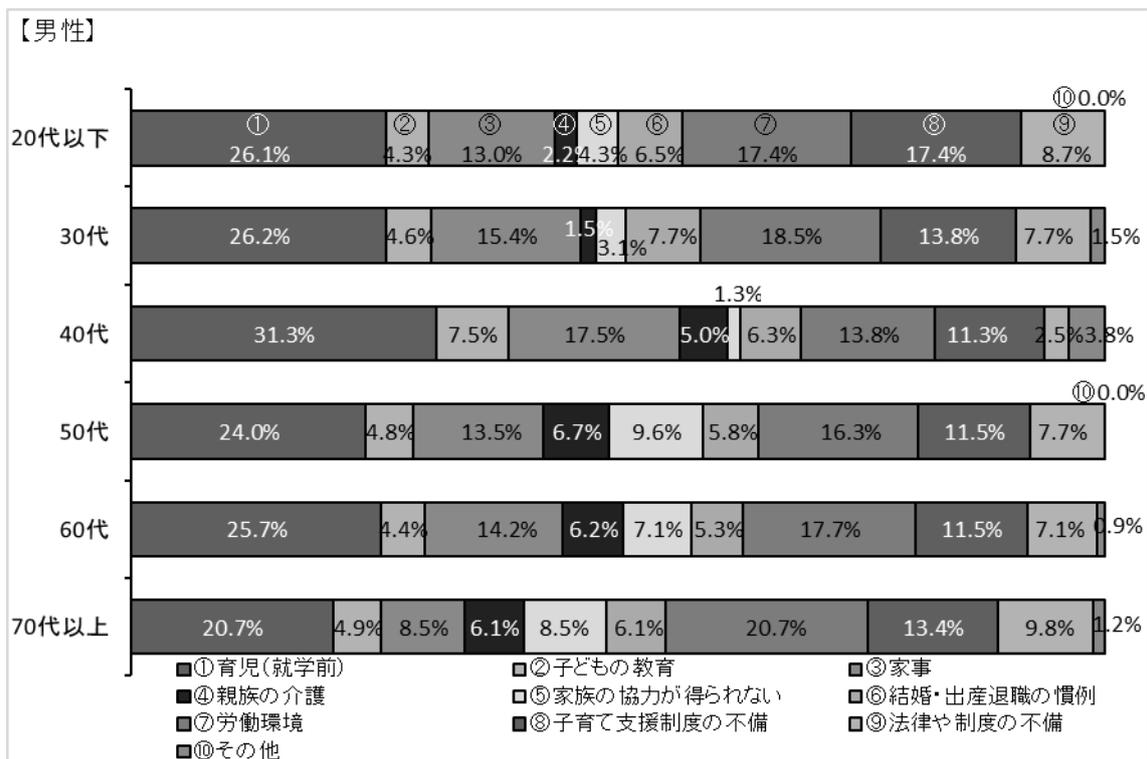
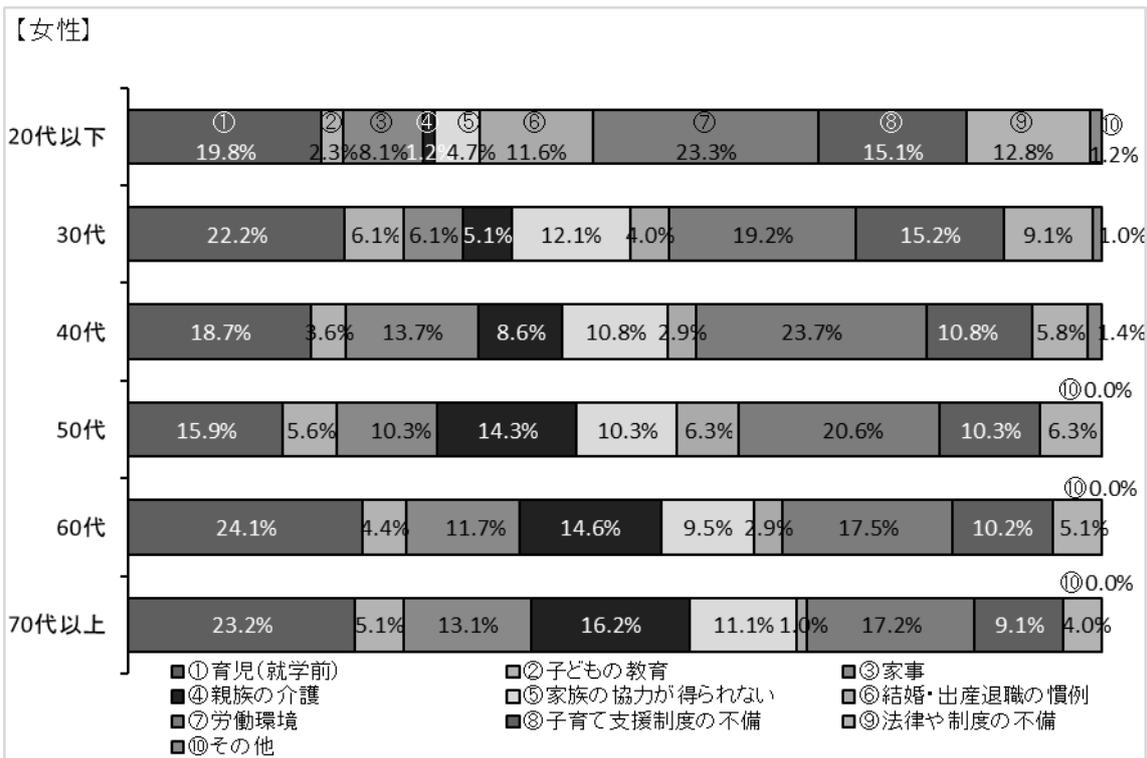


② 女性が意欲を持って働き続けるための課題

全体では、「育児」と回答した人（22.6%）が一番多く、次に「労働環境」（19.3%）、
「子育て支援制度の不備」（11.9%）となっている。なお、前回に比べて「親族の介護」
が9.1ポイント減ったが、「労働環境」は10.5ポイント増えた。

年代別では、男女とも40代で「家事」をあげている人が多い。また、年代が上がるほど
「親族の介護」をあげており、特に女性の50代以上でその傾向が顕著である。

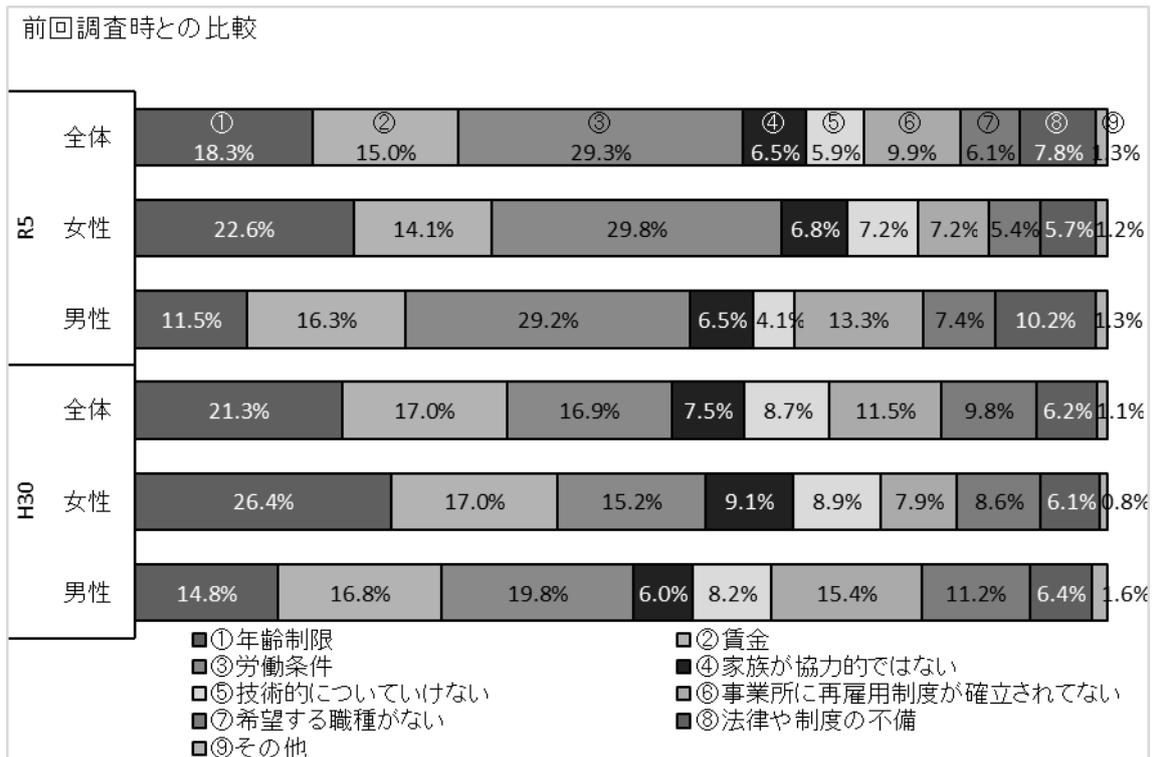




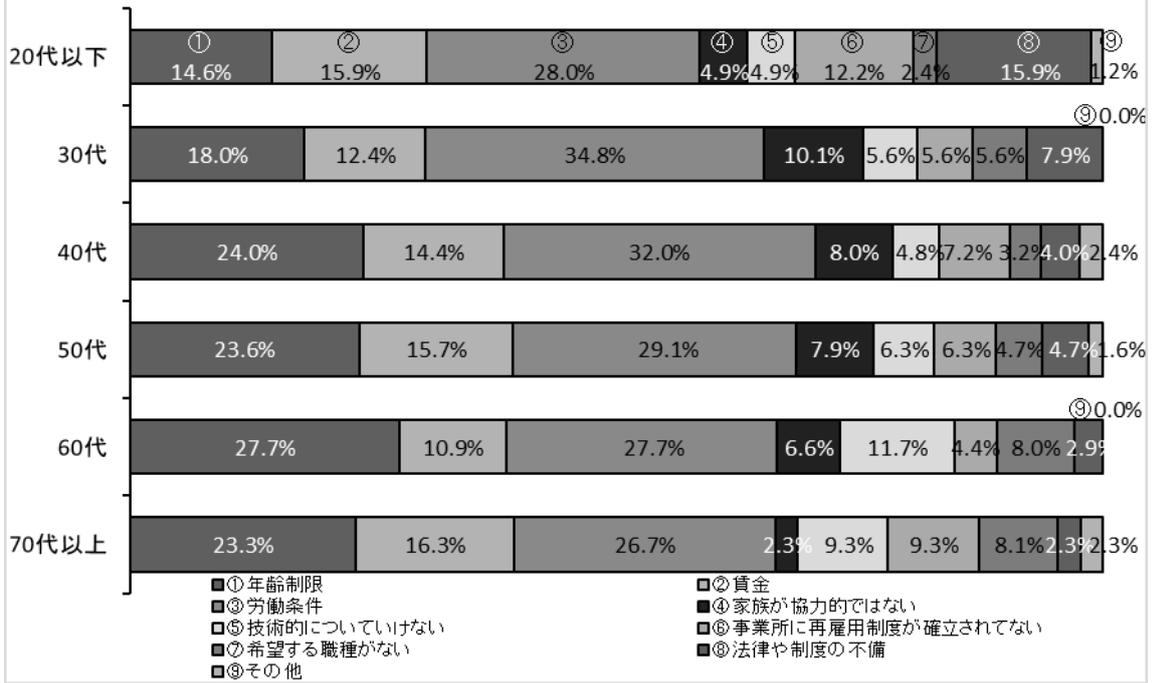
③ 女性が再就職しようとする場合の課題

全体では、「労働条件」と回答した人（29.3%）が多く、2番目に「年齢制限」（18.3%）、3番目に「賃金」（15.0%）としている。「労働条件」は前回（16.9%）に比べて12.4ポイントと大きく増えている。女性では「年齢制限」と回答した人が男性よりも多い。

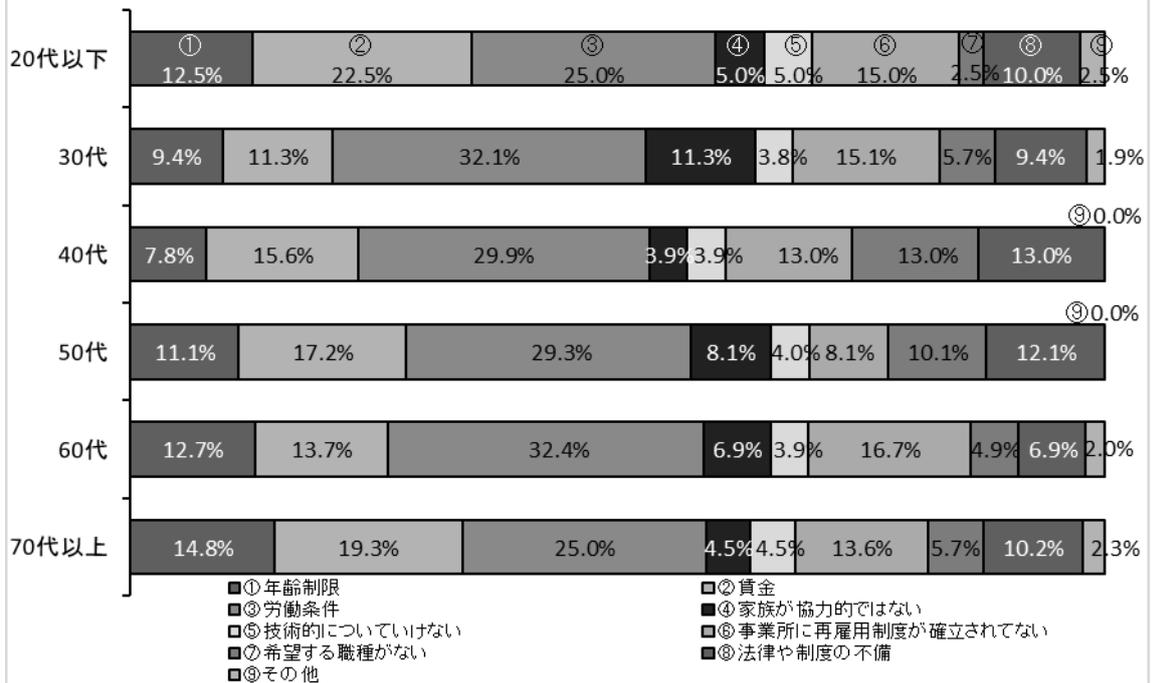
年代別でみると、男女とも30代で上位3項目以外では「家族が協力的でない」と回答した人が多くなっている。



【女性】



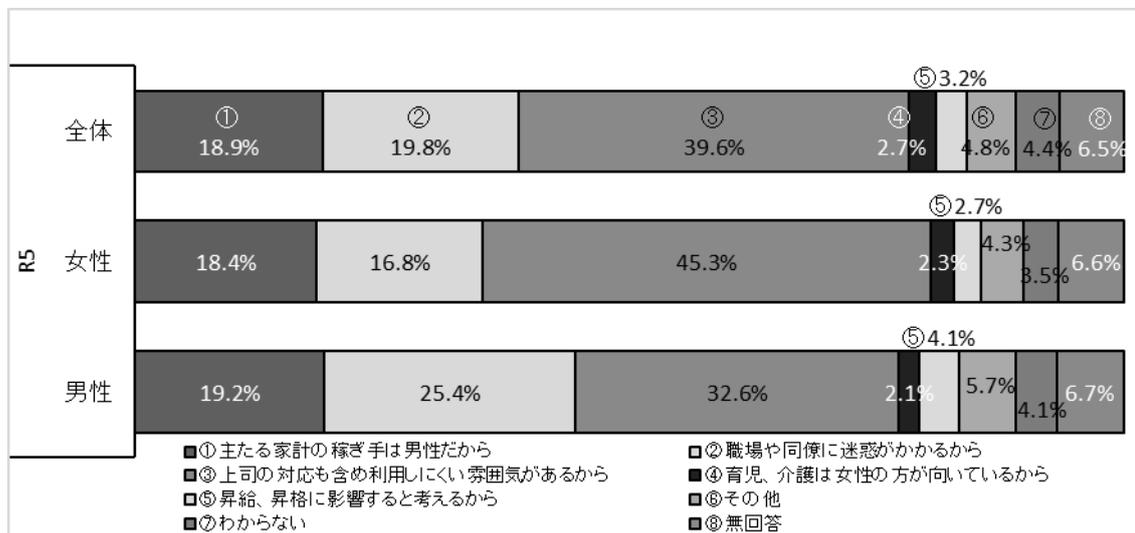
【男性】

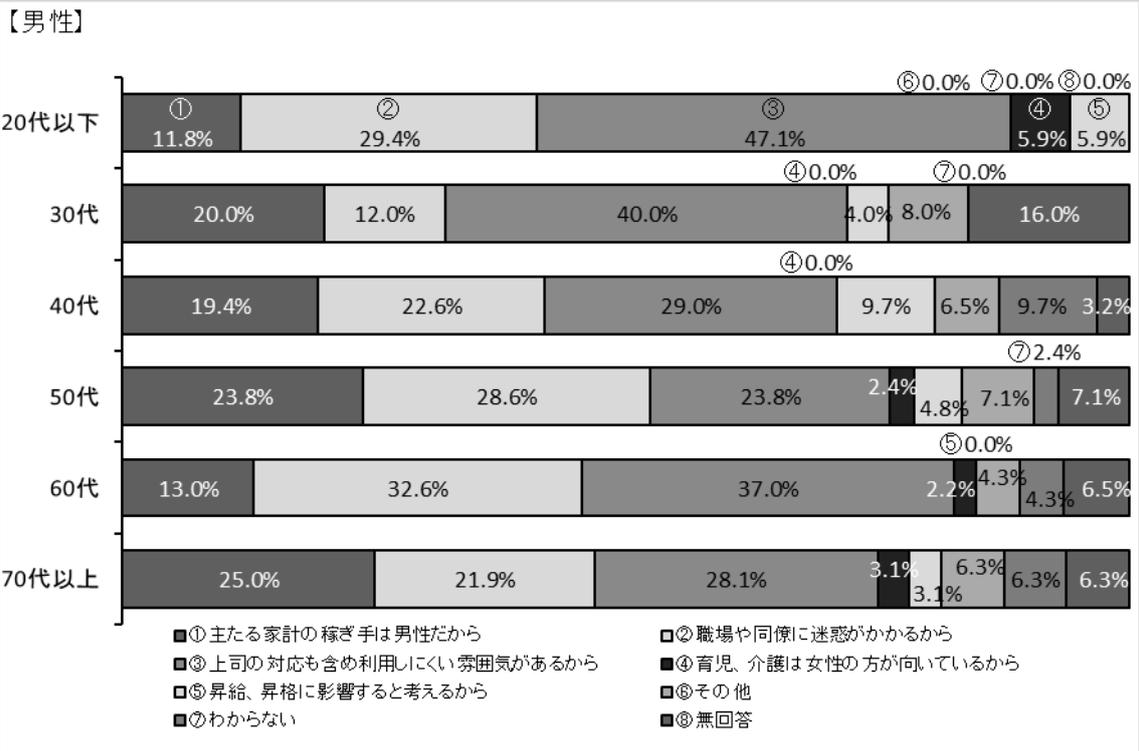
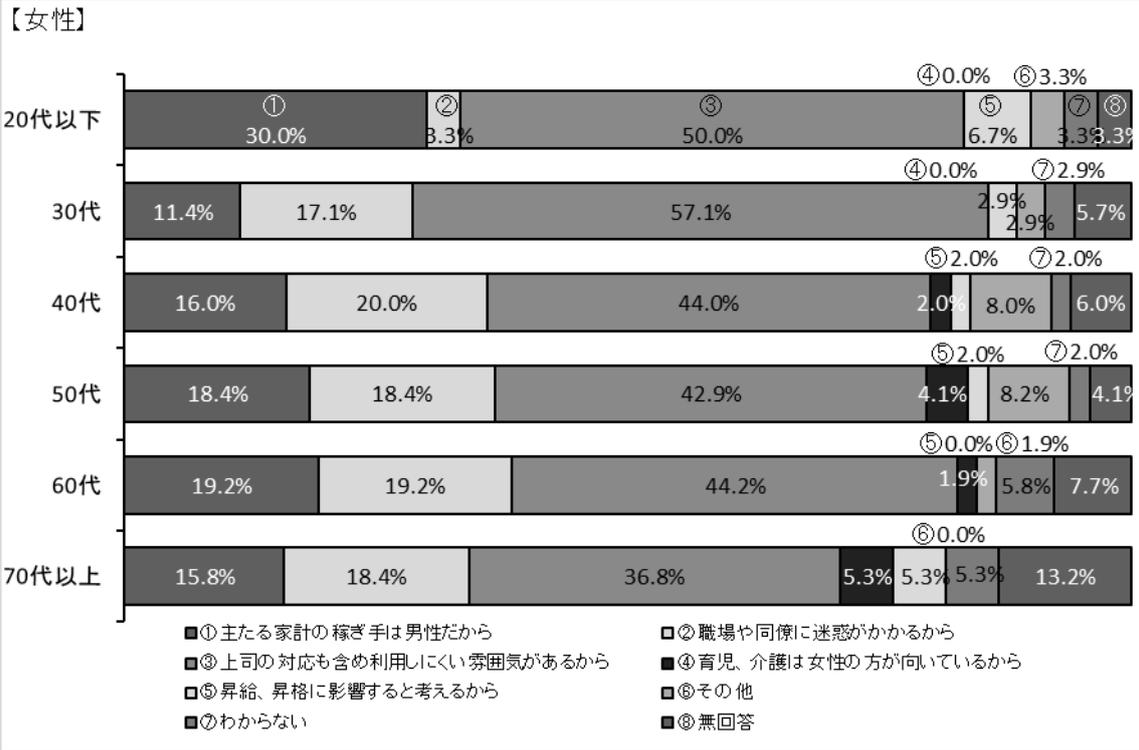


④ 男性の「育児・介護休業制度」の利用が進まない理由

全体では、「上司の対応も含め利用しにくい雰囲気があるから」と回答した人が39.6%と多い。次いで「職場や同僚に迷惑がかかるから」が19.8%であった。特に男女とも20代、30代がその傾向が強い。

※令和5年度より調査

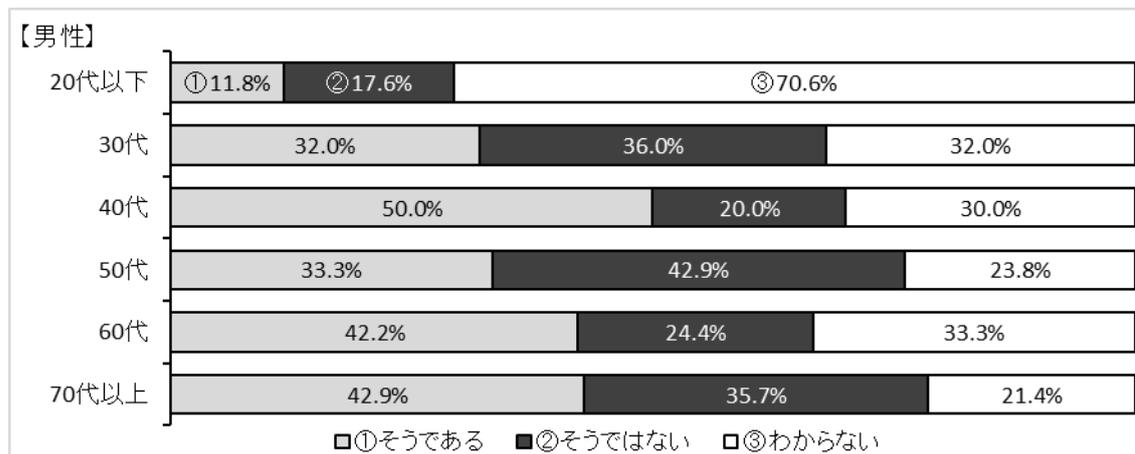
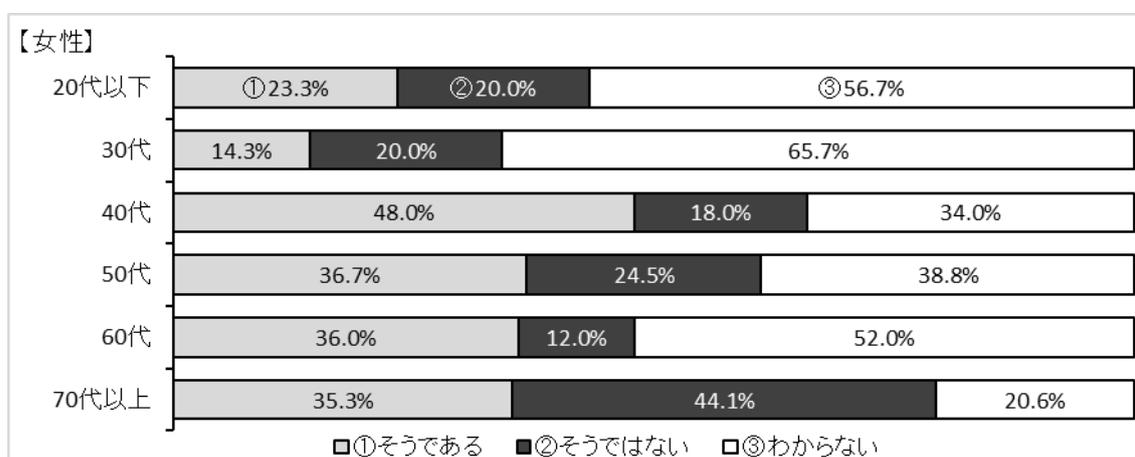
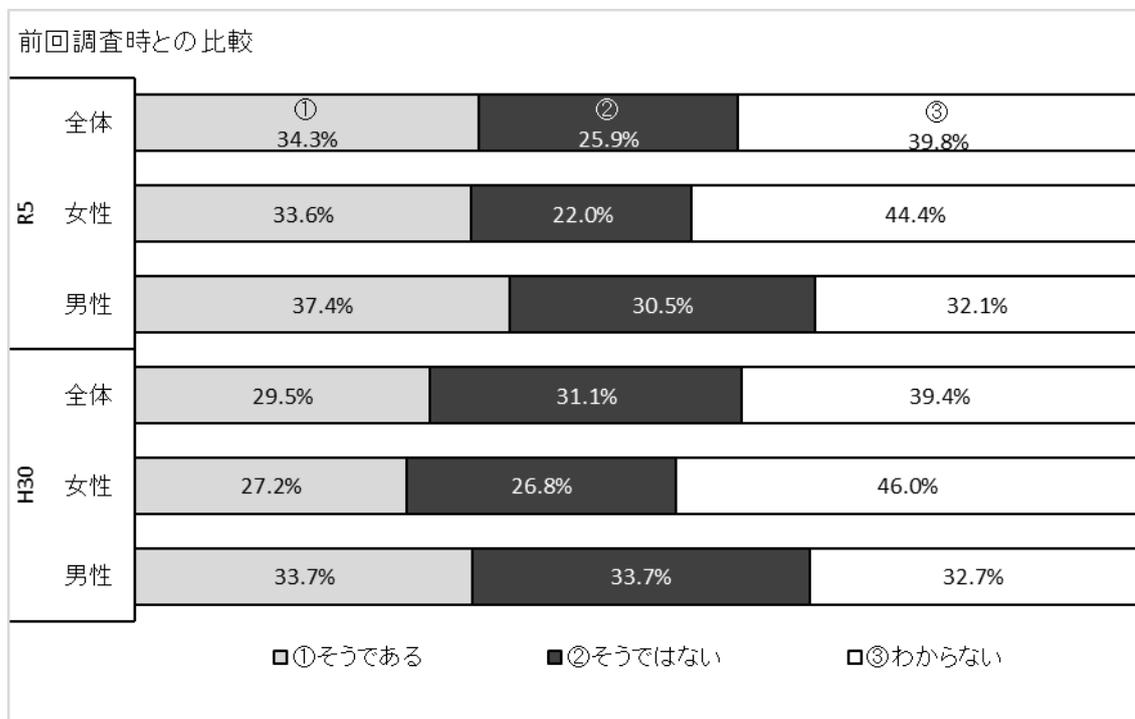




(5) 地域活動における男女共同参画の状況について

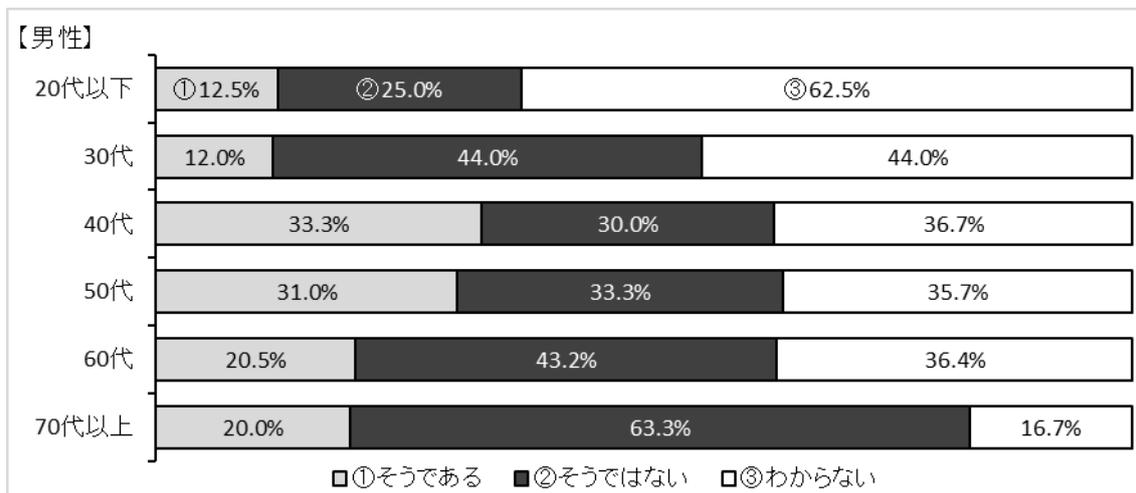
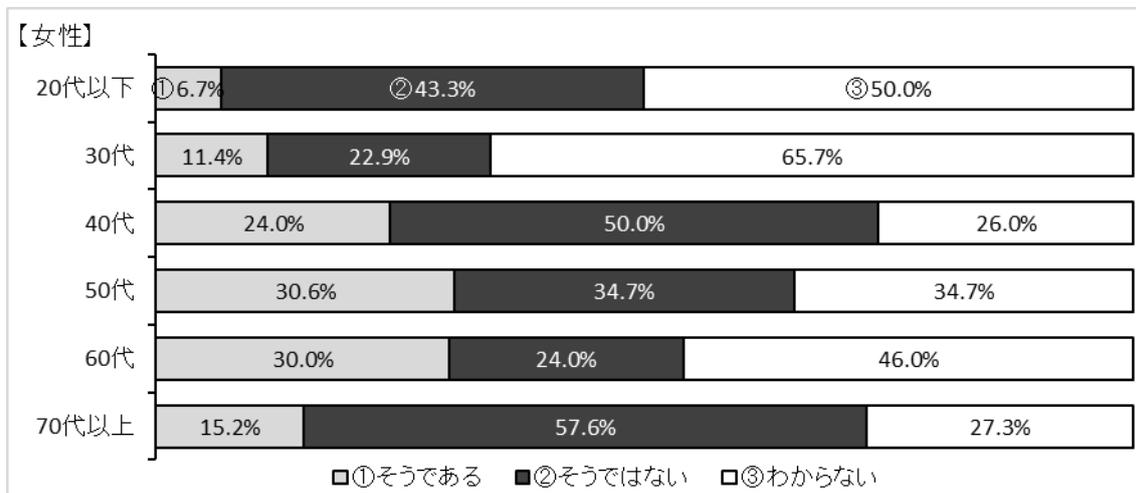
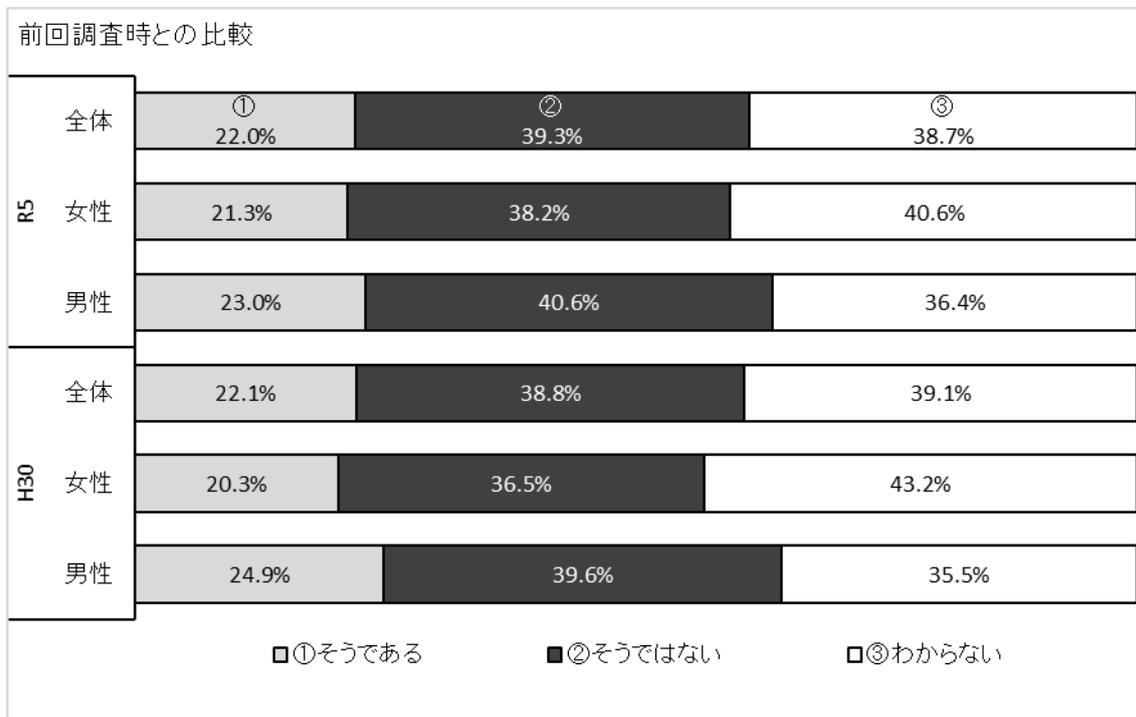
① 力仕事は男性、接待は女性と決まっている

全体では、34.3%が「そうである」と回答しており、前回(29.5%)に比べて4.8ポイント増えている。年代別でみると、男女とも40代で「そうである」が多く、女性の70代以上、男性の50代では「そうではない」が多い。



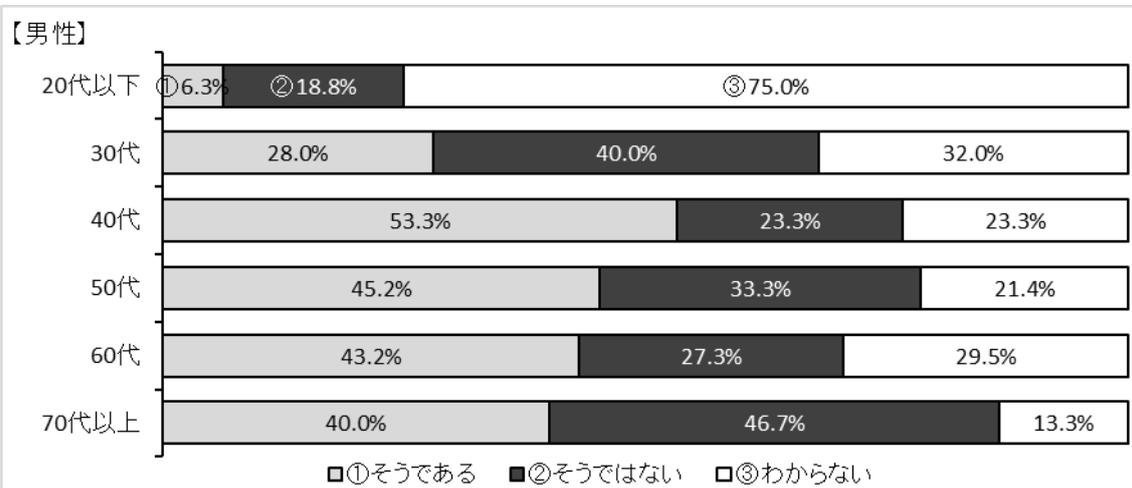
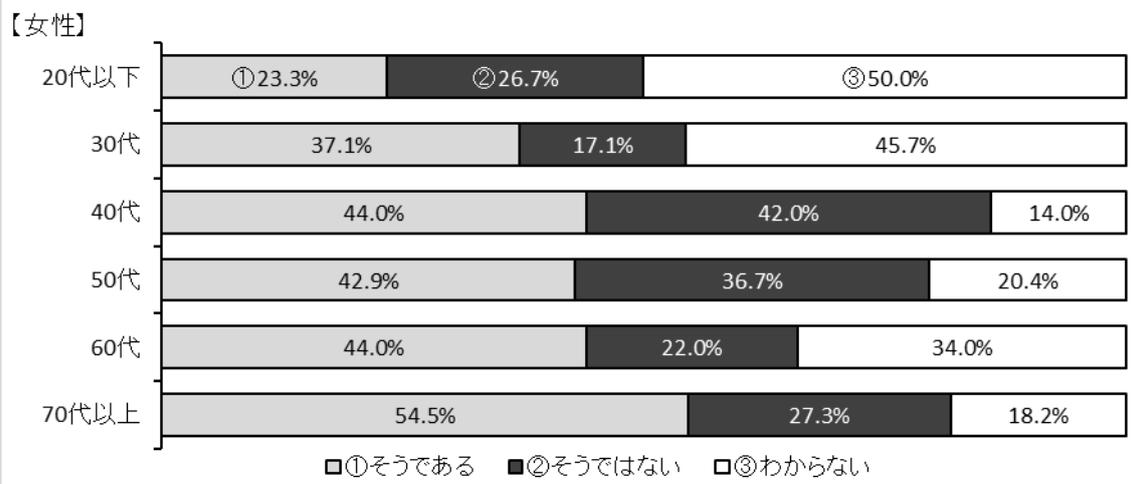
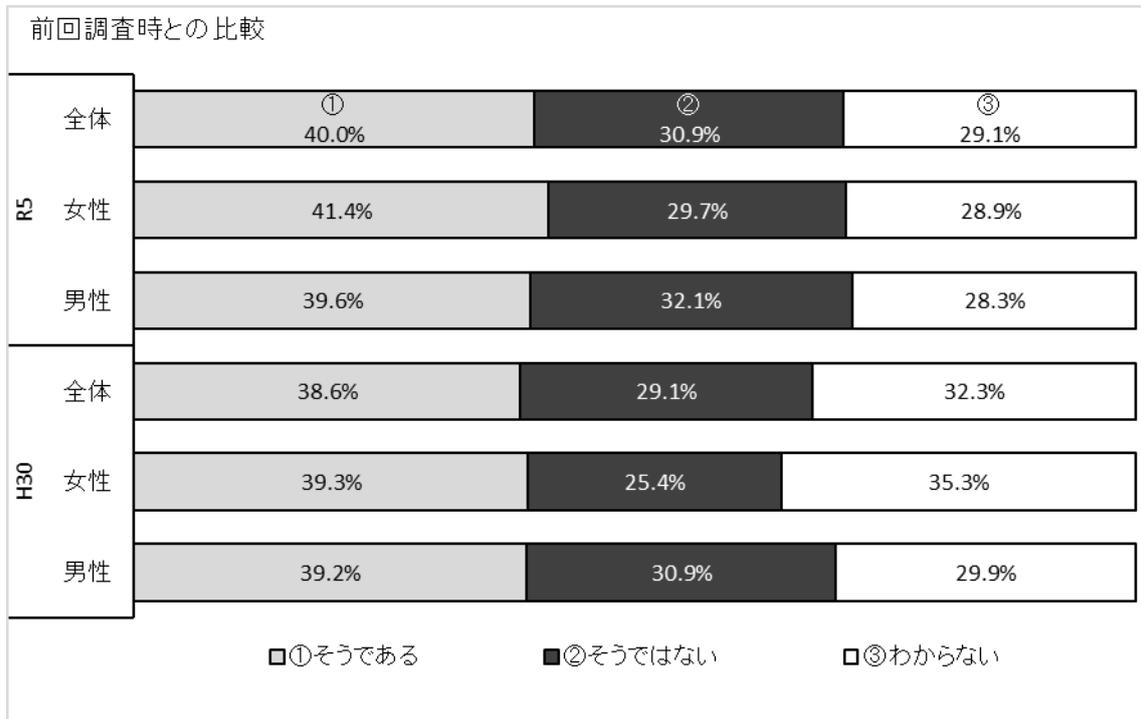
② 自治会やPTA会長は男性と決まっている

全体では39.3%が「そうではない」と回答しており、前回（38.8%）と比較して大きな変化は無い。年代別では、男女とも70代以上で6割前後が「そうではない」と回答しており、多い状況である。一方「そうである」と回答した人をみると、女性の50代、60代、男性の40代、50代が3割程いる。



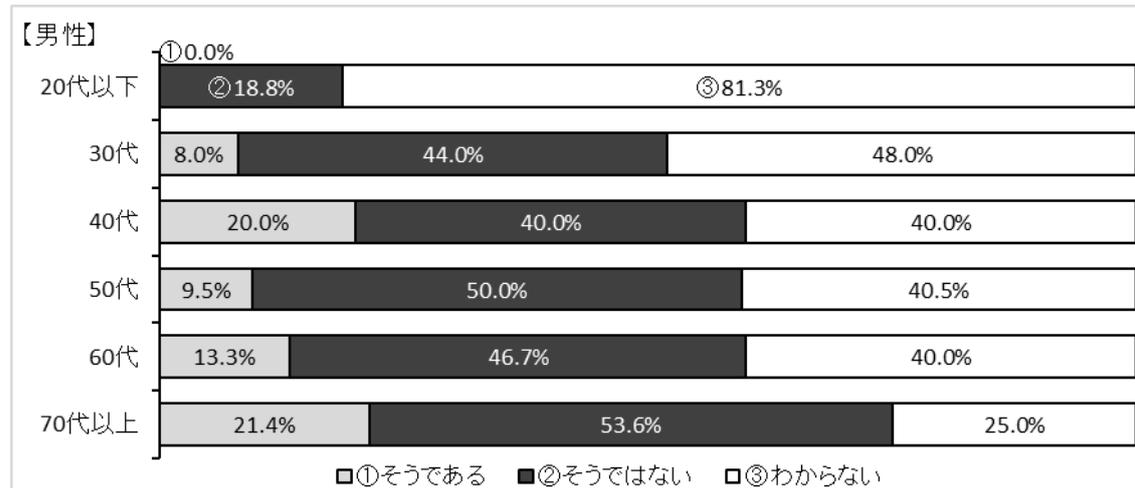
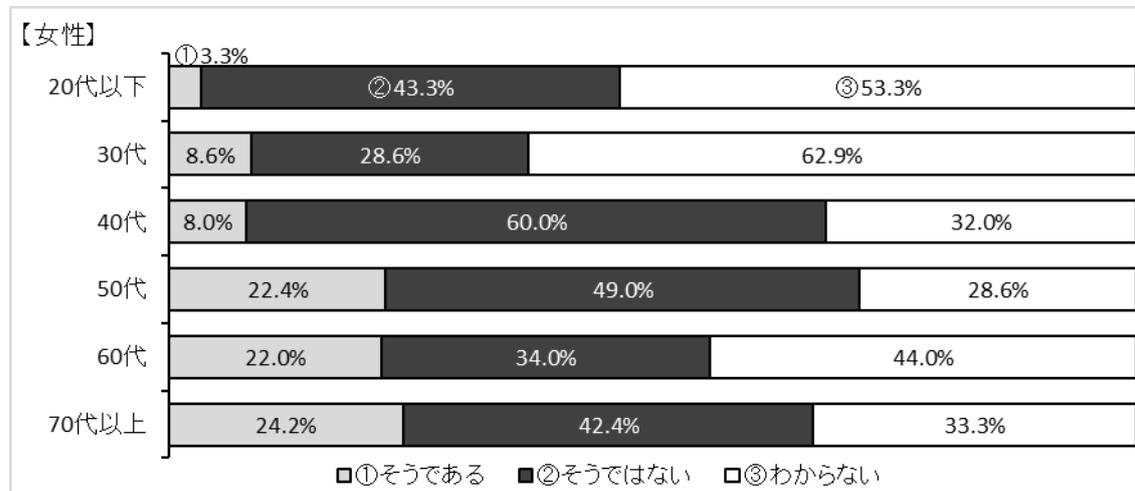
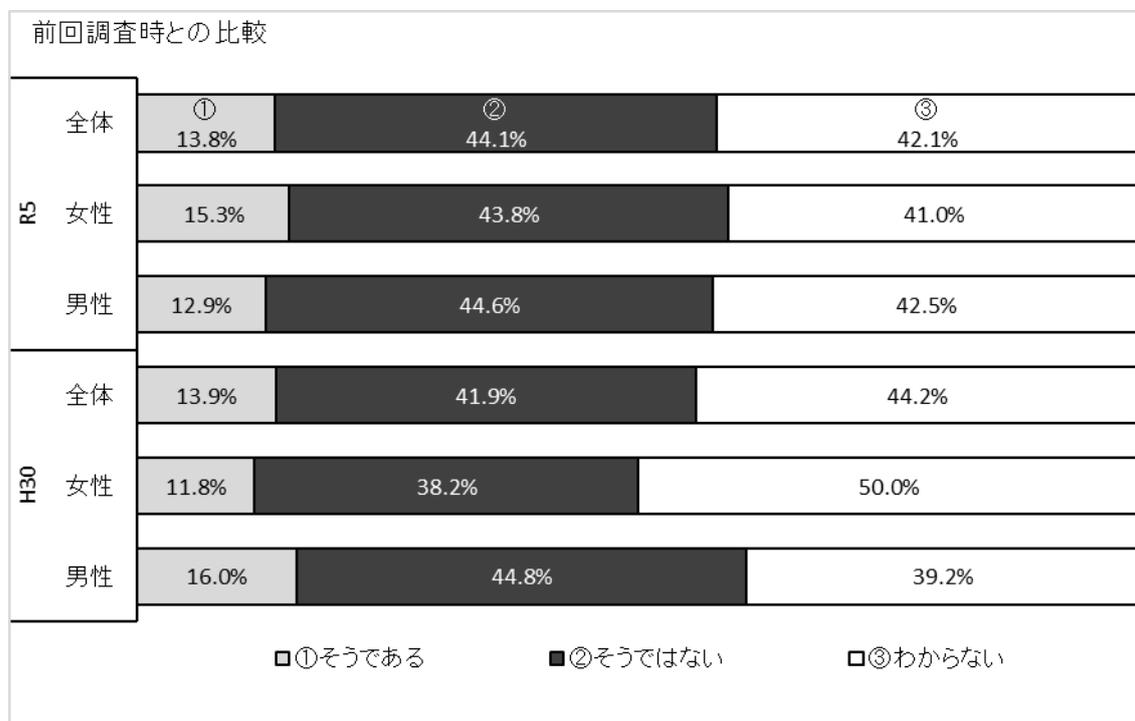
③ 自治会やPTAの責任ある役職はほとんどが男性である

全体では40.0%の人が「そうである」と回答しており、前回（38.6%）と比べて1.4ポイント増えている。男女とも40代以上では「そうである」と回答した人が4割を超えている。



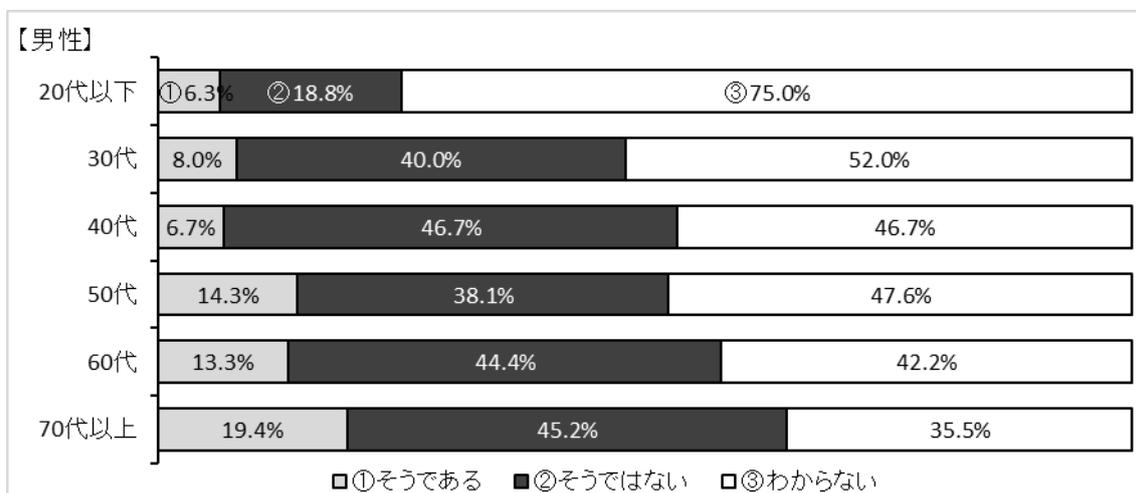
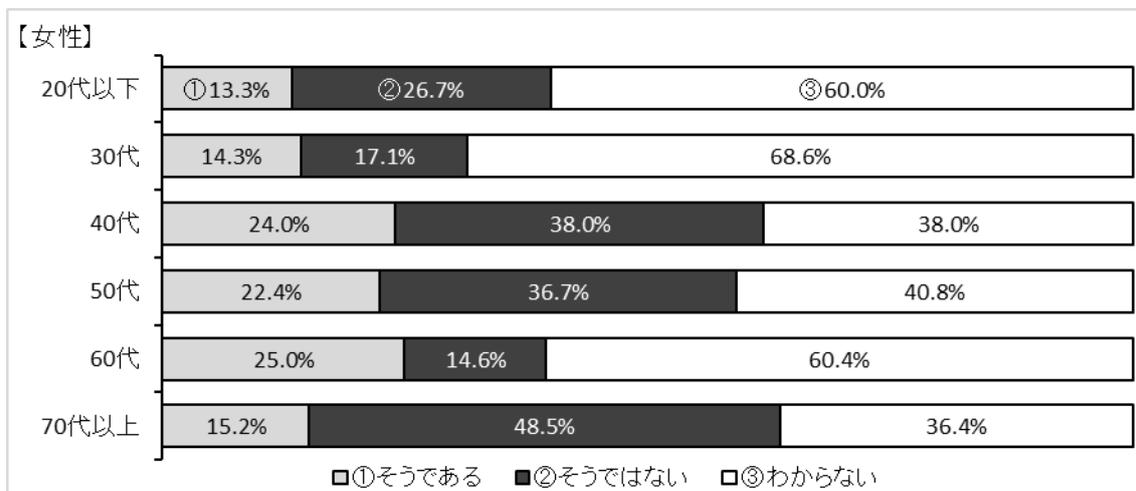
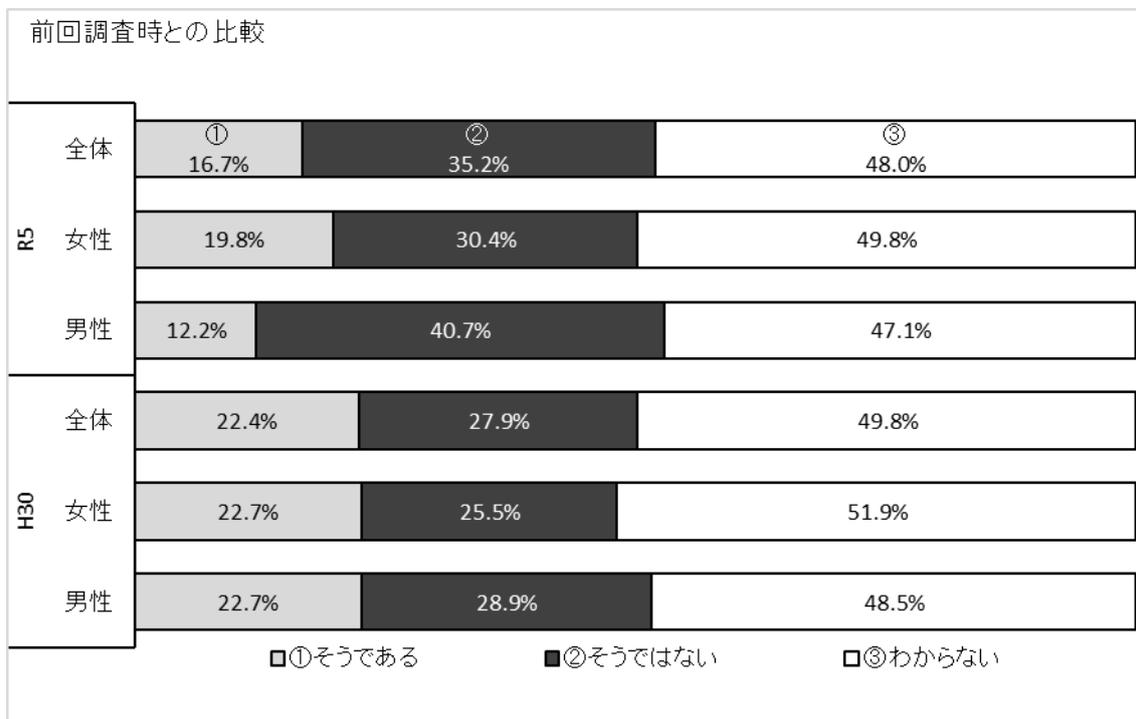
④ 役員や組織の運営事項は男性だけで決めている

全体では、44.1%が「そうではない」と回答しており、前回（41.9%）に比べて2.2ポイント増えている。なお、男女とも20代から30代において、わからないと回答した人が多く、地域活動にかかわりが少ないのではないかとと思われる状況がうかがわれる。



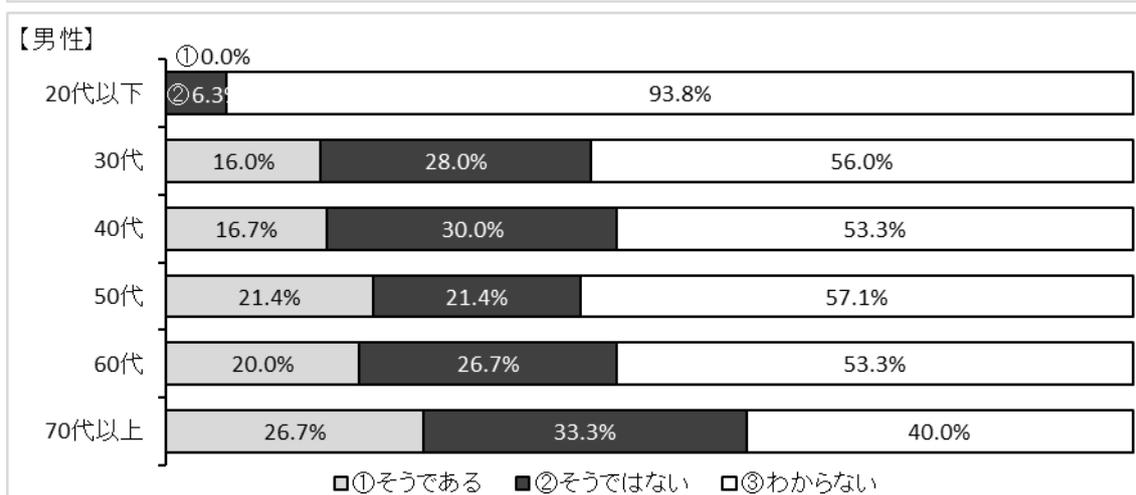
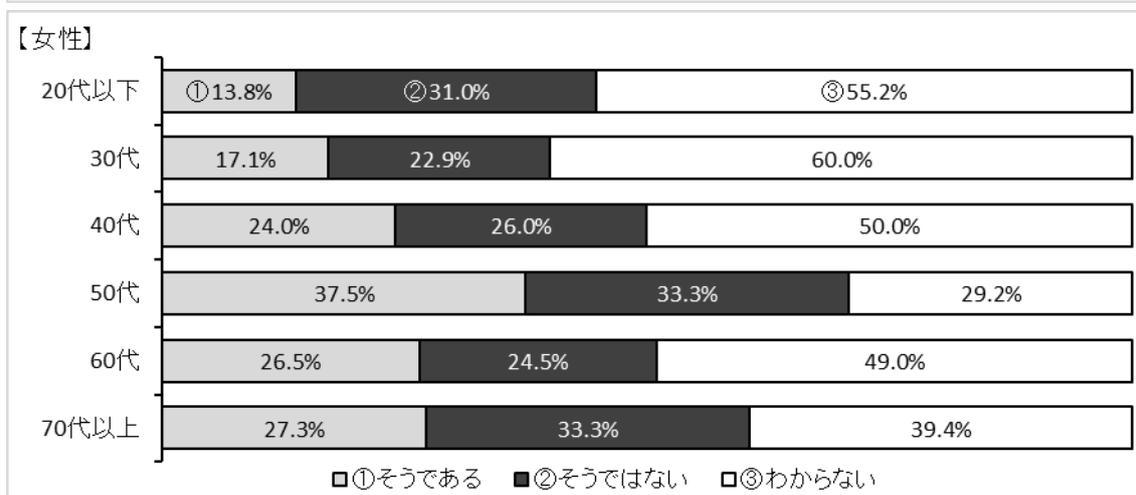
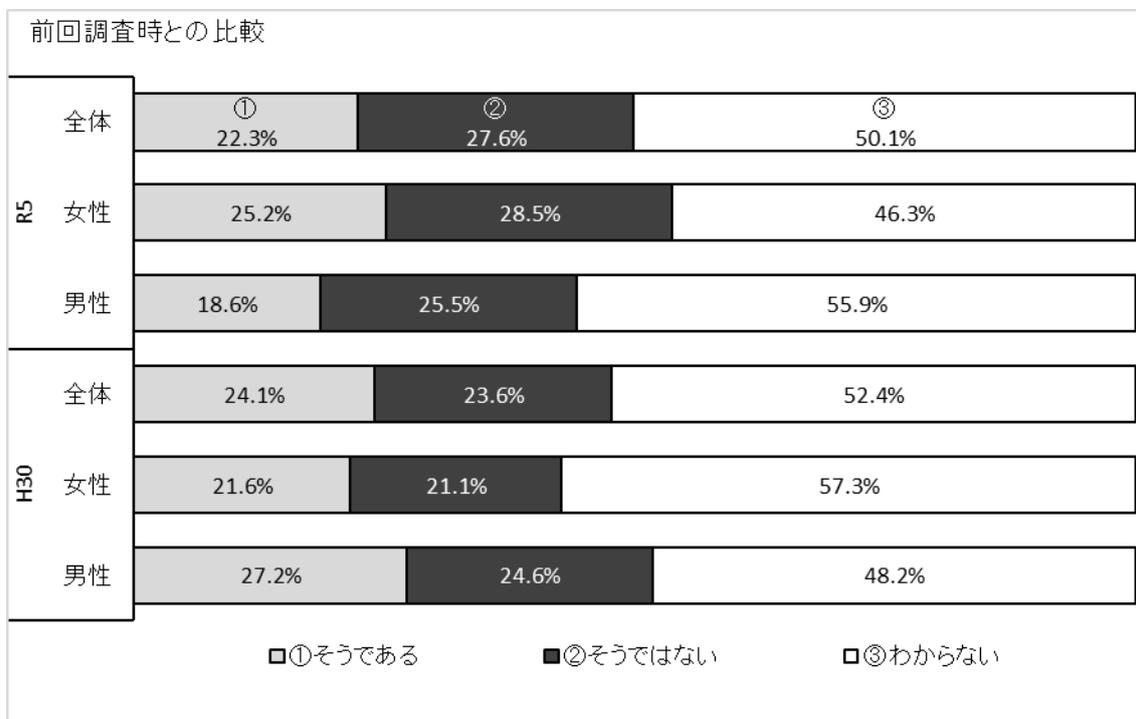
⑤ 実際の仕事は女性がしているのに、名義は男性になっている

全体では、35.2%が「そうではない」と回答しており、前回（27.9%）に比べて7.3ポイント増えている。



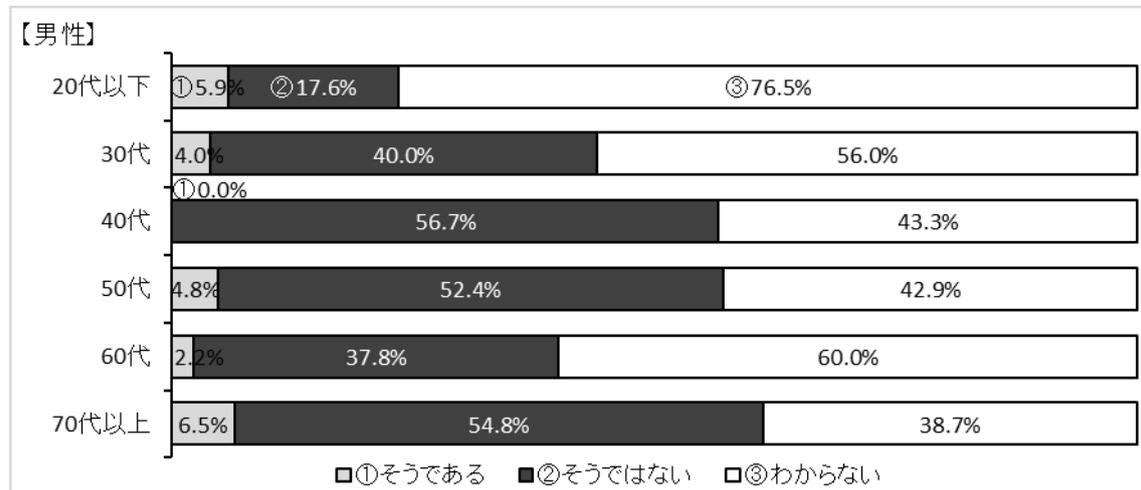
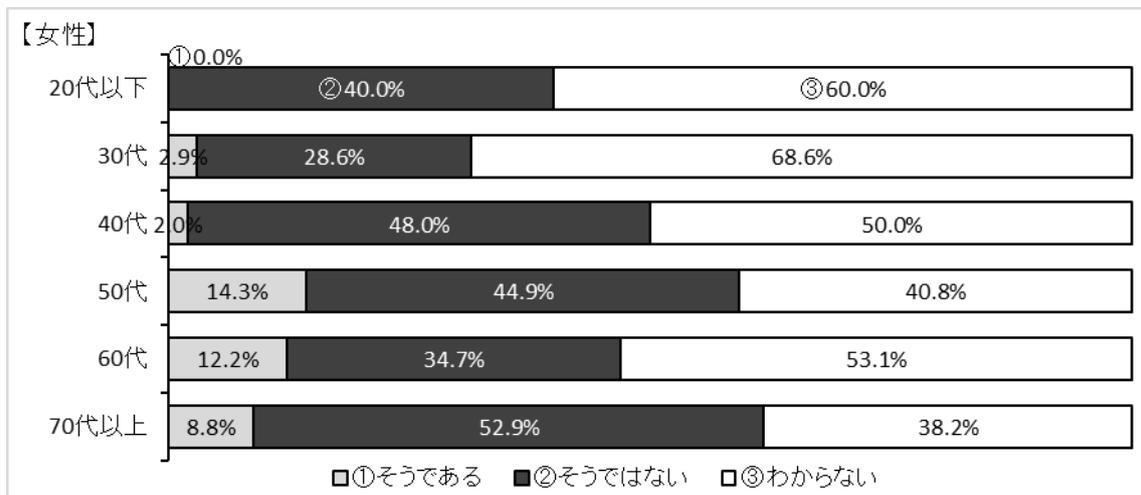
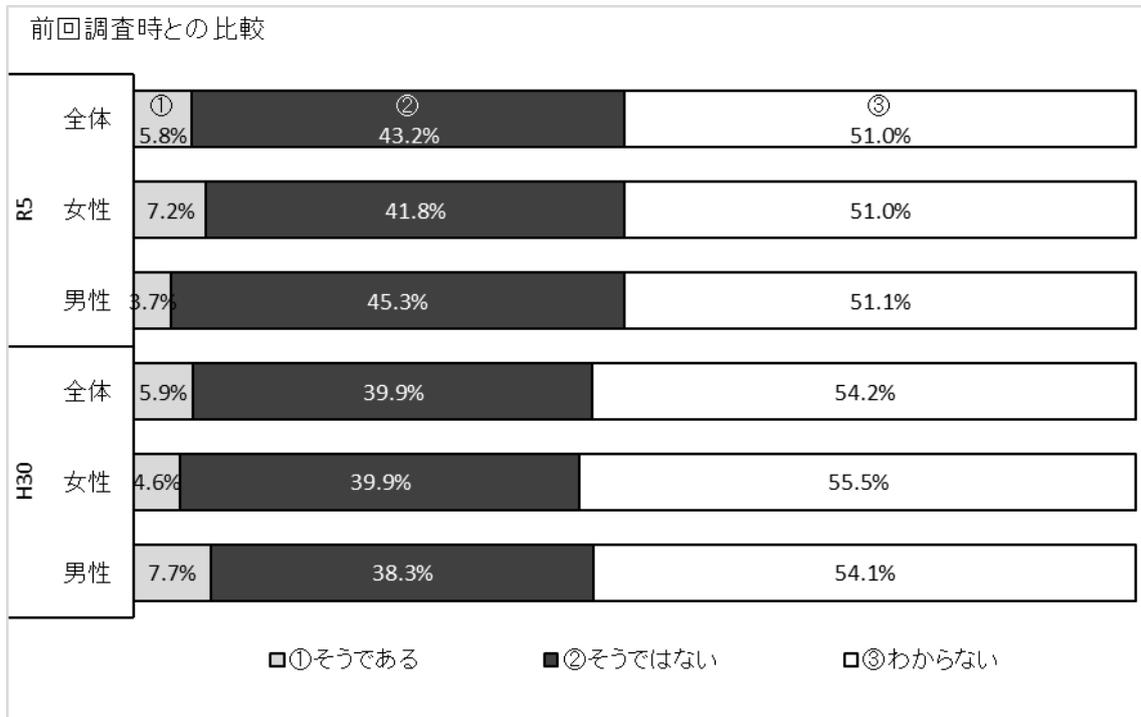
⑥ 女性自身が責任ある役職に就くのを避けている

全体では、27.6%が「そうではない」と回答しており、前回（23.6%）に比べて4.0ポイント増えている。ほかの設問に比べて「そうである」（22.3%）と「そうではない」（27.6%）が拮抗している。なお、女性の50代では「そうである」と回答した人が37.5%と多かった。



⑦ 女性が責任ある役職に就こうとすると、男性や他の女性から反対される

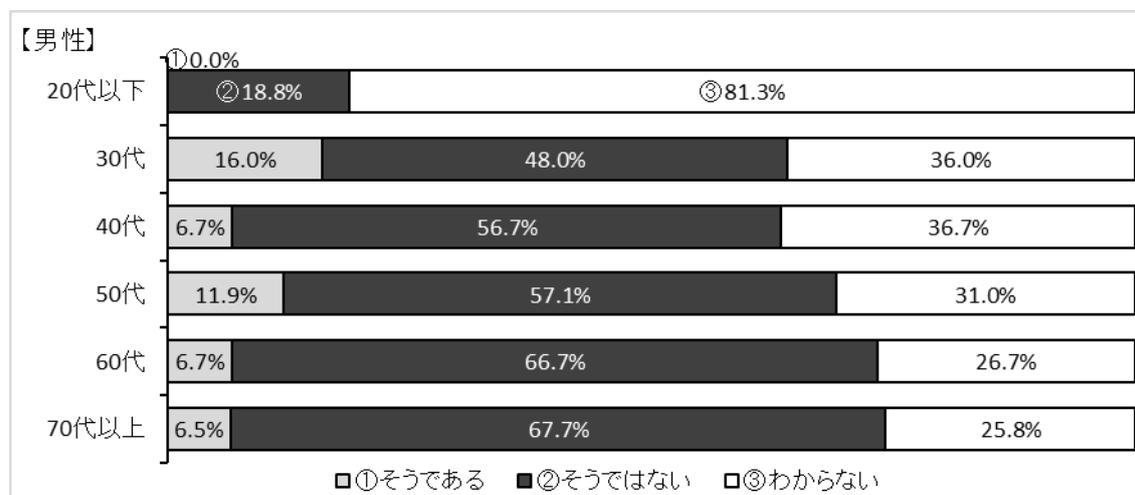
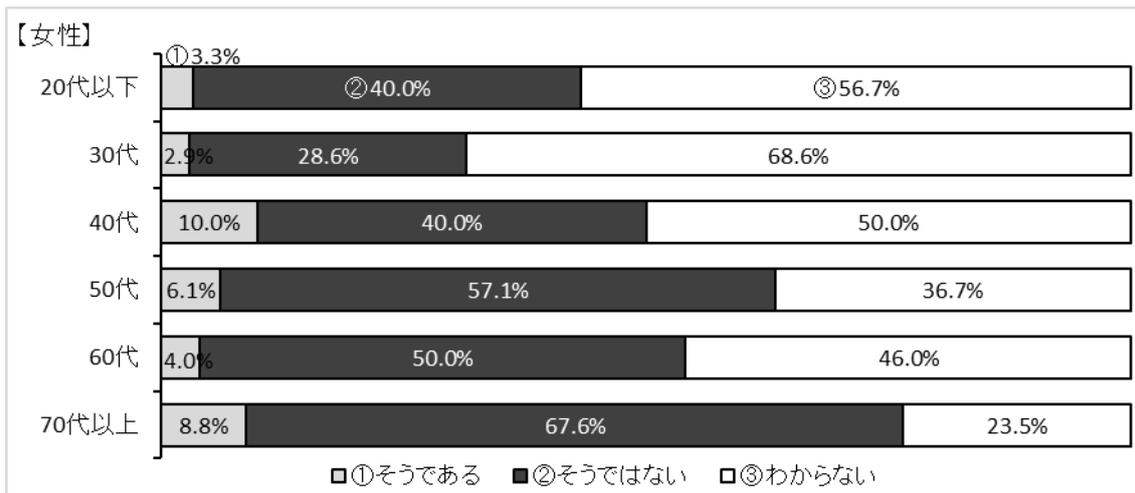
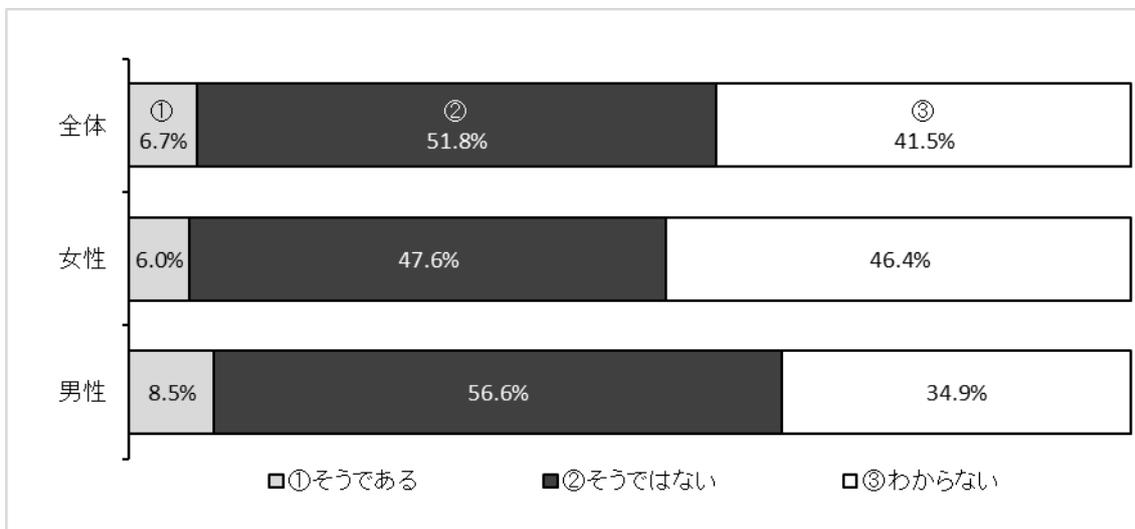
全体では、43.2%が「そうではない」と回答しており、前回（39.9%）に比べて3.3ポイント増えている。一方、「そうである」と回答した人もわずかであるが、未だ役割分担意識が強く残っていることがうかがわれる。



⑧ 防災や災害時での活動は男性だけで行っている

全体では、51.8%が「そうではない」と回答している。一方、「わからない」と回答した人が全体的に女性に多いことから、防災や災害時にかかわりが少ない様子が見られる。

※令和5年度より調査

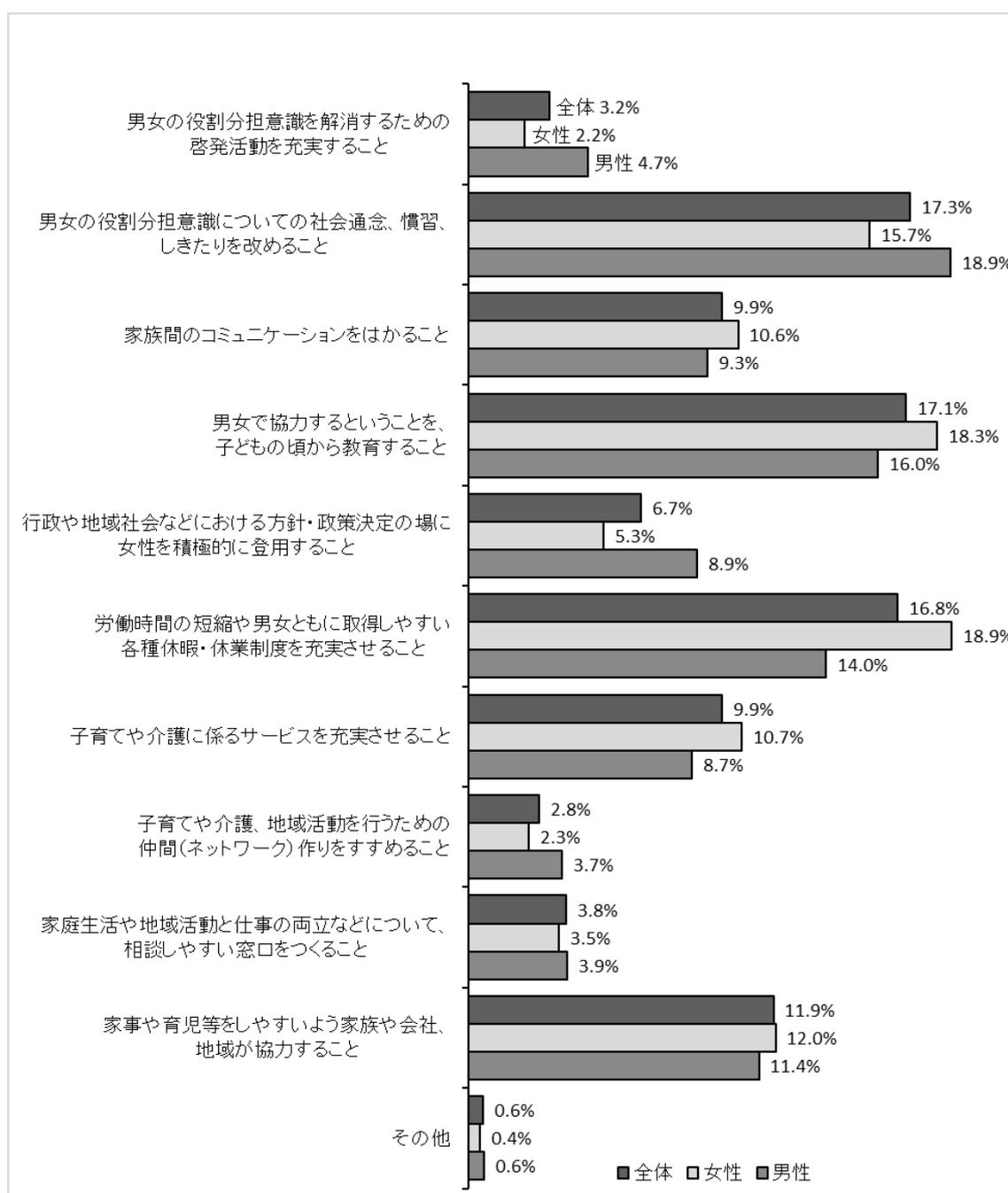


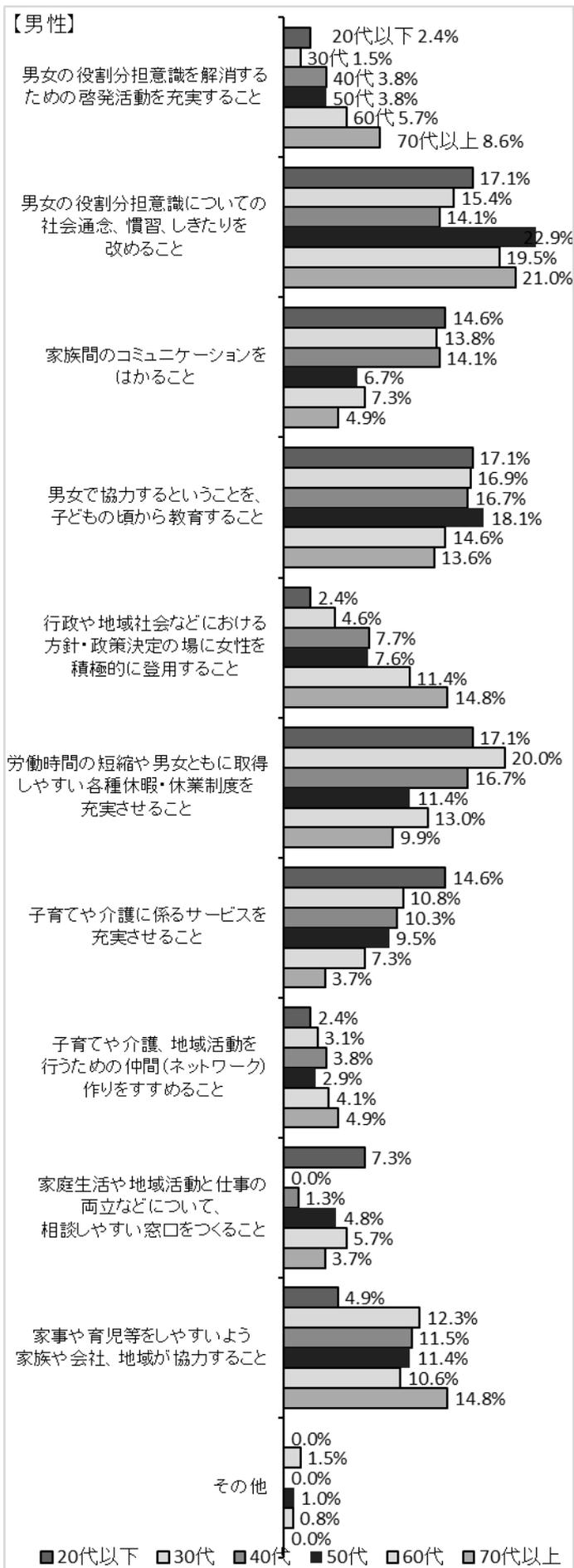
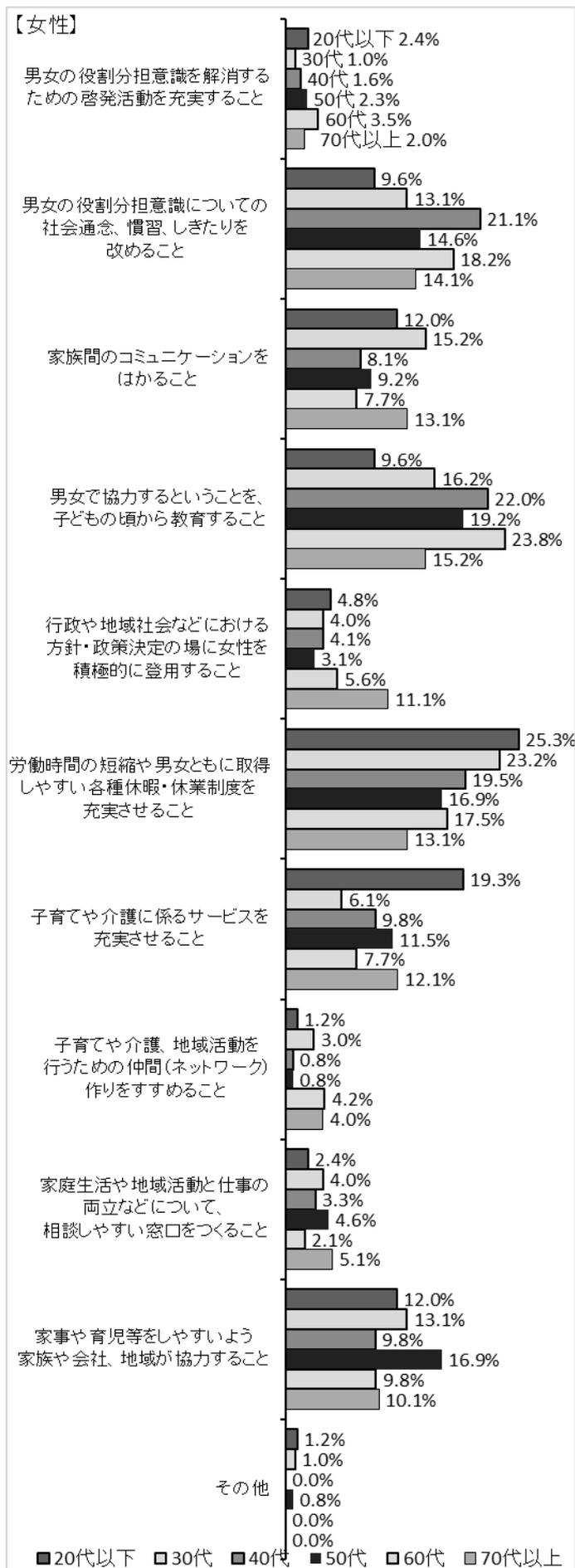
(6) 男女がともに社会に参加するために重要なこと

全体では、「男女の役割分担意識についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」(17.3%)、「男女で協力するということ、子どもの頃から教育すること」(17.1%)、「労働時間の短縮や男女ともに取得しやすい各種休暇・休業制度を充実させること」(16.8%)と回答した人が多い。

女性では「労働時間の短縮や男女ともに取得しやすい各種休暇・休業制度を充実させること」(18.9%)が一番多く、中でも20代で最も多かった。男性では、「男女の役割分担意識についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」(18.9%)が最も多い。

■男性と女性がともに仕事、家庭、育児、介護、地域活動へ参加していくためには、どのようなことが重要だと思いますか。





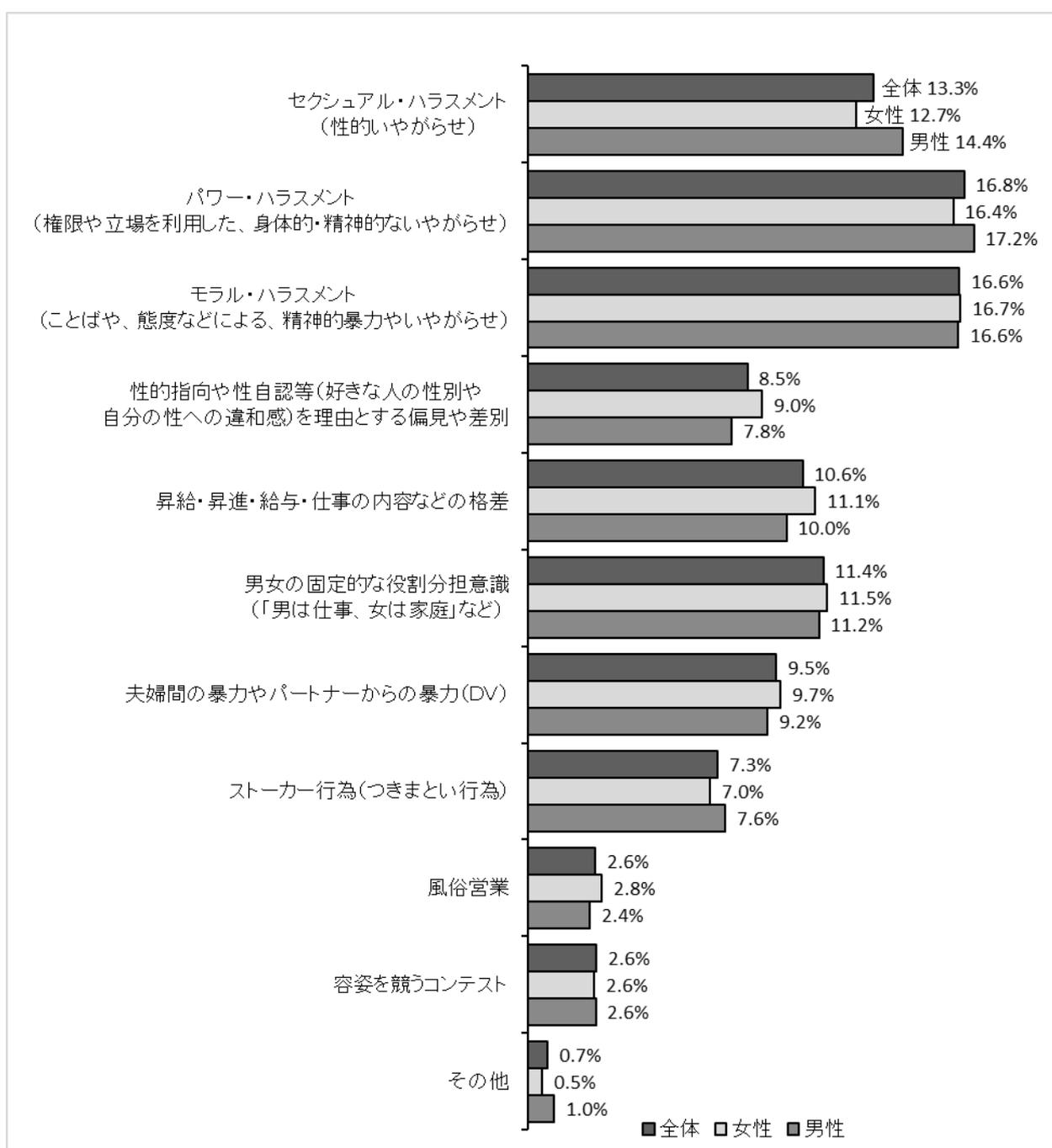
(7) 男女の人権について

① 男女の人権が尊重されていないと感じること

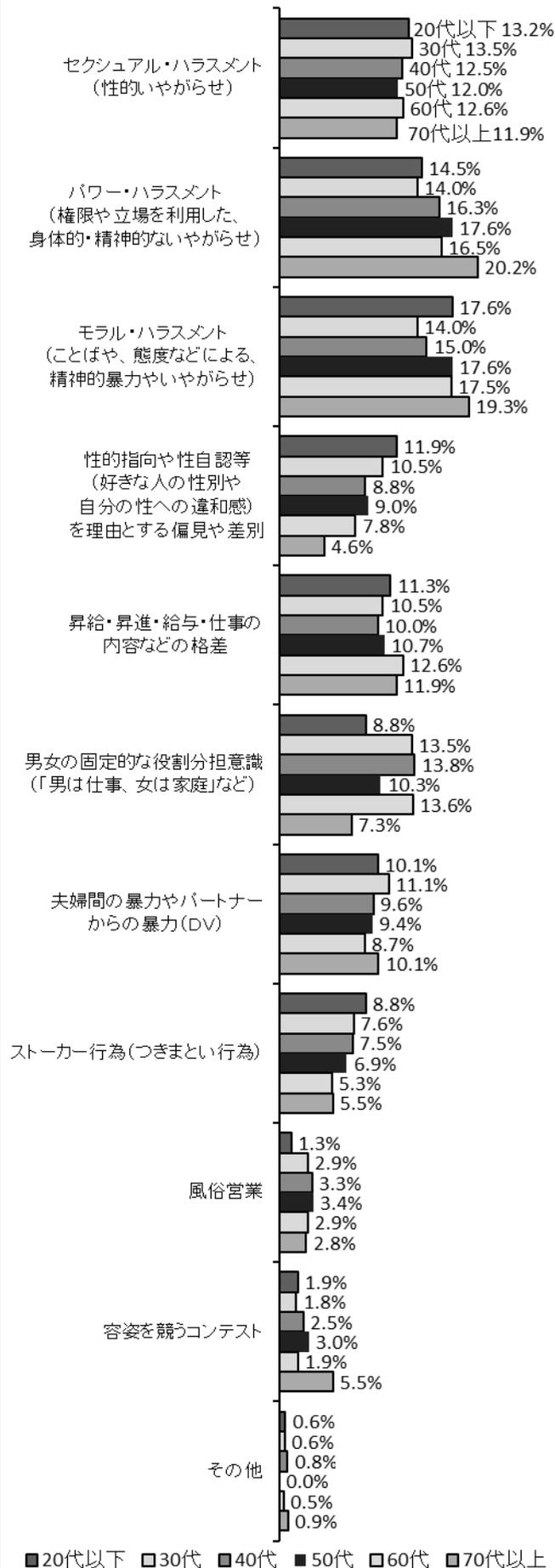
全体では、「パワー・ハラスメント（権限や立場を利用した、身体的・精神的ないやがらせ）」（16.8%）、「モラル・ハラスメント（ことばや、態度などによる、精神的暴力的いやがらせ）」（16.6%）、「セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）」（13.3%）と回答した人が多い。

特に女性の70代以上では「パワー・ハラスメント」が多く、男性の40代では「モラル・ハラスメント」が多くなっている。

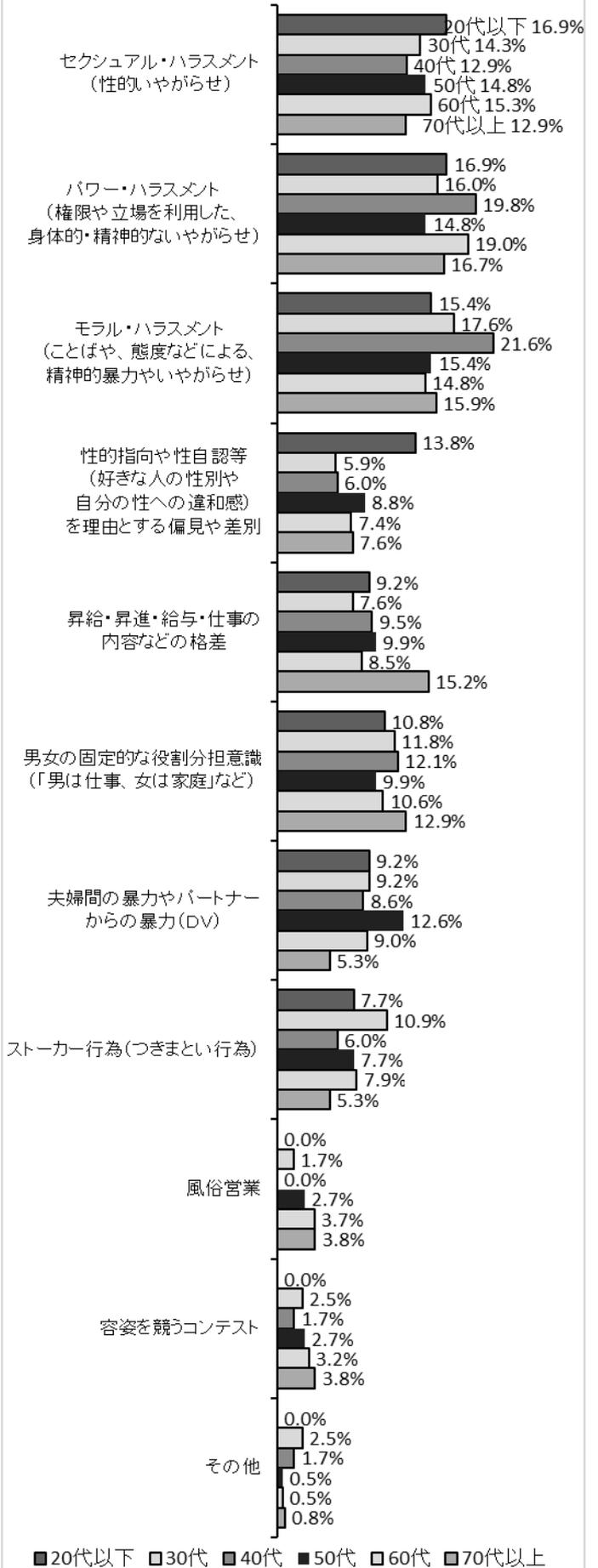
■人権が尊重されていないと感じることはどんなことですか。



【女性】



【男性】

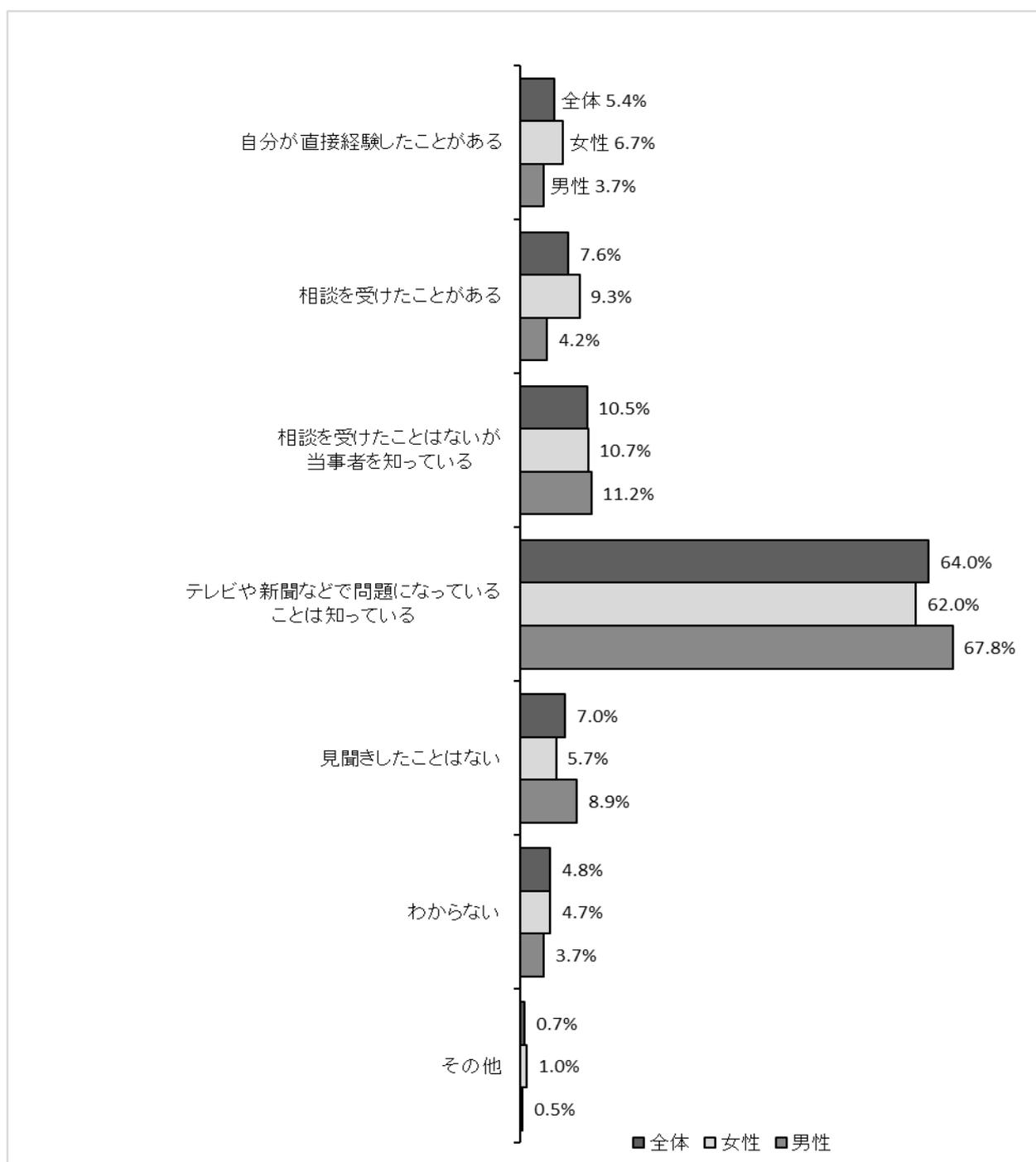


② DVを経験したり、見聞きした経験

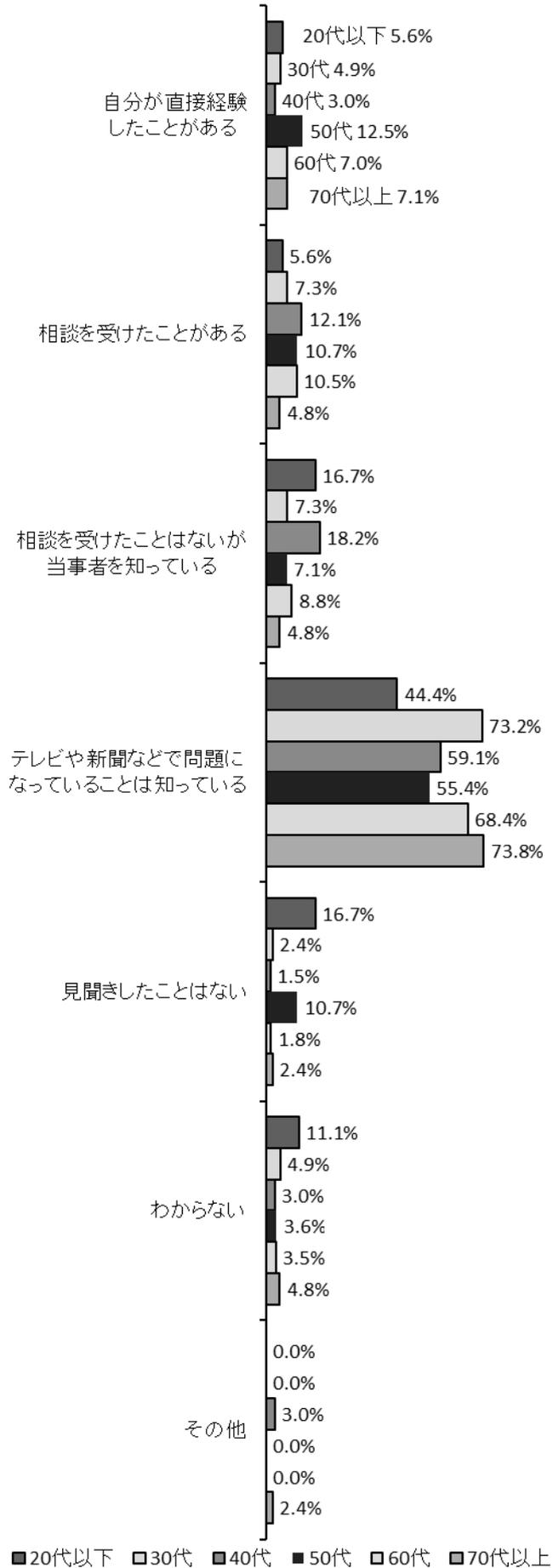
全体では、「テレビや新聞などで問題になっていることは知っている」（64.0%）と回答した人が圧倒的に多いが、「見聞きしたことはない」（7.0%）という人もいる。

また、「自分が直接経験したことがある」（5.4%）、「相談を受けたことがある」（7.6%）、「相談を受けたことはないが当事者を知っている」（10.5%）を合わせると、2割以上になる。

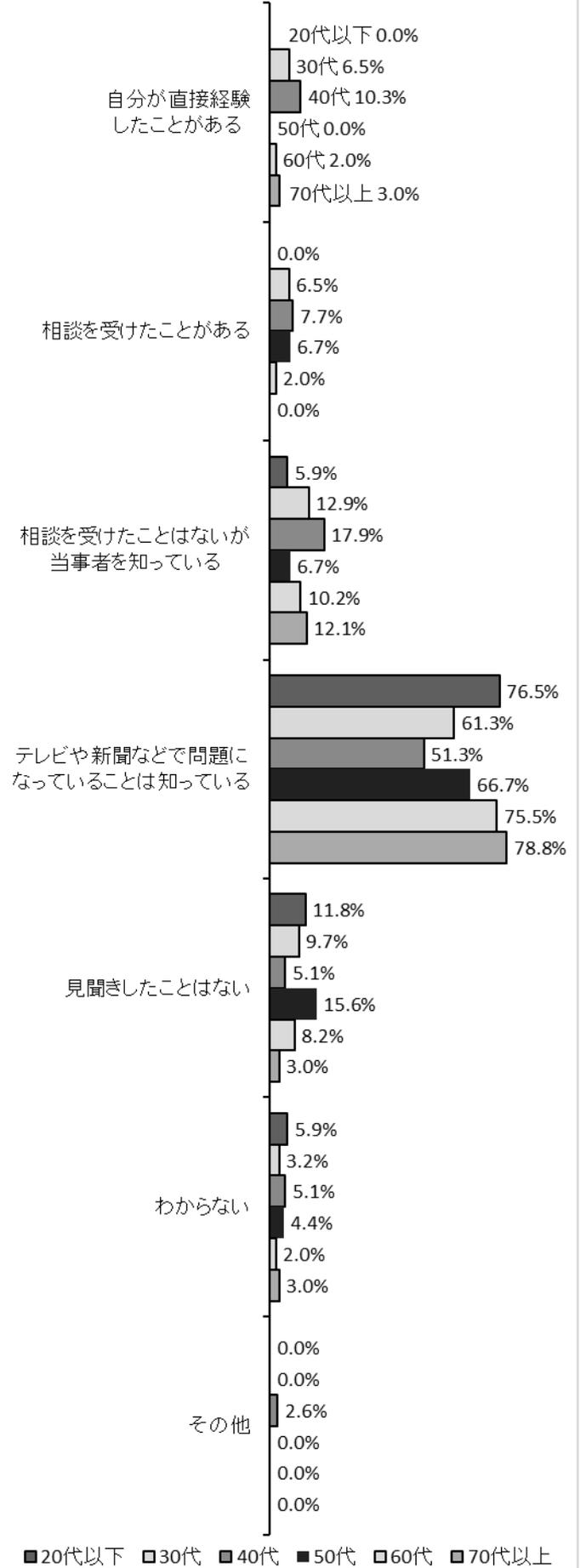
■ドメスティック・バイオレンス（DV）について、経験したり、見聞きしたことはありますか。



【女性】



【男性】

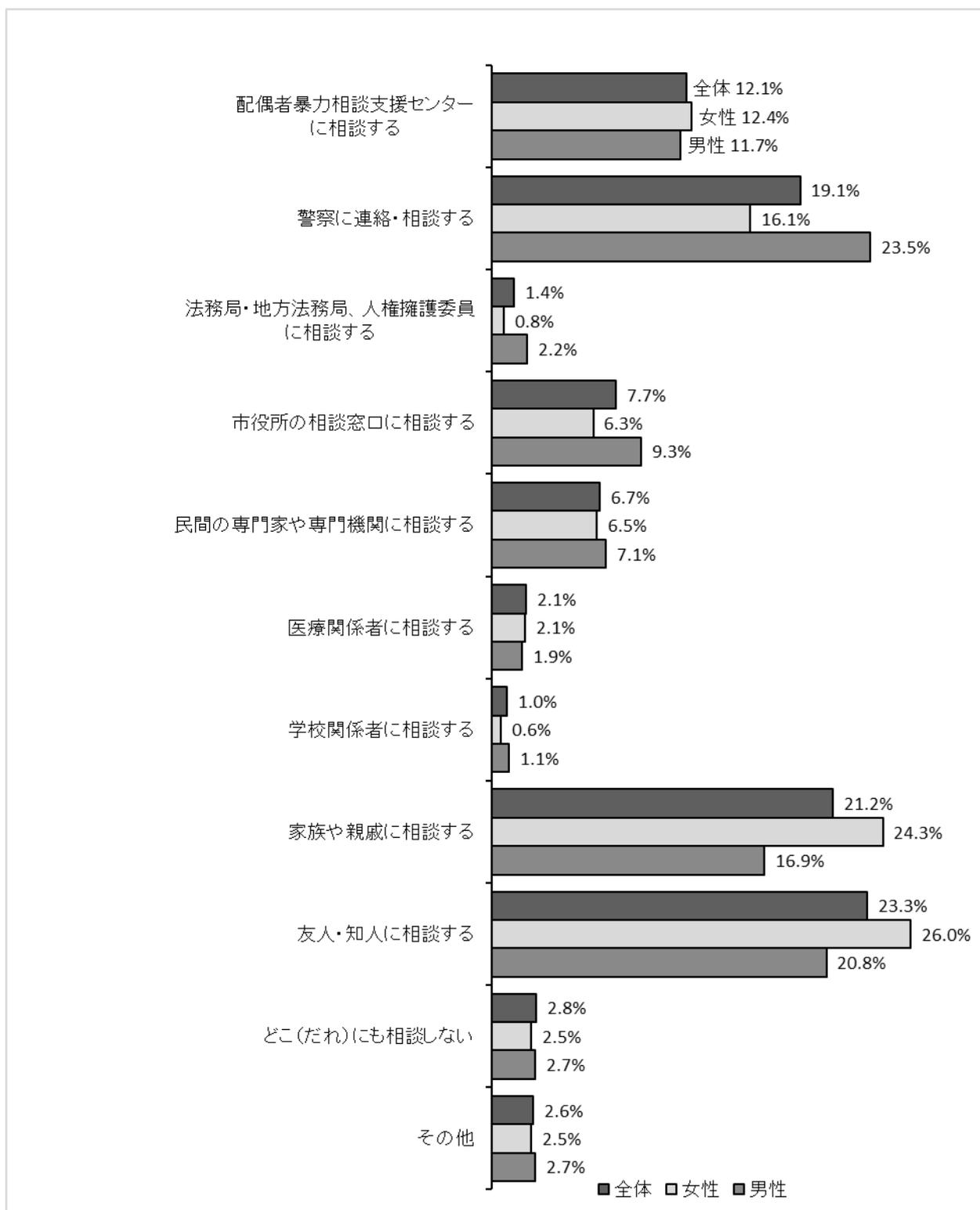


③ DVを受けたときの相談先

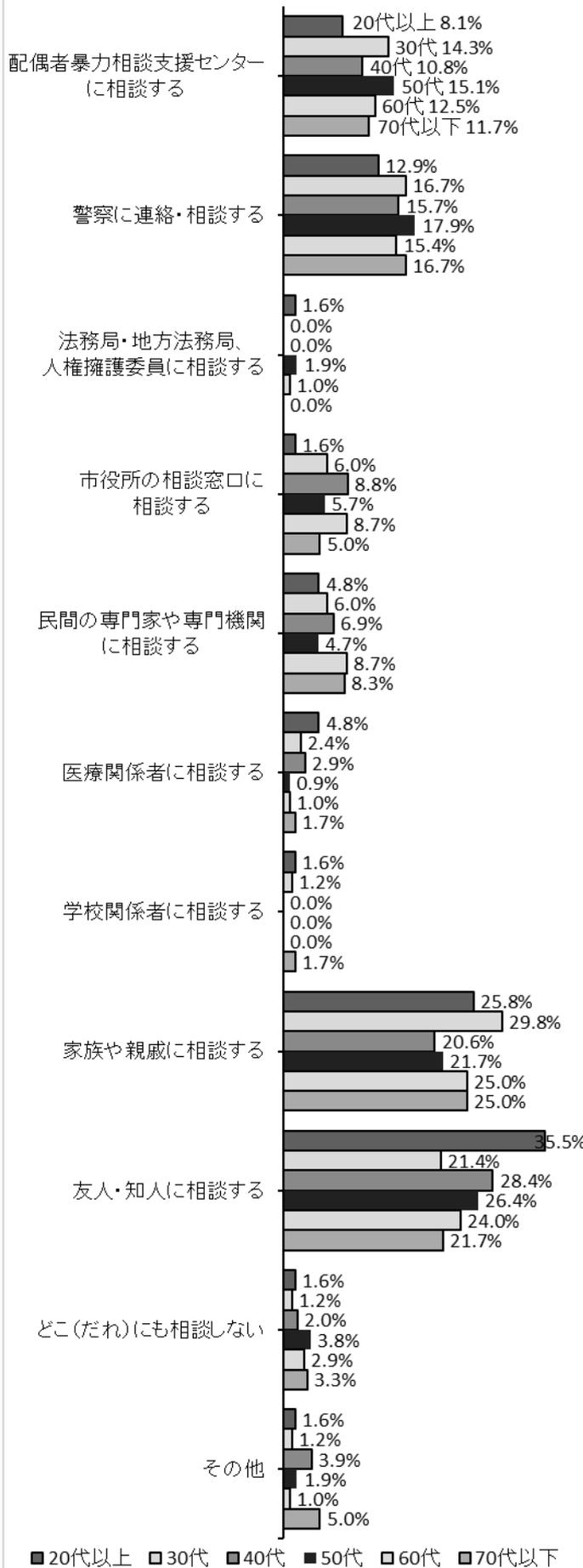
全体では「友人・知人」(23.3%)、「家族や親戚」(21.2%)が多い。次いで、「警察」(19.1%)や「配偶者暴力支援センター」(12.1%)となっている。

「誰にも相談しない」と回答した人が女性で2.5%、男性で2.7%おり、相談できない人も一定数いる状況がうかがわれる。

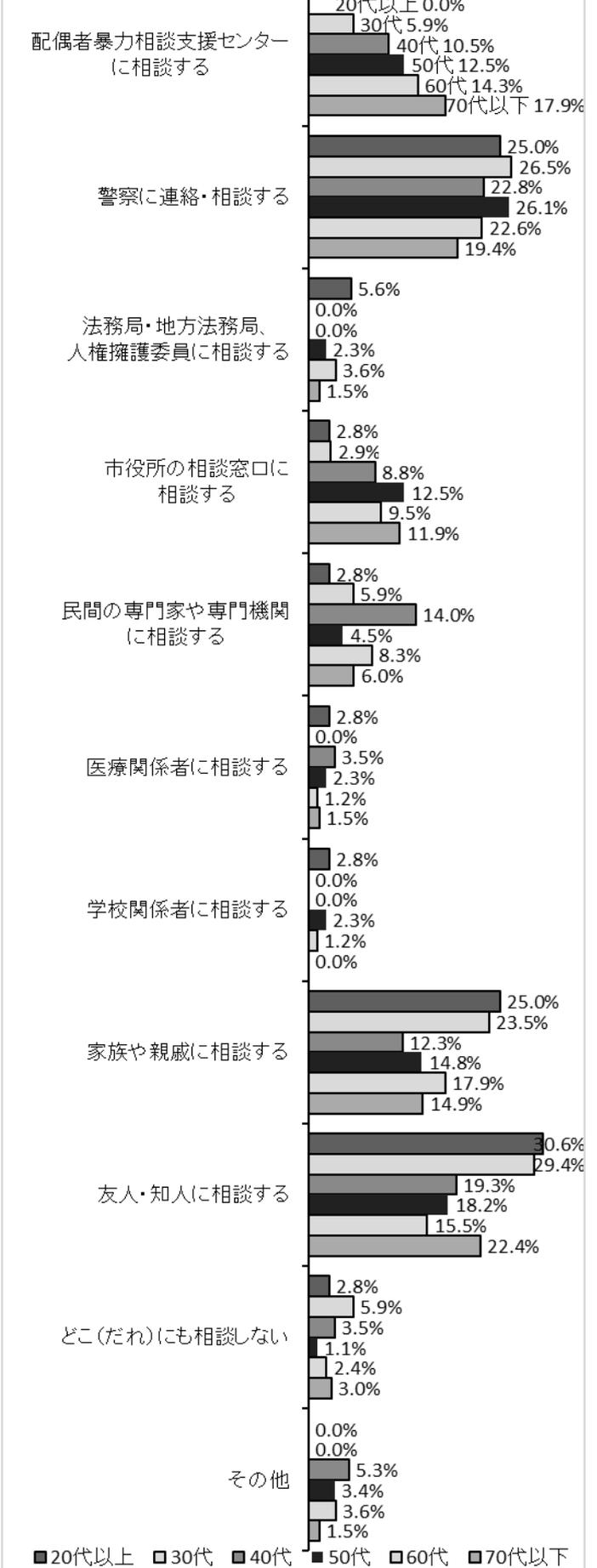
■DVを受けた場合、誰かに打ち明けたり、相談したりしますか



【女性】



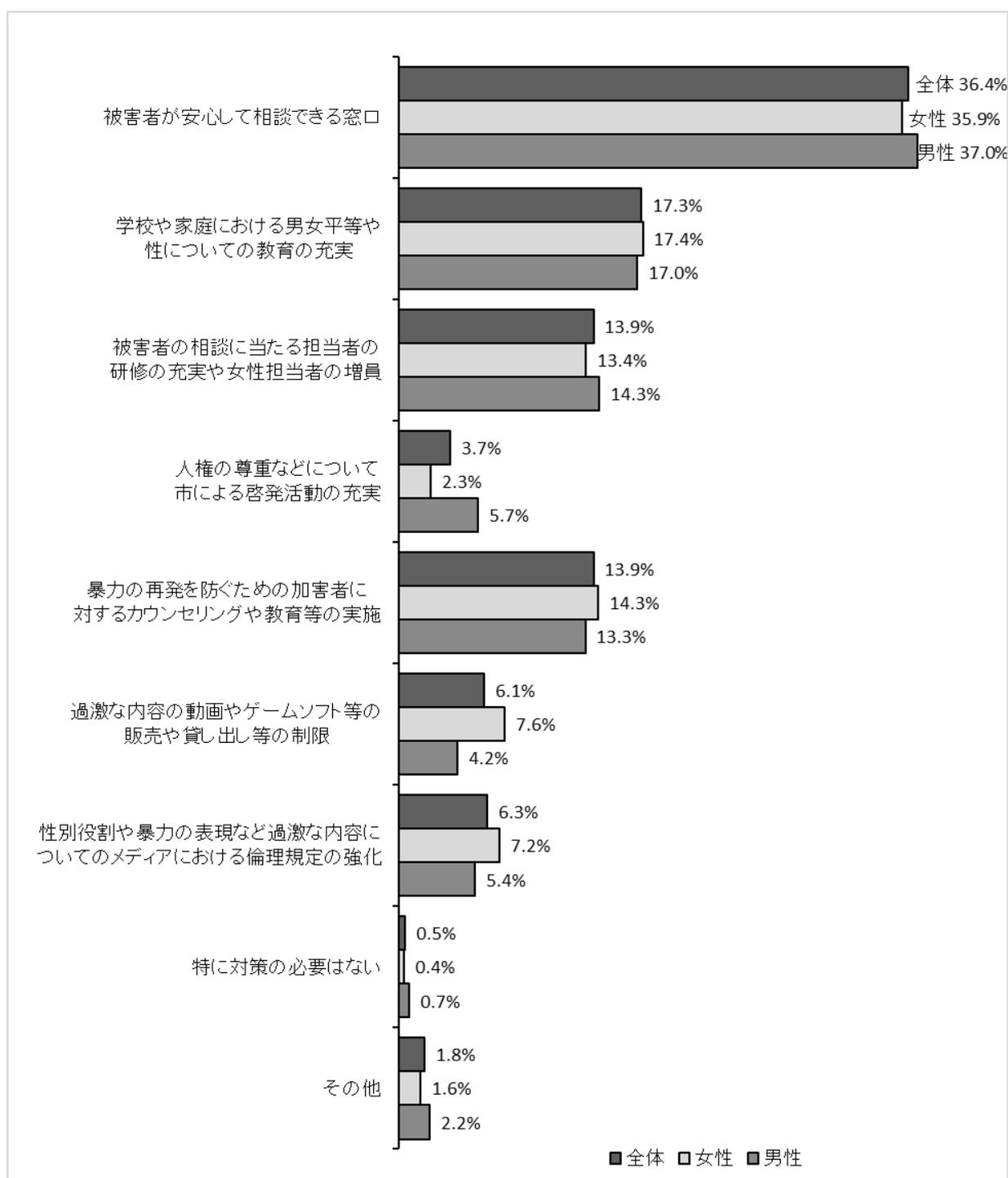
【男性】



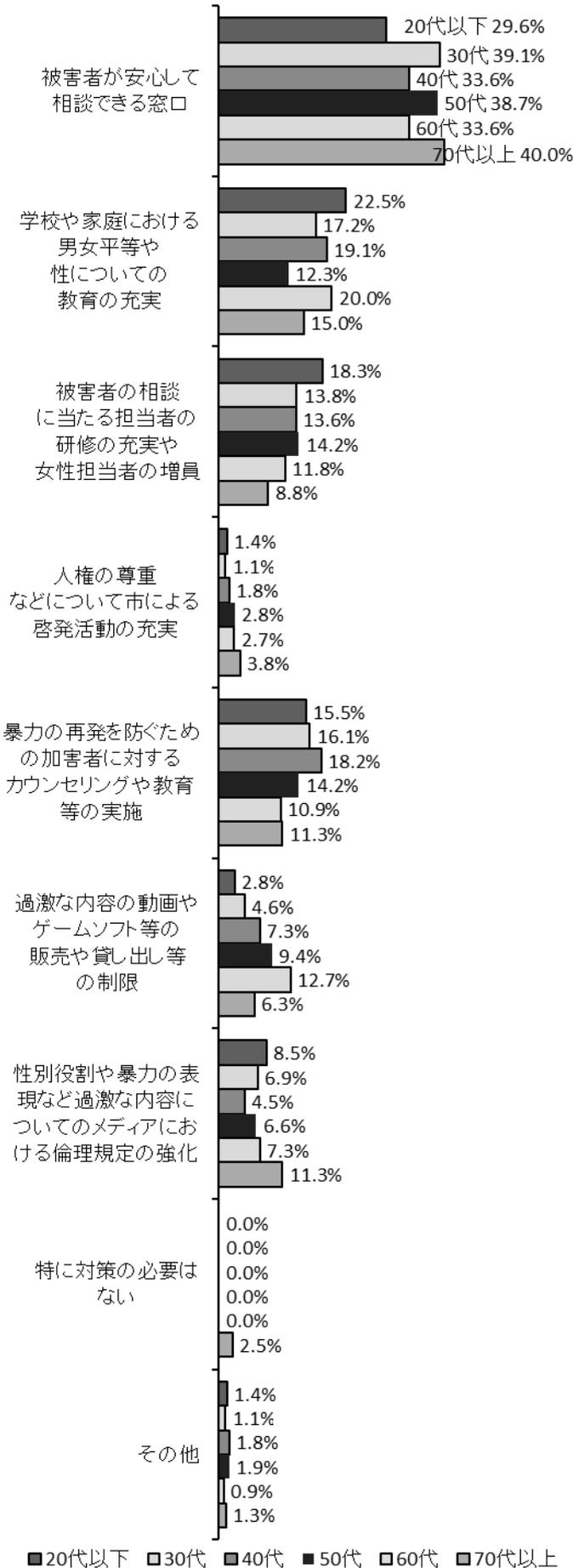
④ 性犯罪・DV・ハラスメント対策

全体では、「被害者が安心して相談できる窓口」(36.4%)と回答した人が多く、男女とも一番多い。次いで「学校や家庭における男女平等や性についての教育の充実」(17.3%)、「被害者の相談に当たる担当者の研修の充実や女性担当者の増員」(13.9%)、「暴力の再発を防ぐための加害者に対するカウンセリングや教育等の実施」(13.9%)が多い。

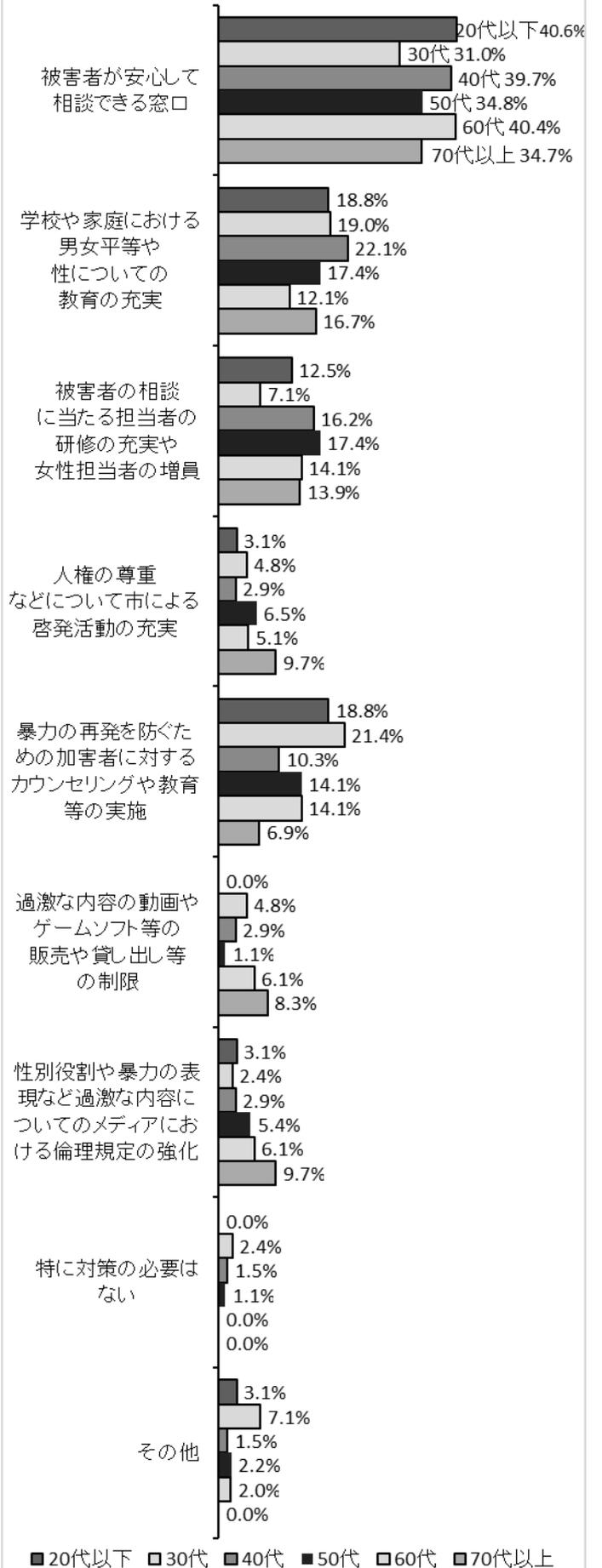
- 性犯罪、DV、セクシャル・ハラスメント（相手を不快にさせる性的言動）、パワー・ハラスメント、モラル・ハラスメント等の暴力への対策としてどのようなことが必要だと思いますか



【女性】



【男性】

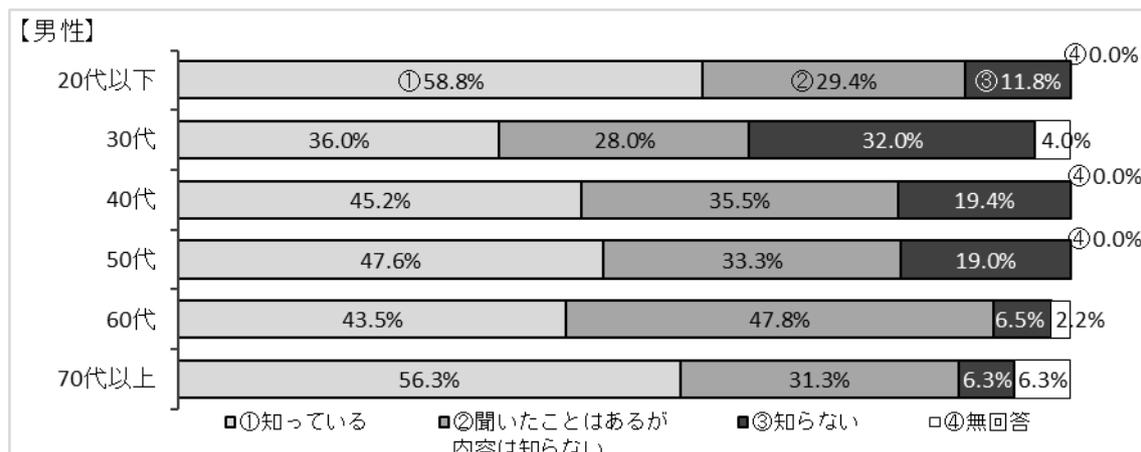
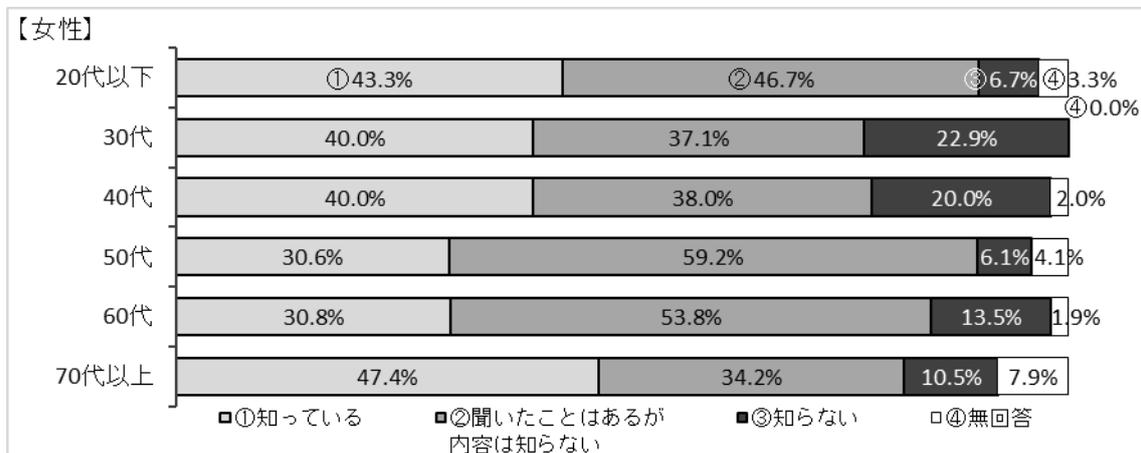
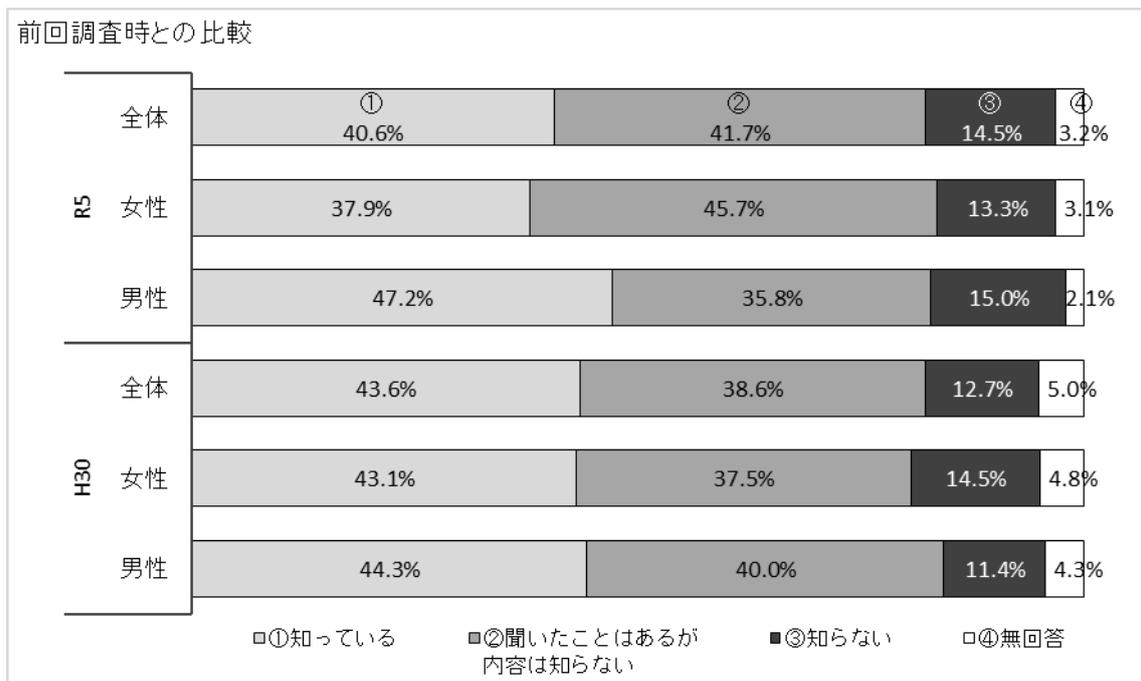


(8) 男女共同参画に関する言葉や法律の認知度

■ 男女共同参画社会

全体では、「知っている」と回答した人は、40.6%であり、前回(43.6%)より3.0ポイント減っている。一方、「聞いたことはあるが内容は知らない」と回答した人(41.7%)は3.1ポイント増えた。

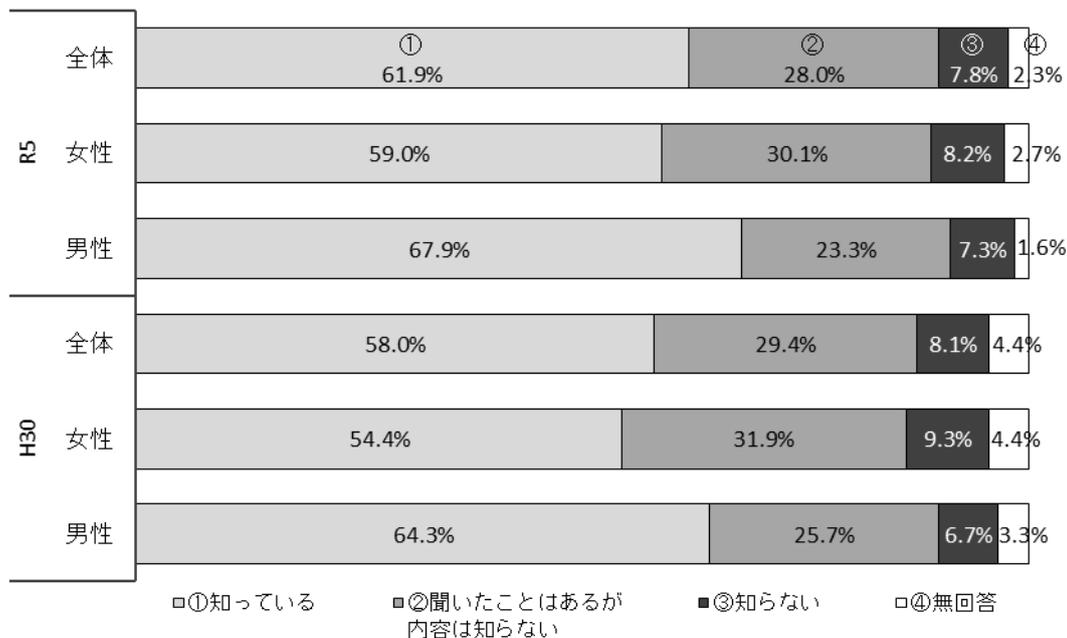
「知らない」と回答した人は、男女とも30代がほかの年代に比べて多い。



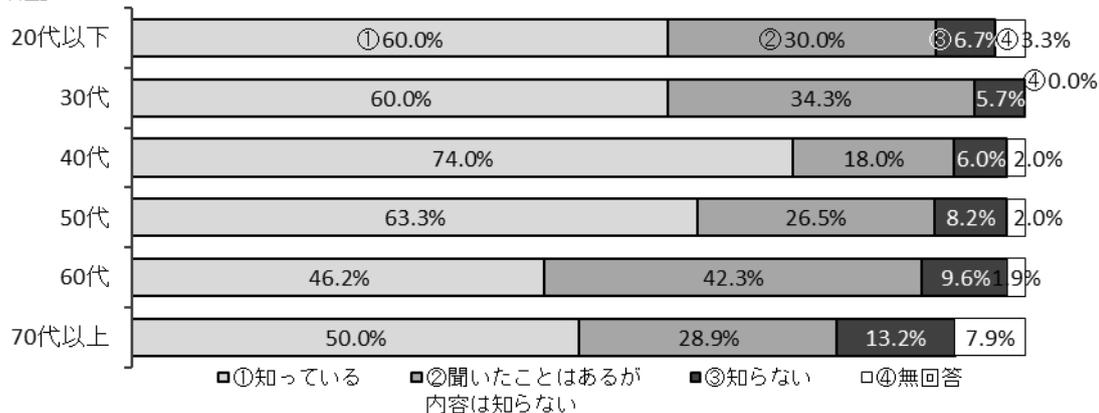
■ 男女雇用機会均等法

全体では、「知っている」と回答した人は、61.9%であり、前回（58.0%）より3.9ポイント増えている。性別で見ると、女性で4.6ポイント、男性で3.6ポイント増えている。年代別では、女性の60代以上で5割以下となっている。一方、「知らない」と回答した人は男性の40代（16.1%）がほかの年代に比べて多い。

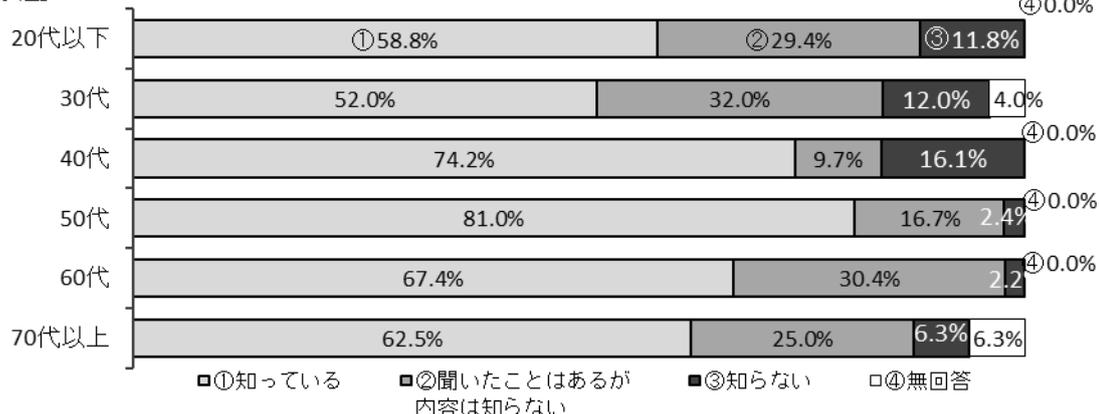
前回調査時との比較



【女性】



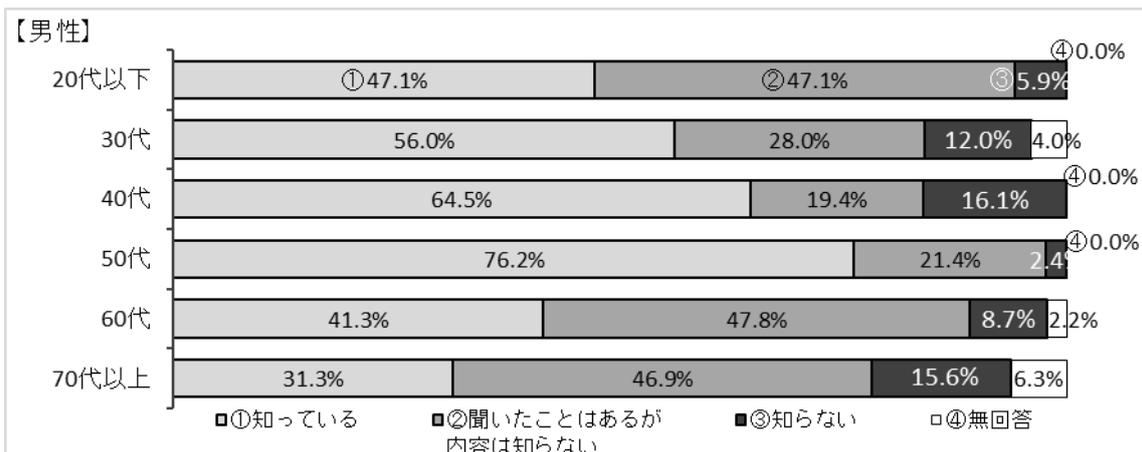
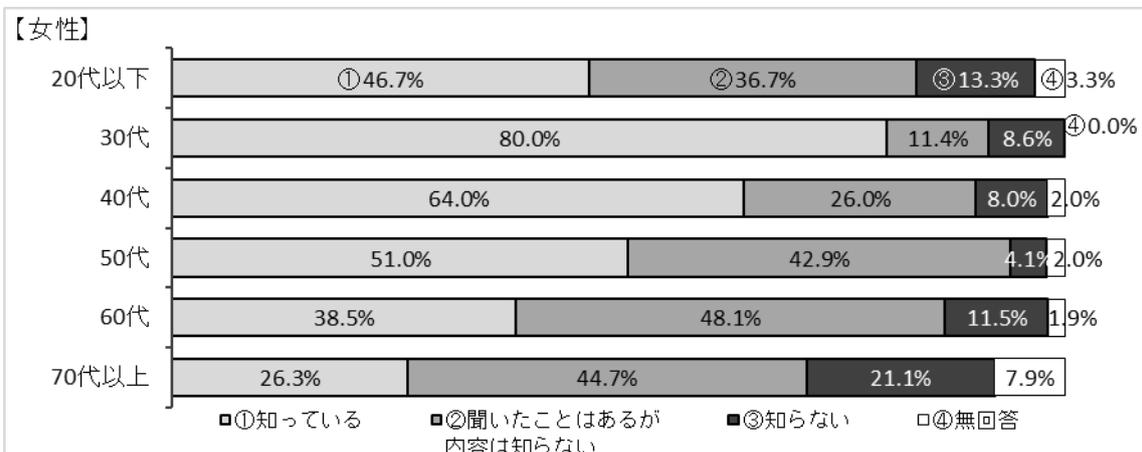
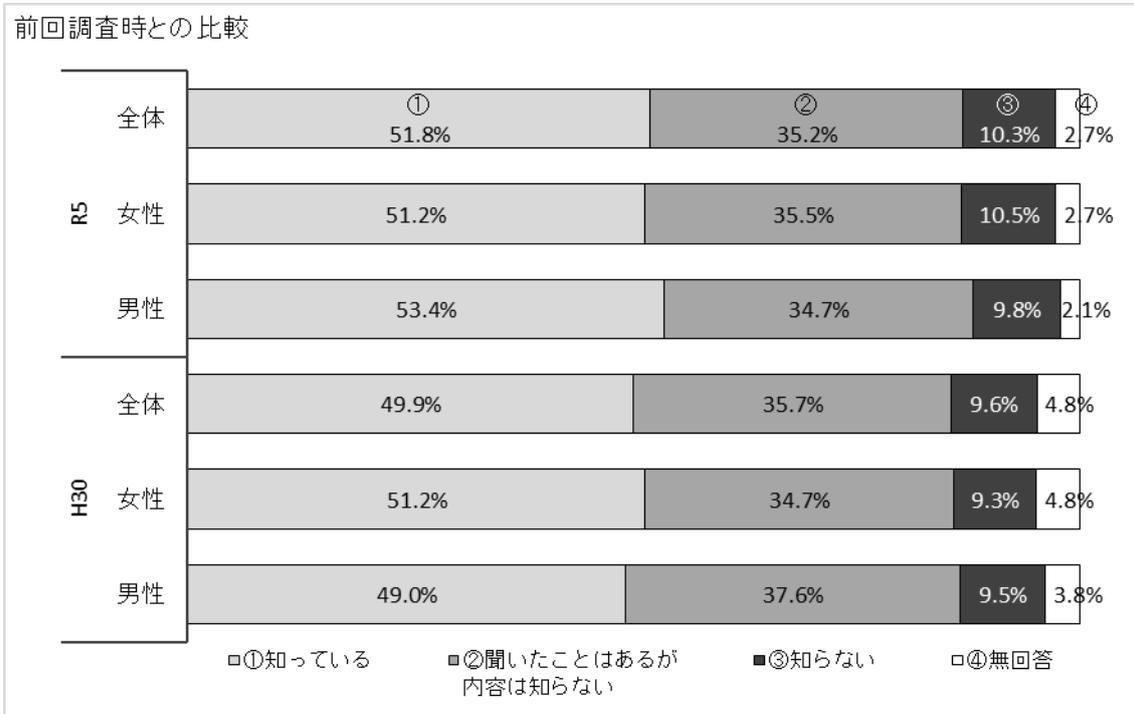
【男性】



■ 育児・介護休業法

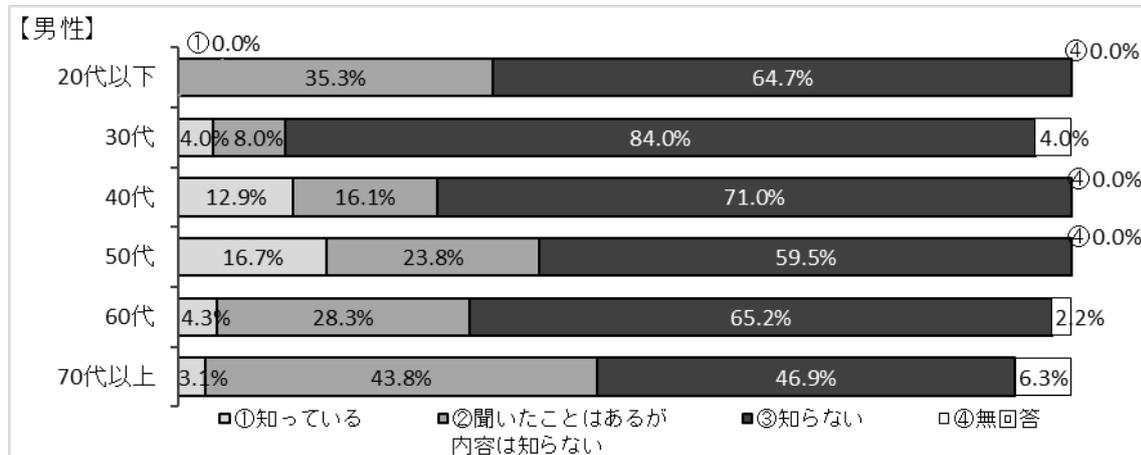
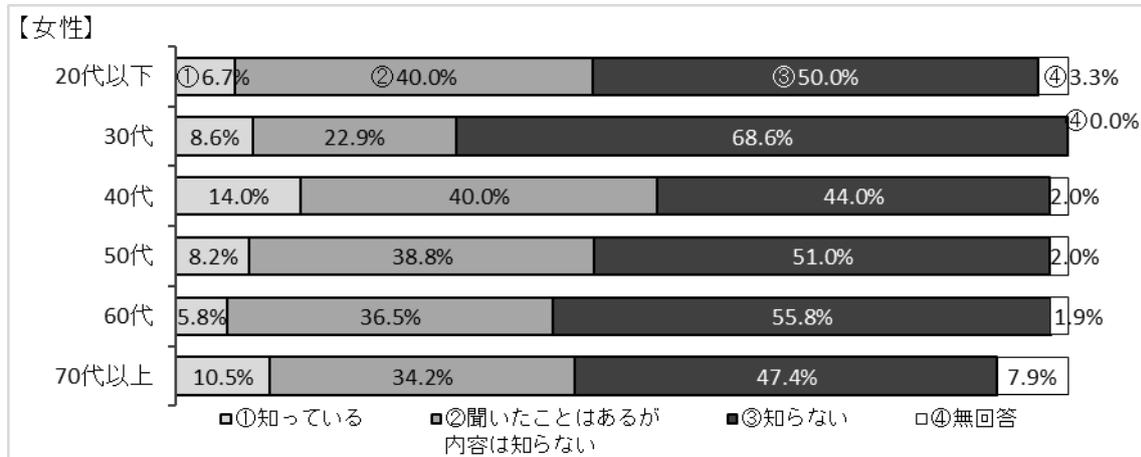
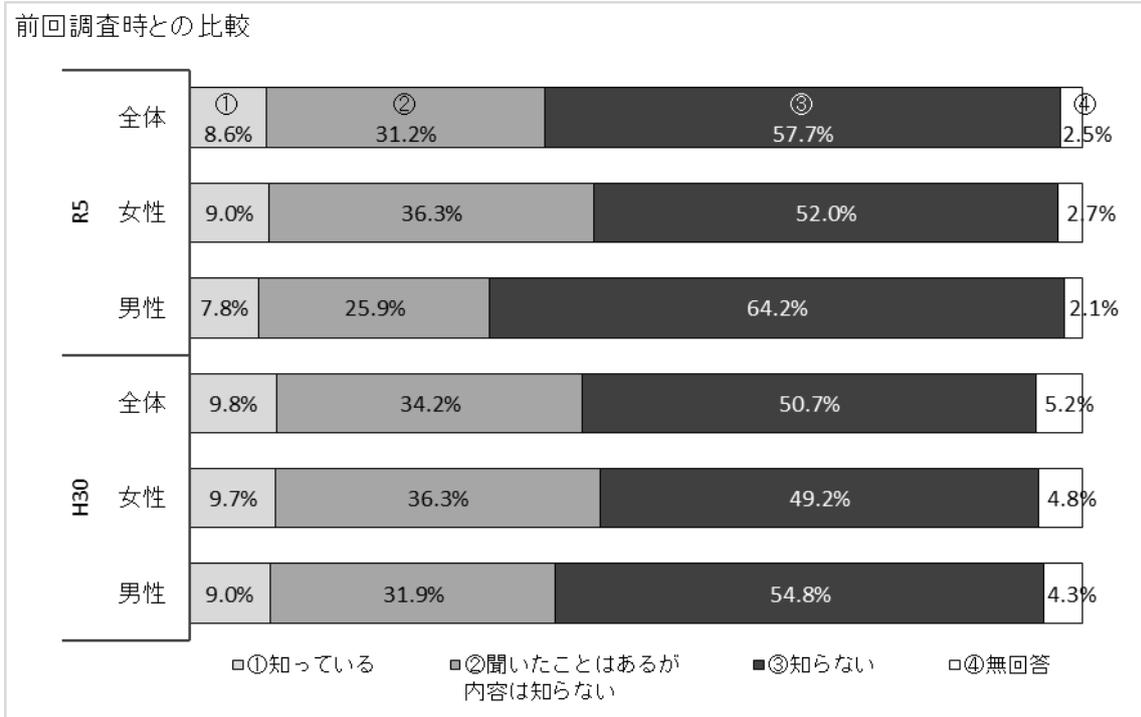
全体では、「知っている」と回答した人は、51.8%であり、前回（49.9%）より1.9ポイント増えている。

育児休業の取得や介護休業の取得の年代にある、30代、40代、50代が「知っている」と回答した人が多く、特に女性では30代、男性では50代が多い。



■ 岡谷市男女共同参画条例（平成 16 年 4 月 1 日施行）

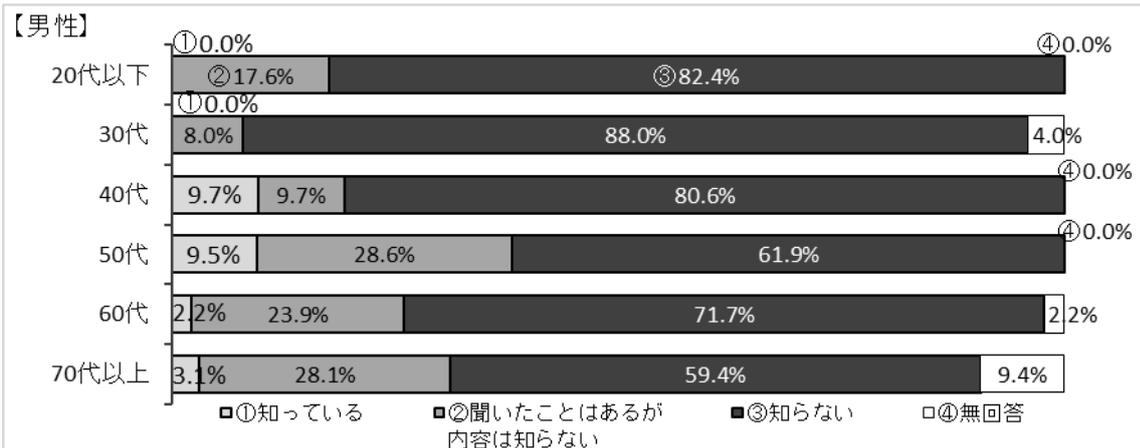
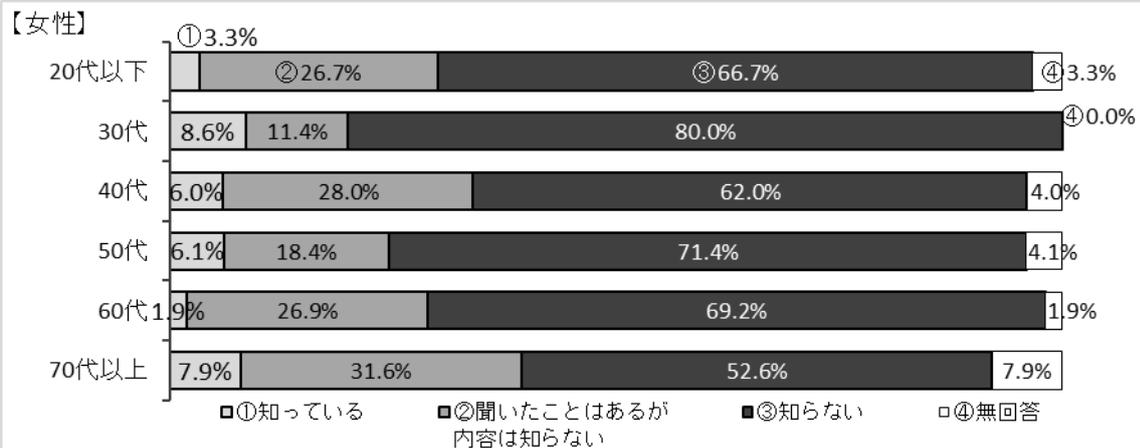
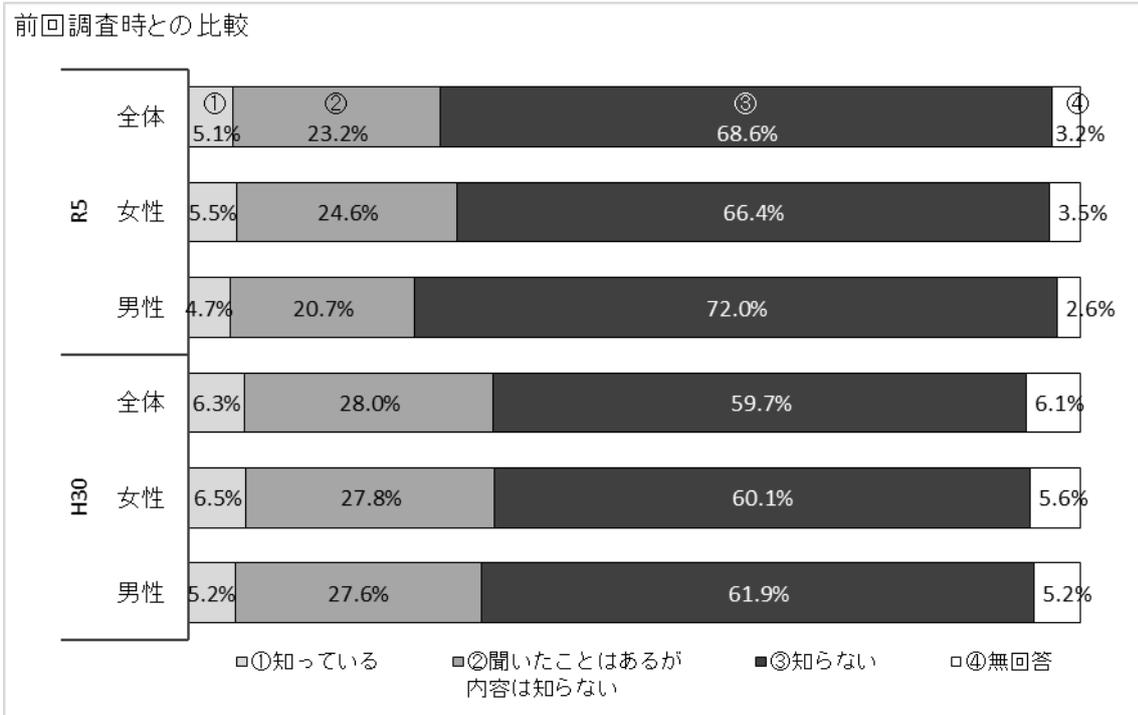
全体では、「わからない」と回答した人は、57.7%であり、認知度の低さがうかがわれる。特に男女とも30代（女性68.6%、男性84.0%）でわからないと回答した人が多い。



■ 男女共同参画おかやプランⅥ（平成31年3月策定）

全体では、「わからない」と回答した人は、68.6%であり、前回（59.7%）よりも8.9ポイント増えている。一方で「知っている」と回答した人は5.1%で前回（6.3%）よりも1.2ポイント減っており、認知度は低い。

女性の30代、男性の20代、30代、40代で、「わからない」と回答した人が8割以上となっている。

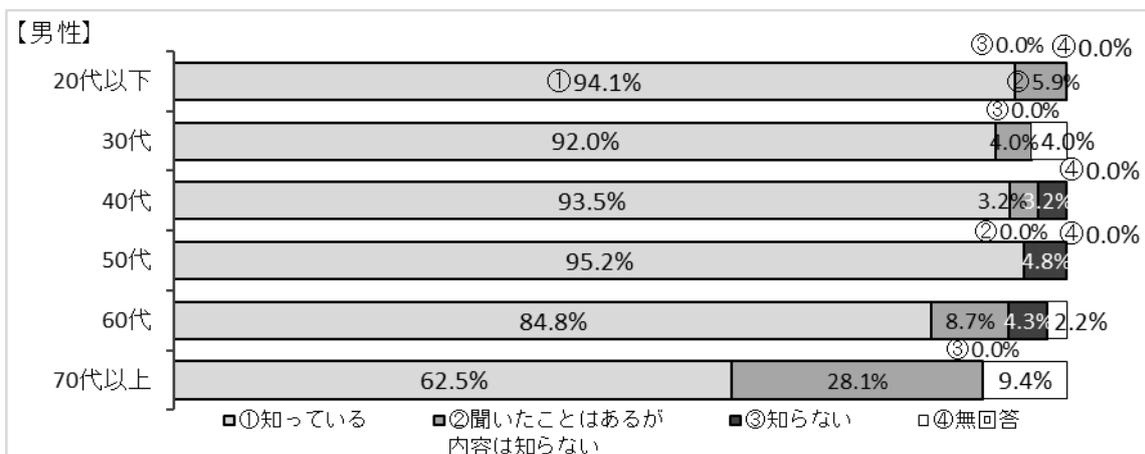
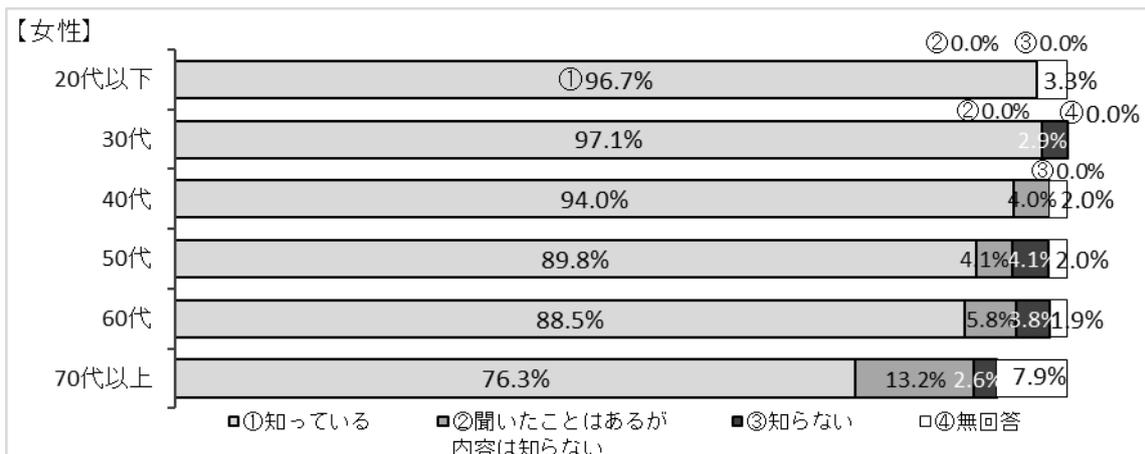
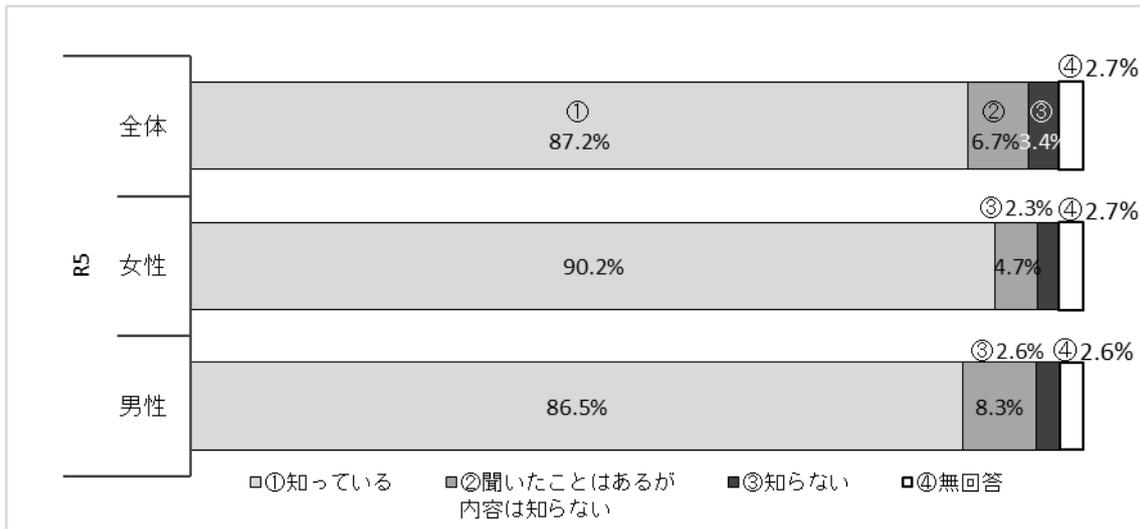


■ DV（配偶者やパートナーなど親密な関係の相手からの暴力）

全体では、「知っている」と回答した人は、87.2%であり、大半の人が知っている。

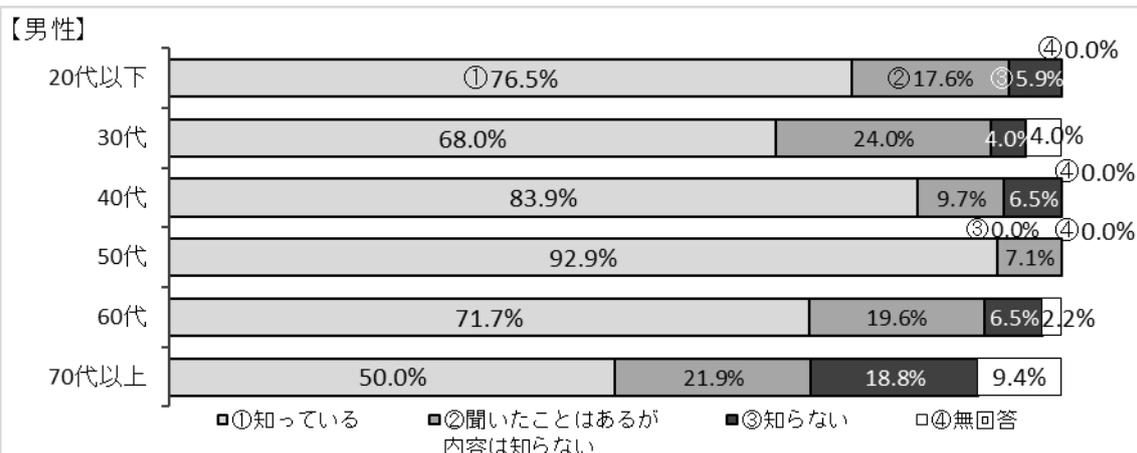
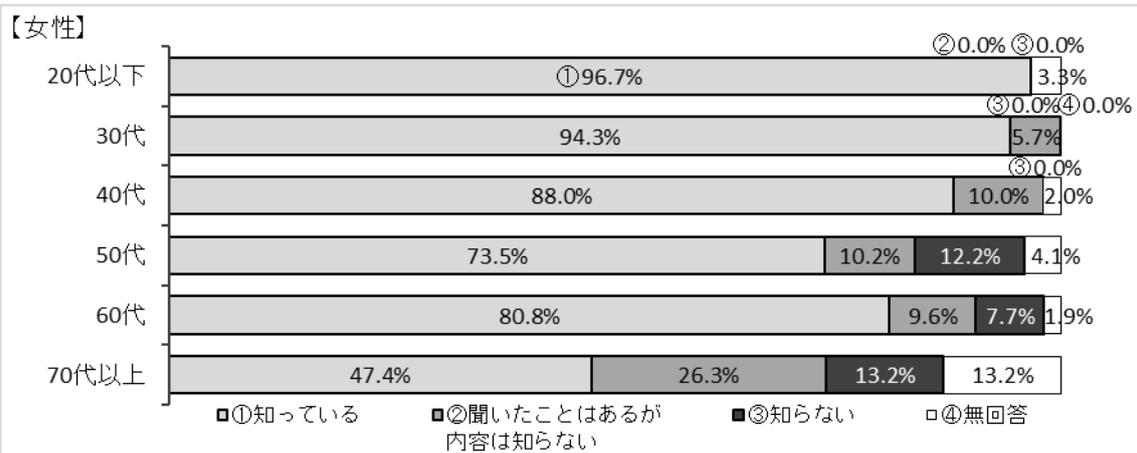
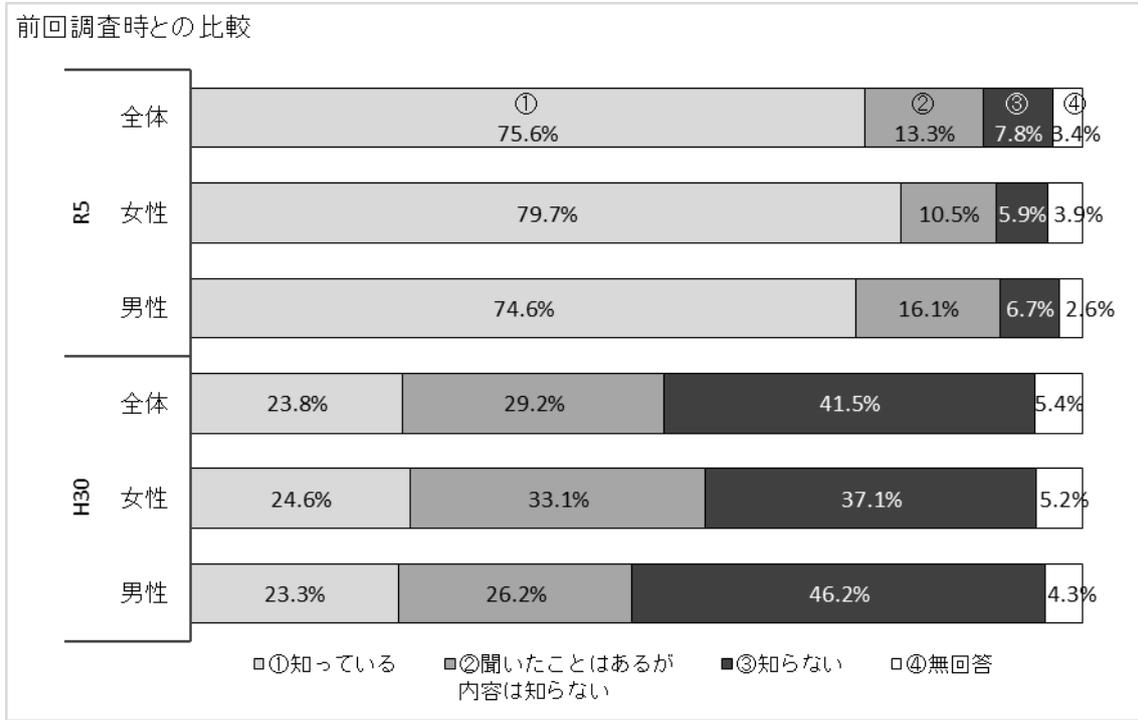
男女とも、20代、30代と若い世代で知っている人が多く、年代が上がるほど認知度が低い傾向にある。

※令和5年度より調査



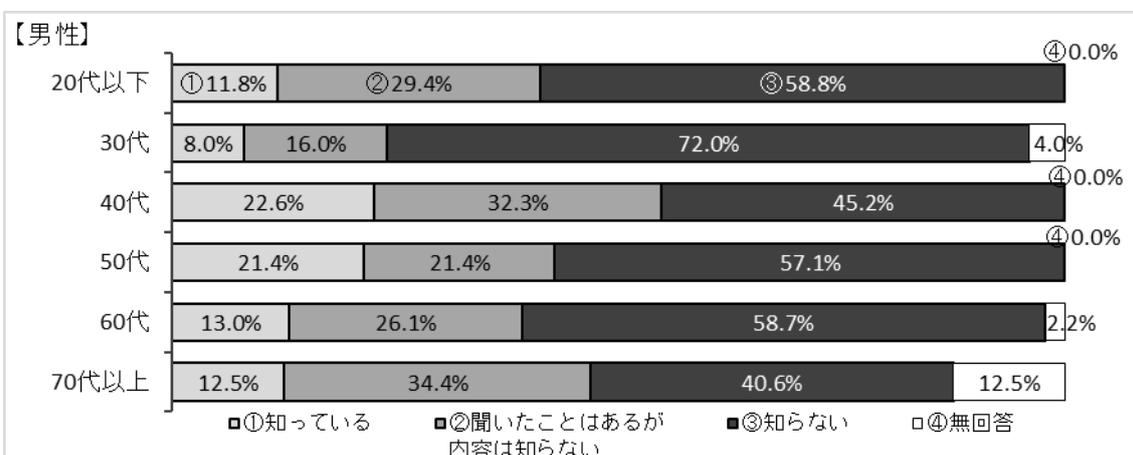
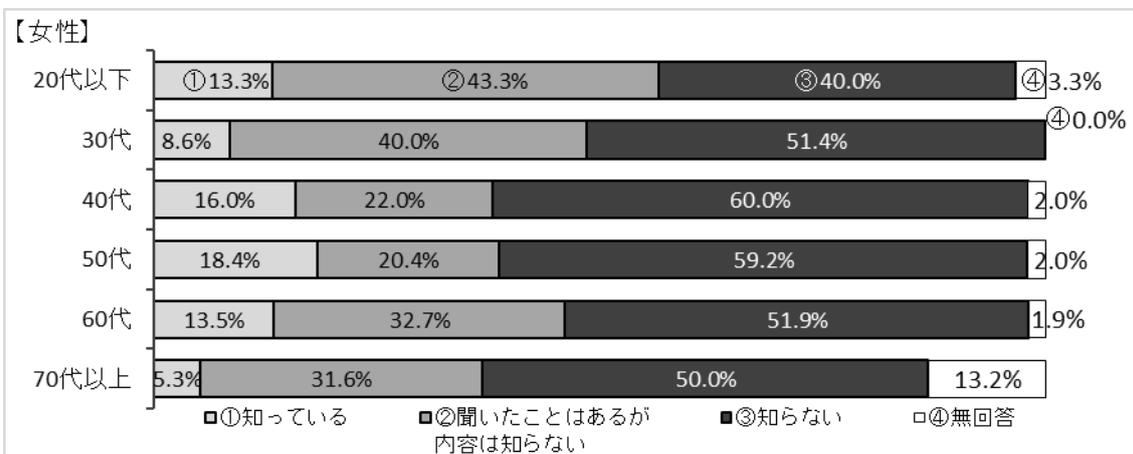
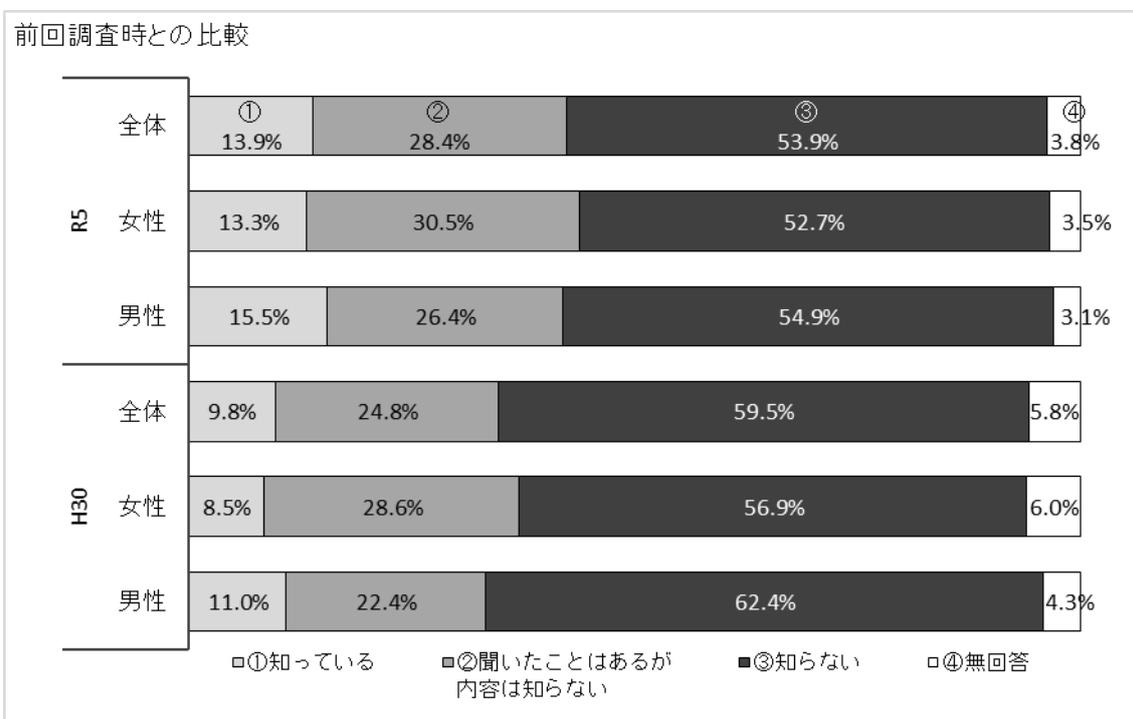
■ ジェンダー（社会的・文化的に作られた性差のこと）

全体では、「知っている」と回答した人は、75.6%であり、前回（23.8%）よりも51.8ポイントと飛躍的に増えている。「聞いたことはある」とする人も入れると9割近い人が、言葉は知っている。一方で、男女とも70代以上での認知度はほかの年代に比べて低い。



■ ポジティブ・アクション（積極的改善措置）

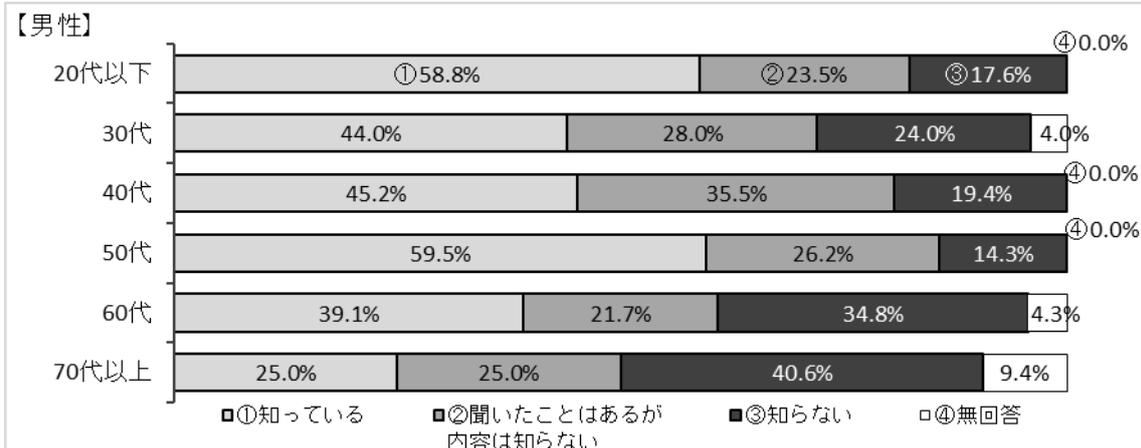
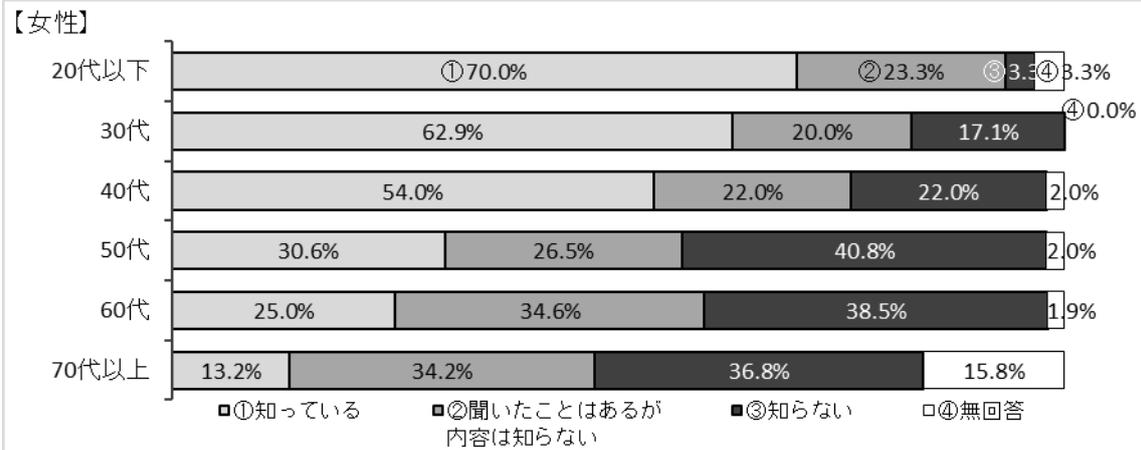
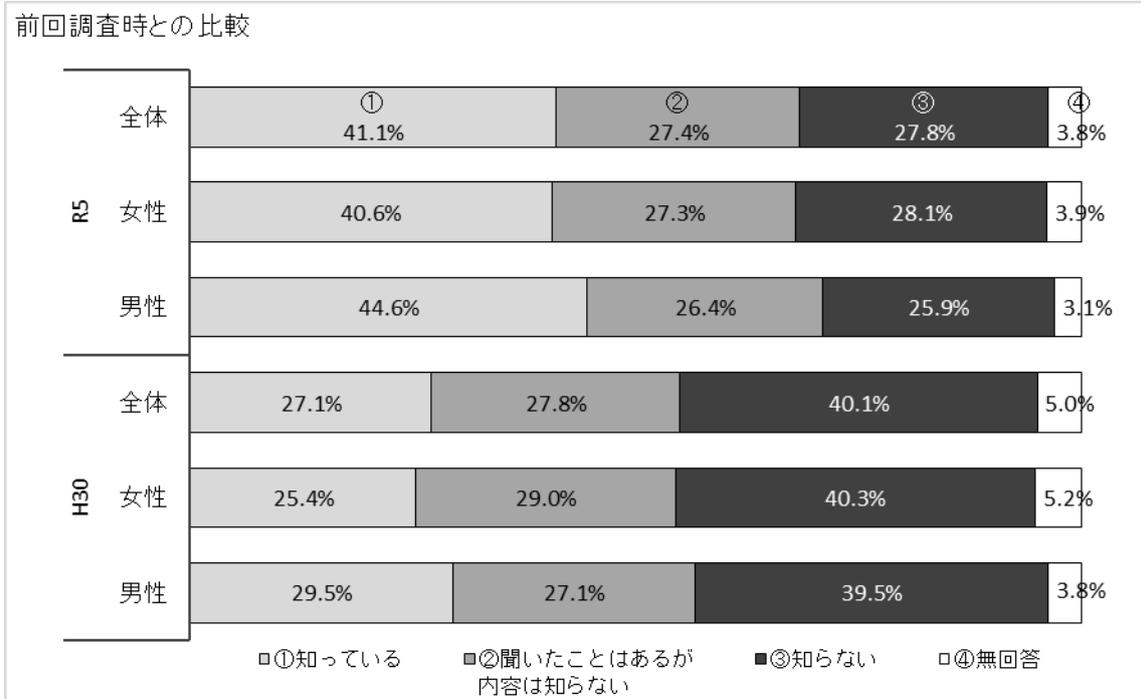
全体では、「知っている」と回答した人は、13.9%であり、認知度は低い。男女とも5割以上が「わからない」と回答している。



■ ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）

全体では、「知っている」と回答した人は、41.1%であり、前回（27.1%）よりも14.0ポイントと大きく増えている。「知っている」、「聞いたことはあるが内容は知らない」を合わせると、男女とも6割の人が知っている。

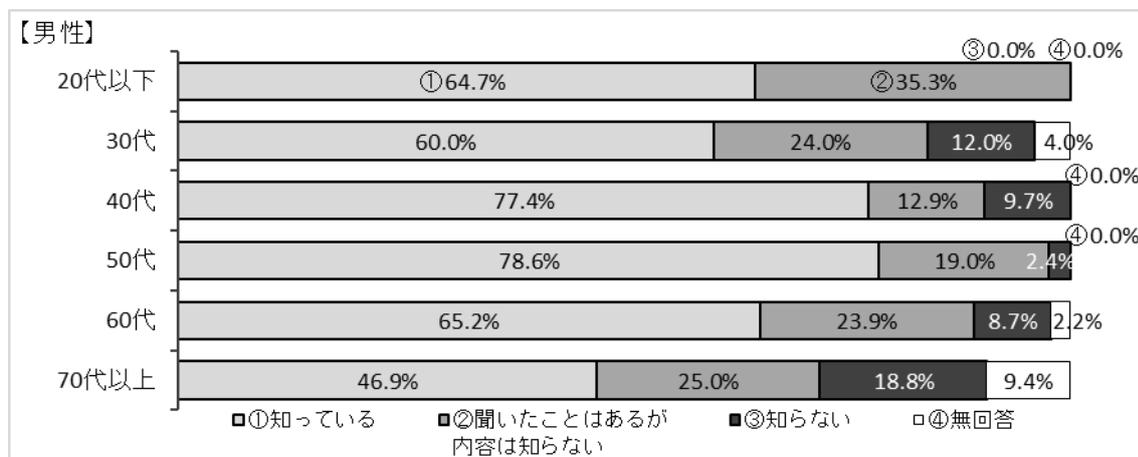
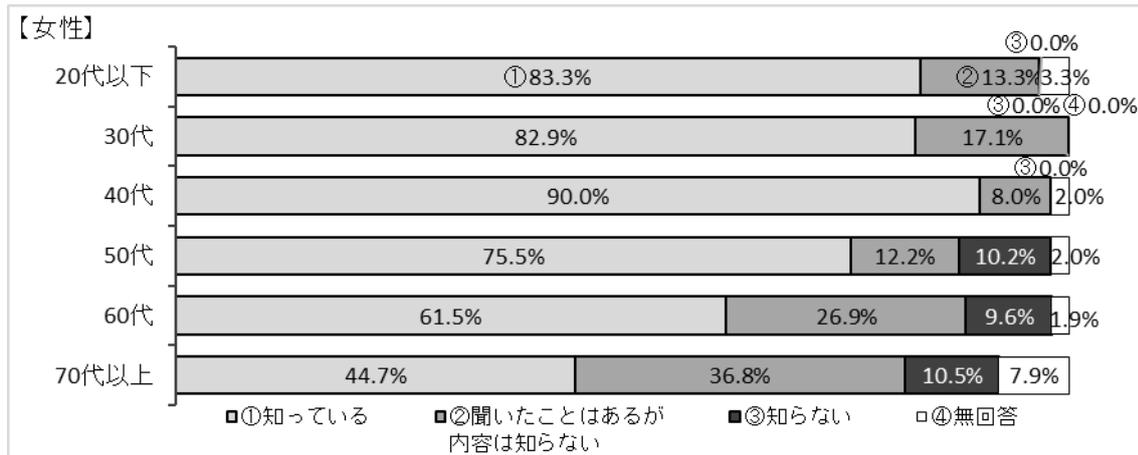
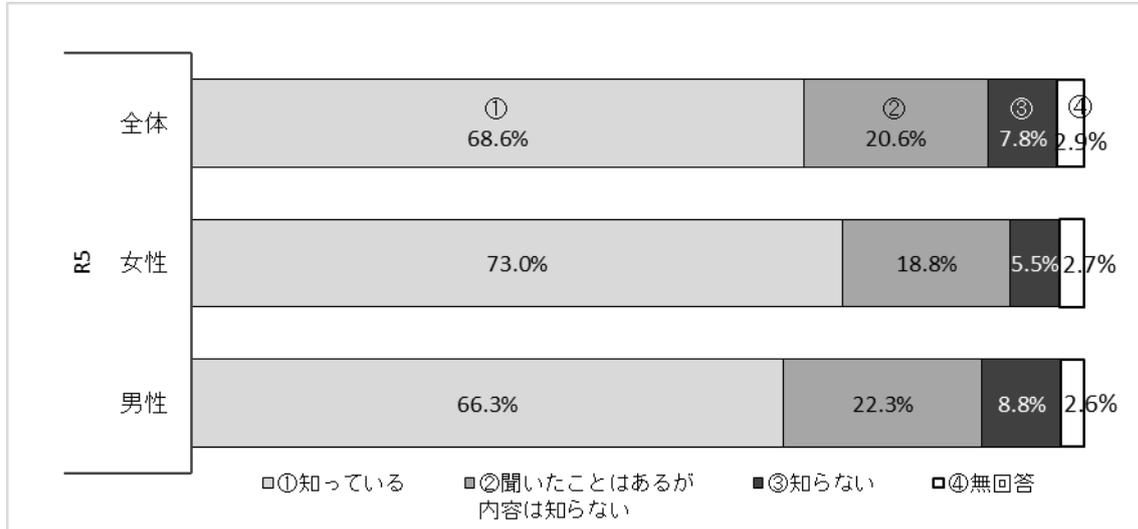
年代別では、男女とも60代、70代以上と年代が上がるほど認知度が低い傾向にある。



■ 性的マイノリティ、LGBTQ

全体では、「知っている」と回答した人は、68.6%であり、認知度は比較的高い。特に女性では、20代、30代、40代で8割を超えている。一方で、年代が上がるほど認知度が低くなる様子が見られる。

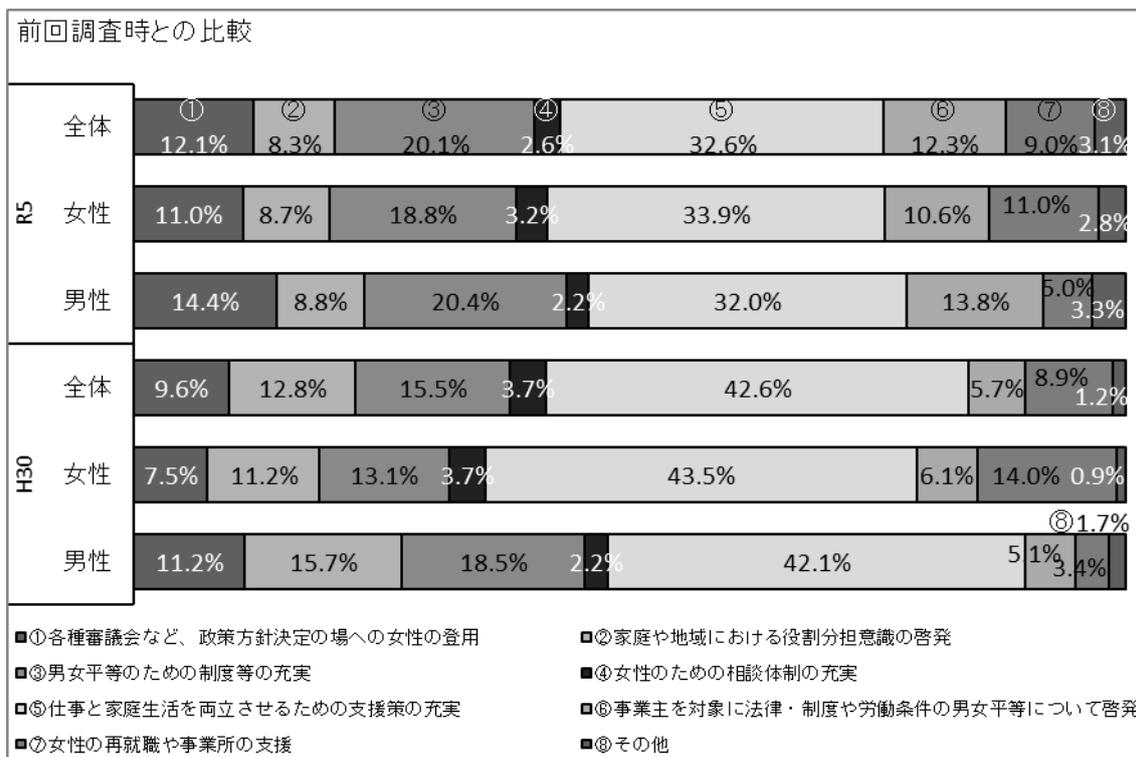
※令和5年度より調査



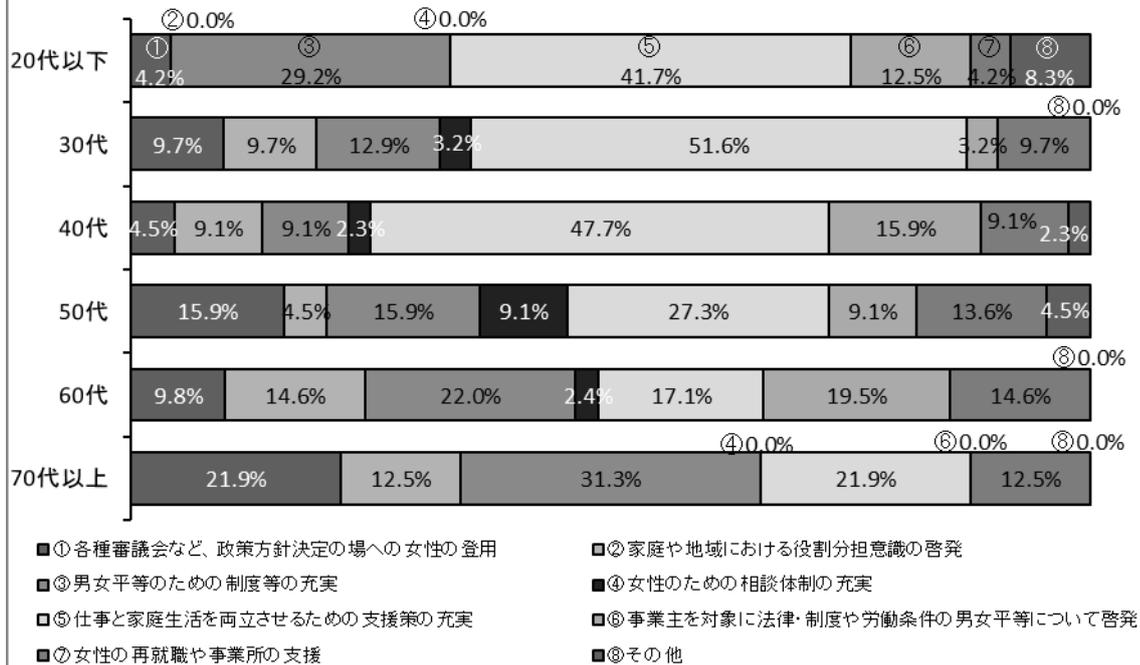
(9) 男女共同参画社会実現のために望むこと

全体では「仕事と家庭生活を両立させるための支援策の充実」(32.6%)を望む声が多い。特に男女とも、20代、30代、40代に多くなっている。次いで「男女平等のための制度等の充実」(20.1%)を望む人が多い。

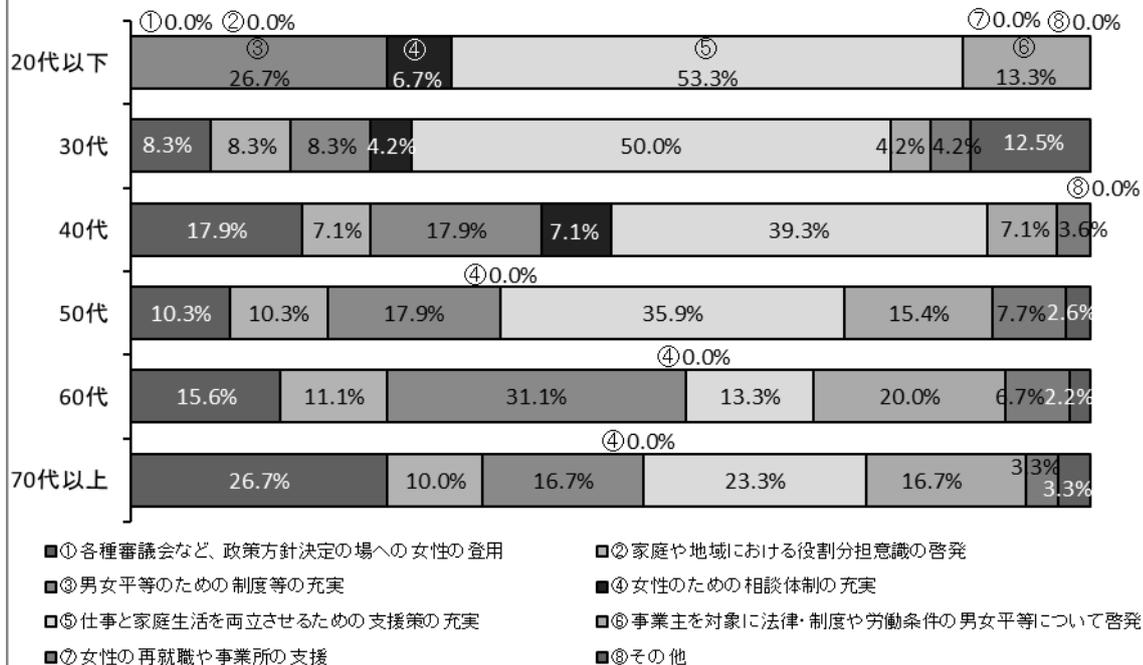
男女とも年代が上がるほど「各種審議会など、政策方針決定の場への女性の登用」が多くなる傾向にある。なお、女性では、「女性の再就職や事業所の支援」(11.0%)も多い。



【女性】



【男性】



【意見・要望】

<女性>

- とにかく全ては法から。啓発しても犯罪でないなら変わらない。教育も、その場しのぎの相談もそう。プラ袋が有料になって使う人が極端に減ったように罰金、罰則、事業停止措置など、強制的なルールが必須。その上で勝手にサービスは整ってくる。まずは公的整備。(女性・20代)
- 何より大切にすべきは個人の意思の尊重であると思います。その人やその家庭に合った選択が出来るよう、制度や法を整備して頂ければ嬉しいです。(女性・20代)
- 子供を育てやすい環境を整え、子供や親、高齢者が笑顔で安心して住める町づくりが早急に必要だと思います。実際に子育てをしている家庭の声をもっと聴いてほしいです。(女性・60代)
- 支援が必要な人ほどその方法や内容を知らず誰にも相談できないように思います。DVについて自分から行政に出向ける人は少ないでしょう。雇用や社会的な面で男女差があることに女性も諦めと、慣れがあってその状態に立ち向かうエネルギーはなかなかありません。そういう方がいたら応援したいとは思いますが。このアンケートにどんな意味があるのか分かりません。(女性・60代)
- よくわかりません。そもそも男性も育児休暇が取りやすくなったり、女性でも昇給できるようになれば良いのではないのでしょうか。それよりも国、県、市の偉いさんやおじさん達なのをどうにかした方が良いのでは？もっと若い人の意見を取り入れるべきです。(女性・20代)
- 男女←この時点で物語っている。つまり女男、女の子男の子の順にはならない。本音と建前の社会(人権も然り)。そこでどう折衷して快適に暮らし社会の中で生きていくか。(女性・40代・その他)
- 男女の質の違いと差別は違うと思う。出産育児後も、フルタイムで働きたい女性ばかりではない。逆に差別となる場合もある。やりたい女性はやれば良いし、その場合に障害や差別や嫌がらせがあってはならない。全ての人に単に“男女平等”を押し付けるのは、いささか荒っぽいと思う。(女性・50代)
- 御柱は特に“男性”がメインで動いているように感じる。地域で御柱の集まり、飲み会は必ず参加しないとイケない雰囲気を感じる。見方によってはパワハラと思う人もいるのかなと思う。岡谷市がもっと住みやすい地域になると嬉しいです。(女性・20代)
- 法律、制度が多く、理解している人は少ないと思う。まず公報の充実を願いたい。(一覧表化)(女性・70代以上)
- 人間、性別、偏見のない社会を望みます。(女性・70代以上)
- 男女共同参画は平成11年~ですが、まだまだ社会には浸透していませんね。昭和生まれの方々は男性が強い者、女性は一步下がっての考えが多いように思います。若い世代は学校で学ぶことがあると思うので考えは変わってきていると思いますが。実際女性より男性の方が力(力仕事)があるのは事実なので…。その部分は難しいと思います。(女性・50代)
- 仕事をしていて子供が小さいと病気になりやすくお休みしなければならない事が多い。周りの理解を得られず休みにくい雰囲気、時には休みすぎと注意される事もあり。自分が出産した時はそれを見ていたので仕事は辞め、再就職するのに10年以上かかった。(女性・40代)
- 男女共同参画を実現させるには、育児と仕事の両立ができることが大切だと思います。現金を配ることよりも、保育や学童のサービスの拡充、育児に関わる休暇が取りやすくなると思います。(女性・50代)
- これだけ「男女共同参画」が叫ばれているのに、日本、特にこの地域は全く進んでいない。積極的に対応していかないと、ますます逆三角形社会が進んで日本は潰れると思う。岡谷市を潰さないためにも、老若男女が自分の考えを発信できるような社会を考えていくことが大事だ

と思う。子供たちに「自分が選挙の投票に行っても何も変わらない。子供を持つのは金持ちだけの贅沢だ」などと言わせないで欲しい。今、岡谷に住んで税金を払ってくれている人を大切にして住み続けたいと思わせて欲しい。(女性・50代)

- 問22の⑤(注:「仕事と家庭生活を両立させるための支援策の充実」)が全てだと思います。女性(母)の方が収入が多いのに、子どもが体調不良になると病院に連れて行くのも母親。早退するのも女性(母)。父は仕事だけで本当に楽で羨ましくも、妬ましくも思います。(女性・40代)
- 心の問題や体力の面など、やっぱりお母さんに余裕を持って接してもらおうのがベストだと考えています。支援策だけではどうにもならないこともあると思っています。(女性・70代以上)
- 20才の時、今思えばパワーハラスメントを職場で経験しました。誰にも話す事も出来ず頑張っただけで乗り越えてきました。(女性・70代以上)
- 議会の年齢、男女等のバランスが悪い。自分達の代表という気がしない。それこそ、男性中心なのではないか?(女性・60代)
- 何もかもが平等というのはあり得ないと思う。(女性・60代)
- 男女共同参画という言葉が聞かれるようになって大変嬉しいですがまだまだ男性が優位だと思います。男性の皆さん家庭でも奥さんに頑張らせて協力して頂き少しでも優しいお母さん素敵な奥さんが増えますように期待したいです。(女性・70代以上)
- 何でもかんでも男女で同じにするべきでもないと思う。男女の生物学的違いもあり、特に乳幼児にとって明らかに、父親より母親の必要性の方が大きいと思う。父親と母親の役割がはっきり分かれていた時代の良さもあったと思う。一部のフェミニストの声が大きく、それに振り回されている気もする。父親がほとんど家のことに携わらずうまくいっている家庭もある。日本人の文化もあり何でも海外の国と同じにするのもどうかと。その家庭ごとのやり方で良いと思えることが大切に思う。(女性・40代)
- 男女それぞれ得意なこと不得意なことがあると思います。お互いがお互いの長所・短所を認め合い、短所を補い合えるような社会になれば良いと思います。敵対する必要はないと思います。(女性・40代)
- 男女の能力は違うと認識した上で、平等を唱える事が望ましいと思います。(女性・40代)
- 正社員で働いているが、子の保育園や学校の行事、体調不良の時、有給休暇を使わなければならない、何日あっても足りない。看護休暇の給与の補助をして欲しい。時短勤務も、フルタイムとの給与の差が大きくお金の面では考えられないが、行事や体調不良など休まないといけないうちが多く、仕事も進まず、正社員で働き続けるのは難しいと思うことが多い。(女性・30代)
- 男性、女性とも特性はうまく生かしながらも、基本的には1人1人の個を互いに大切に思い、生活できる世の中になれば良いと思う。(女性・50代)
- 男女の区別をつけない教育を小さい頃から学校等で取り入れて欲しい。共同参画のポスターへの応募がきっかけになる児童、生徒がいるのは非常に良い機会だと思っているが、ジェンダー平等の観点からも子供自身、全員に考えさせる場がもっとあって欲しい。(女性・50代)
- このアンケートの結果は、市民へも開示して欲しいです。相談しやすい窓口になるために、担当者は積極的に研修等を実施して誰もが話しやすい・安心する人材を求めます。(事務的な対応をされると相談しにくくなります。)(女性・30代)
- このような問題提起も必要な事と思いますが、経済、利益、物質的豊かさ追求の社会構造の中で、車や家のローン、育児、仕事、家事、地域活動に追われ、歯車のように休まず働いている現状では一般的な人々にとって、空論のようにも感じます。今、必要なのは、何かに追われぬ、ゆとりのある生活、病気にならない体づくり(添加物の無い食事、きれいな水、空気づくり、自然)によって、未来に続く“今”を大切にできる生活。大切な事を何もかもすっ飛ばして、簡易便利で走り続けて何が待っているのでしょうか。原点回帰、人間らしい本当の生き方とはが問われる今です。(女性・70代以上)

- 親の介護で20年正規で働いていた仕事を離職しました。現状のサービスで正規で働き続けるのは難しいのでデイサービス等もう少し制度内で利用できる日数を増やして欲しい。(女性・40代)
- 男女とも若い時から社会に出て、社会性を養っていけば世の中で勉強する事が出来、自分だけでなく相手の事も大切に思う事が出来れば、認め合うようになると思います。(女性・70代以上)
- 一番手伝いが欲しいのは日々の暮らしの中での家族の手です。“自分は〇〇で忙しい”ことを理由に、女性だけ(母親だけ)が自分の時間と体力を消耗しがちです。そこの手伝いが、細やかにあると助かります。(女性・50代)
- 年配の方ほど変化を拒みます。男女平等になるよう世間の動きがあってもなかなか進まない理由だと思います。小さい時からの教育だったのだから仕方ないかと、であれば会社でも政治でも上に立っている上司が年配の方(そういう考えの方)だと男女共同参画社会の実現は難しいかと思います。(女性・40代)
- 日々の生活の中で、男性が優遇されているなど感じる事が多い。私の職場では昨年社内で初めて育休を取得した男性社員がいたが周囲の反応は冷たく幻滅した。女性が産休、育休明けで戻ってきても協力的でない人が多く、自分が結婚、妊娠したいとも思わない。(女性・20代)
- 男女共同参画を謳っても実態が伴っていないことを実感します。例えば市の職員を例にとっても、部課長職への女性起用が非常に少なく、他市町村に比べて、岡谷市は、最低だと思います。素晴らしい資質と人間性を持った女性が沢山いるのに、とても残念です。つまり封建的なのです。昔からの古い観念が蔓延っていて、いつまで経っても変革されない。そんな保守的意識が岡谷市の行政に繋がっているとしたら、市民にとって「楽しく住みよい岡谷市」には、ならないと思うのです。(女性・70代以上)
- 現在自分が妊娠、育休中ということもあり、子育てをしながらの仕事の大変さを感じています。自分の母や義母もまだ働いている世代であり、頼るためには孫の看護休暇のような親世代にも頼りやすい制度があると自分が仕事で無理な時に使いやすと思います。(女性・20代)
- 男女共同参画と言っても、男の人は女の人を下に見る感は無くなっていく、いくら長く職場にいても意見は聴いてもらえない。形ばかりではなく、意識を変えていく事が大切だと思いますが…。急がなくても良い、少しずつ変えていって欲しい。上の人こそ、人の意見を聴ける心を持って指導できればと願います。(女性・50代)
- 誰もが、無理のなく負担が重くないようにお願いしたいです。お世話様です。(女性・50代)
- 男尊女卑の時代が、長すぎたせいか上から目線で女性を見下した物の考え方をする人達が日本のTOPにいる限り、まだまだ一朝一夕にはいかない。(女性・60代)
- 近年優秀な女性が多いと思うので市に地域に上手く組み込まれて活躍できれば良い。(問22 (注:男女共同参画社会を実現していくために、どのような施策を望みますか)のような重いものでなく)(女性・年齢不明)

<男性>

- 対等と平等は違うと思います。男性として優遇されている部分、女性として優遇されている部分、それぞれを手離す覚悟も必要です。(男性・40代)
- 大学の教員OG等社会で活躍してきた女性がいるのだから行政に引き込んでほしい。(男性・60代)
- 若い世代からの意見を吸い上げ、もっと女性が前面に出やすい環境作りが必要かと思う。(男性・60代)
- 知らないことが多いので設問が的確かどうか分かりませんが、私の中での考えを記入させていただきました。子供の時からの教育が大切だと考えます。(男性・70代以上)

- 現在、諸組織のTOP・リーダーとなっている者が、男女均等を即刻実践することが最も効果的だと思います。(男性・70代以上)
- 労働環境・育児休業を男・女共に取得しやすいよう、事業所などの幹部への指導を積極的にして欲しい。(男性・30代)
- 女性を前面に出してだけでなく、先頭に立って色々へ行いたいと思った人が、行えるような環境、制度の整備をお願いします。(男性・20代)
- まだ、「女のくせに」とか「出しゃばり女」とかいう言葉を陰で聞くことがあります。女性が安心して育児ができる社会環境が必要だと思います。(男性・70代以上)
- この事業の推進も女性中心で行わなければ実行性が疑われる。このアンケート(○は1つ)では意見が反映しづらい。せめて2つとか、1、2して選べるようにすべき。(男性・60代)
- 生活と仕事(経済活動)が分離しがちな現代社会、性差ばかりではなく母性(父性)、協調性、社会性などにも大きな個人差があるでしょう。子を育て、命や代を継いでいくことも本来、大切な「社会参画」のはず。雇用者、管理・監督者のみならず、個々人の意識の変改が必要ではないでしょうか。そうした型にはめない啓発が大切でしょう。(男性・60代)
- 市の取り組みに具体性がない。突然アンケートをしても生かせるか疑問。市でも、女性は課長までで、部長、局長人事が無いのに男女共同参画、笑ってしまう!(男性・50代)
- 本アンケートは本当に男女共同に寄与できるのか?疑問である。本心から男女平等充実のために何が足りないかをしっかり突き詰めて、もう一度アンケートをやり直すべきと考えます。(男性・70代以上)
- 「男女共同参画」という言葉がまだ自分の中で良く理解出来ていないので啓発活動を通じ自分も学んで行きたいと思っています。(男性・70代以上)
- 戦後の社会変化の流れは、全体的には正しい方向に向かっていると思える。(男性・60代)
- あるかどうかは知らないが賃金格差を無くせば良いと思う。(男性・20代)
- 保育園(未満児)の確保、先生たちの給料を見合った額へ。手当など。本当に子供たちは先生が大好きで良くしてもらっています。(男性・40代)
- 男女共同参画に反対です。女性が安い給与で働くことにより、労働者全体の給与が下がる。出産・子育てをしてくれる女性がとても少なくなっており、少子化の原因の1つとなっていると考えます。分断を生み、以上の理由から国力を落としている。こんなことに10兆もの予算が使われている。(男性・30代)
- 市役所の窓口や電話交換手に男性職員も起用する。(男性・50代)
- 初めて聞きました。もっと広報等で活動して欲しいです。(男性・40代)
- 男女が均等にと世の中が進んでいるが、全ての女性がそれを望んでいる訳ではない。今のままで良い。又、男女が平等にと言う事は、逆に難しい事。都合の悪い時だけ、平等を主張する人も事実増えている。(男性・50代)
- 体裁ばかりで中身がないイメージが強く、見た目でわかりやすく、ただ女性を数合わせに使っているだけに思える事が多い。能力がない人でも、要職に就けると言う事は、仕事に強い影響があって、余計に男女間の軋轢を生む。(男性・30代)
- その家庭、夫婦にあった形が良いと思います。(男性・40代)
- 啓発は必要だが具体例を挙げ自分や身近な人がそれにあたるか、それに合った改善策は何なのか等考えたり意識してもらうことが大切だと思う。受け入れる行政も、一律的な事務仕事では

なく、その人に合った対応ができるよう多くの知識、経験、学ぼうとする意欲、寄り添える優しさをもった人に対応してもらえらなら安心して相談できる場所になれると思う。平等とは何なのか今一度考えてもらいたい。(男性・50代)

- 男女共同参画という名前だけで、実際はモラル、セクハラ発言で溢れている。上司がやっているのでは何も言えない。我慢をするかその人から離れるために退職が一番の解決の仕方、それしか思い浮かばない。最善の策だと思う。嫌な事をして相手がどう思うか考えられない人に教育・研修は無理。どうにかしてください！！(男性・30代)

<性別不明>

- LGBTQという言葉や男女選択欄の廃止等の現在、「男女共同参画」という言葉自体が相応しくないのでは？(性別不明・50代)
- DVを受けた人の相談窓口はあるけど、相談に乗るだけではなく、被害者の方と一緒に寄り添って、被害者丸投げにならないようにしていただきたいです。(性別不明・20代)